TOA

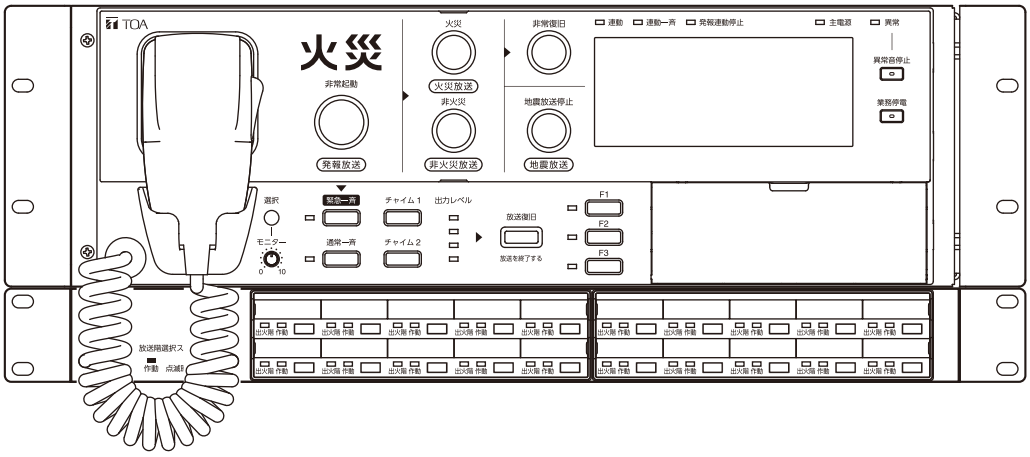
操作説明書

キャビネットラック型非常用放送設備

型名 FS-2500

Ver. 4.0

（FS-2500DS、FS-2500PD 対応版）



保守契約のおすすめ

- 非常用放送設備の保守点検は消防法で義務づけられています。そこで、自ら点検できないお客様に代わって専門技術者が契約によって定期点検を行います。
- 保守契約は設置時に納入業者にお申しつけください。すでに設置済みであるにもかかわらず契約されていないお客様はお急ぎください。
- 保守契約料金は設備とは別に計上してください。

このたびは、TOA キャビネットラック型非常用放送設備をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。正しくご使用いただくために、必ずこの操作説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目　次

安全上のご注意 4

ニカド電池のリサイクルについて 5

使用上のご注意 6

説明書の構成 6

外観図 7
- キャビネットラック CR-413 を使用するとき（例：50 局 660 W） 7
- キャビネットラック CR-273 を使用するとき（例：40 局 360 W） 8

各部の名称とはたらき 9
- 非常用操作パネル FS-2500EP 9
- 増設操作パネル FS-2510EP、FS-2520EP 14
- プリアンプマトリクスパネル FS-2500PM 15
- パワーアンプフレーム FS-2500DF 16
- 非常用電源パネル FS-2500DS 17
- 非常用電源パネル FS-2006DS 18
- 卓上型リモートマイク　RM-500 20
- 卓上型リモートマイク RM-200F 21
- 卓上型リモートマイク拡張ユニット RM-210F 23
- 壁掛型リモートマイク RM-200FW 24
- 壁掛型リモートマイク拡張ユニット RM-220FW 25

放送の種類と概要 26
- 緊急地震放送 26
- 非常放送 26
- 業務放送 26
- 放送モード 27
- 業務停電放送 27
- アナログ一斉放送 27

非常放送のしくみ 28
- 非常放送の起動方法 28
- 音声メッセージ 28
- 非常放送の動作モード 28
- 起動方法と動作モードの関係 29
- 火災放送移行タイマーと一斉移行タイマー 30

非常放送のしかた 31
- 非常放送の操作で使用するスイッチ 31
- 自火報感知器起動の場合 32
- 非常電話・発信機起動の場合 34
- 手動起動の場合 36

音声メッセージの一覧 39
操作パネルの液晶画面表示 40

業務放送のしかた 41
業務放送の種類 41
本体放送のしかた（スイッチ動作設定が通常動作モードの場合） 42
放送階選択スイッチによる BGM 放送のしかた 44
EV 放送のしかた 45
業務用リモコン RM-500 からの放送のしかた 46
業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた
（スイッチ動作設定が通常動作モードの場合） 55
その他端子入力を使用した放送のしかた 58

業務放送の機能 59
放送の優先度 59
放送状態決定ルール 59
本体・非常 RM・業務 RM 放送時の各音源の動作 66
グループ放送（スイッチ動作設定が通常動作モードの場合） 67
液晶画面での業務放送状態表示 68
業務用リモコンの放送状態の表示
（RM-200F/210F/200FW/220FW の場合） 69
通常放送モードと業務緊急モード 72
放送モニター機能 73

業務停電放送 74
業務停電放送とは 74
業務停電放送のしかた 74

緊急地震放送 76
緊急地震放送の流れ 76
緊急地震放送をするときの非常放送の動作 77

日常点検 78
自動点検 78
手動点検 80

ニカド電池の交換について 82

非常放送用語 83

安全上のご注意

- ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

表示について

ここでは、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

図記号について

行為を禁止する記号	行為を強制する記号
分解禁止　禁　止	強　制

⚠ 警告　誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、開閉器を「切」にして販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき

強　制

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

禁　止

内部に異物を入れない

本機の通風口などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

⚠注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

上に重いものを置かない

本機のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

製品の上に乗らない

本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。
倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

電源を入れる前には音量を最小にする

音量を上げたまま電源を入れると、突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

強　制

長時間、音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁　止

ニカド電池の取り扱いに注意する

次のことを必ずお守りください。
守らないと、電池の液もれ・破裂により、火災・けがの原因となることがあります。

- ショート・分解・加熱をしたり、火の中に入れたりしない。
- 電池に直接はんだ付けしない。
- 指定した電池を使用する。
- （+）と（−）に注意し、表示どおり正しく入れる。
- 直射日光・高温・高湿の場所を避けて保管する。

強　制

警告
本装置を住宅環境で使用すると無線障害を引き起こす可能性があります。

ニカド電池のリサイクルについて

ニカド電池のリサイクルにご協力ください

本機にはニカド電池を使用しています。
ニカド電池はリサイクルが可能な、貴重な資源です。
電池の交換および使用済み製品の廃棄に際しては、電池を取り出し、リサイクルへご協力ください。
使用済みの電池は、捨てないで、お買い上げの販売店または当社営業所へ返却してください。

使用上のご注意

● 取付工事は販売店におまかせください。
本機の移動や別売ユニットの工事は販売店にお申しつけください。

● 汚れは柔らかい布で軽くふいてください。
ベンジン・シンナー・アルコール類・化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。
変形や変色の原因になります。

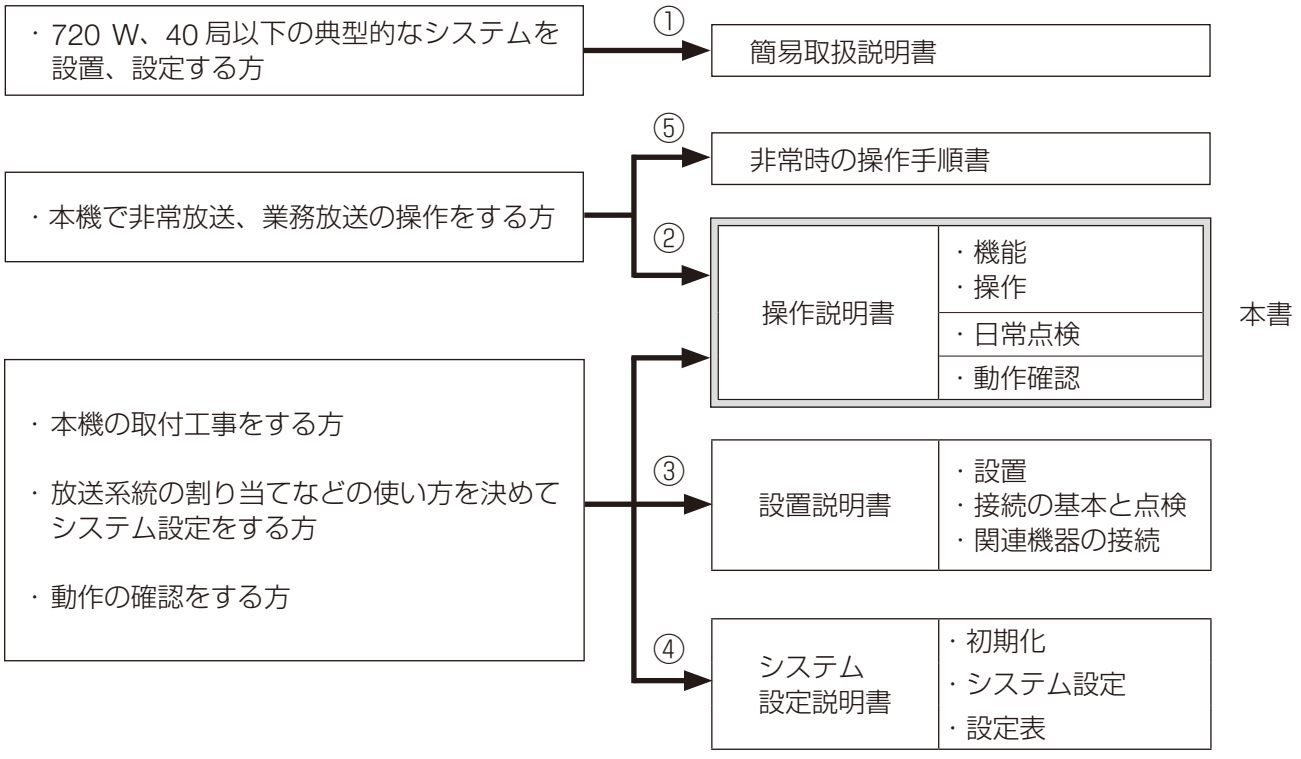
● 「非常時の操作手順書」（シート型）は本機の近くに置いてください。
操作手順書（シート型）をよく見える所に置いてください。

説明書の構成

キャビネットラック型非常用放送設備 FS-2500 システムには次の説明書があります。

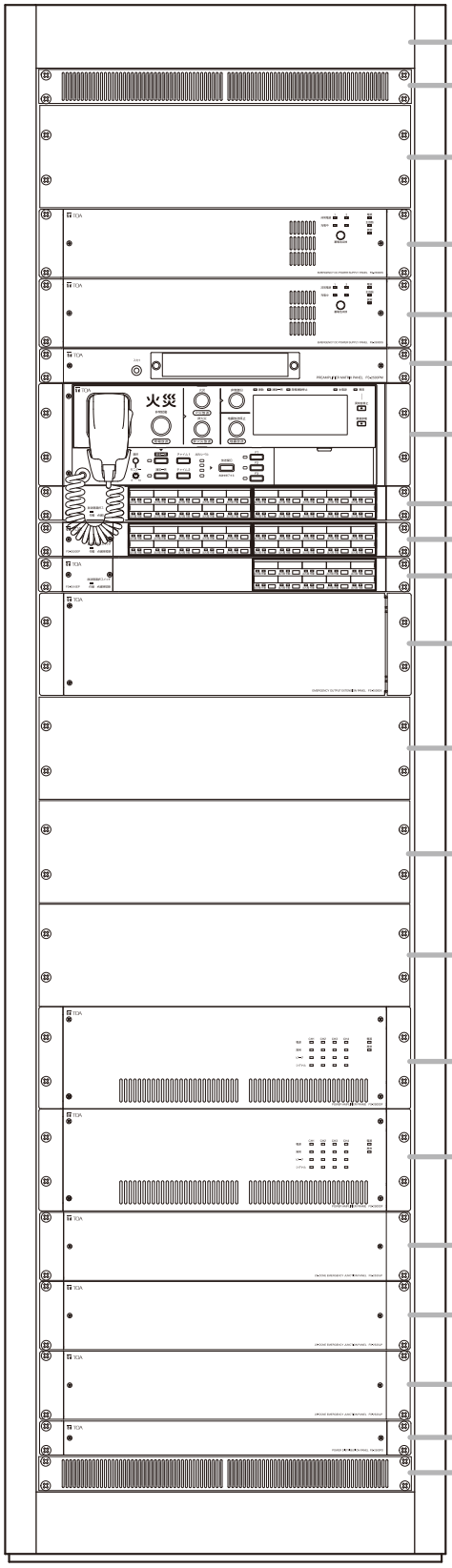
	説明書の名称	説明書の概要	備考
①	簡易取扱説明書	720 W、40 局以下の標準的なシステム構築に必要な内容のみ記載	紙で付属
②	操作説明書	非常時および日常点検などの操作全般	紙で必要な場合は、営業所へお問い合わせください。
③	設置説明書	設置、接続全般	
④	システム設定説明書	FS-2500EP の液晶画面でのシステム設定など	
⑤	非常時の操作手順書	シート型の簡易手順書	紙で付属

すべて TOA 商品データダウンロードサイト（https://www.toa-products.com/）で公開しています。
お客様の目的により、お手元にない説明書が必要な場合は、上記サイトからダウンロードしてお使いください。



外観図

■ キャビネットラック CR-413 を使用するとき（例：50 局 660 W）



キャビネットラック　CR-413

パーフォレイテッドパネル　PF-013B

ブランクパネル　BK-033B

非常用電源パネル　FS-2500DS

プリアンプマトリクスパネル　FS-2500PM

非常用操作パネル　FS-2500EP

増設操作パネル　FS-2520EP

増設操作パネル　FS-2510EP

非常系統拡張パネル　FS-2500EX

ブランクパネル　BK-033B

パワーアンプフレーム
＋デジタルパワーアンプモジュール　FS-2500DF
+ FS-024DA + FS-012DA

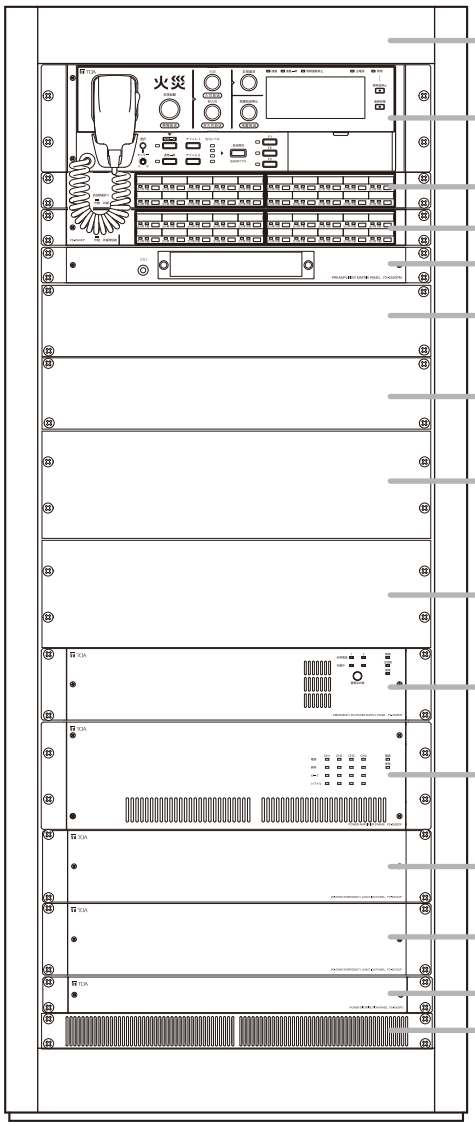
パワーアンプフレーム
+ デジタルパワーアンプモジュール　FS-2500DF
+ FS-012DA + FS-006DA
+ FS-012DA

非常用ジャンクションパネル　FS-2520JP

電源分配パネル　FS-2500PD

通気パネル　PF-013B

■ キャビネットラック CR-273 を使用するとき（例：40 局 360 W）



キャビネットラック　CR-273

非常用操作パネル　FS-2500EP

増設操作パネル　FS-2520EP

プリアンプマトリクスパネル　FS-2500PM

ブランクパネル　BK-023B

ブランクパネル　BK-033B

非常用電源パネル　FS-2500DS

パワーアンプフレーム　FS-2500DF
＋デジタルパワーアンプモジュール　+ FS-024DA + FS-012DA

非常用ジャンクションパネル　FS-2520JP

電源分配パネル　FS-2500PD

通気パネル　PF-013B

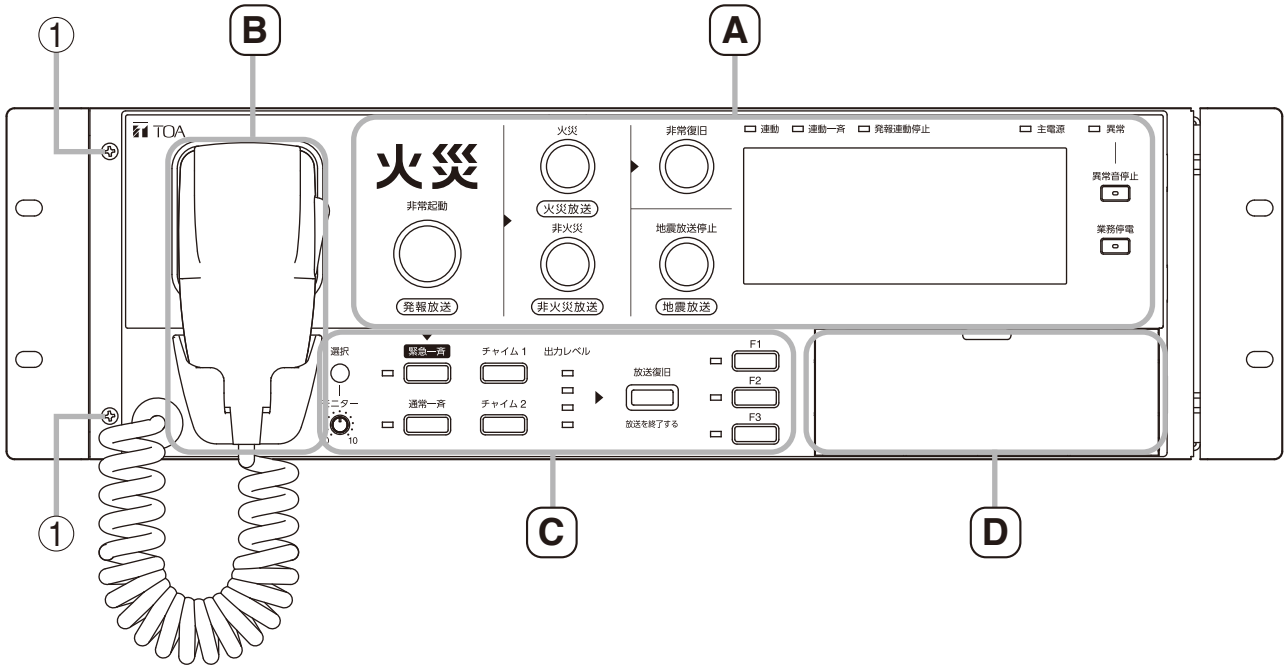
各部の名称とはたらき

■ 非常用操作パネル FS-2500EP

緊急地震放送および四ヶ国語の認定評価に対応したラック型非常用放送設備 FS-2500 シリーズ専用の非常用操作パネルです。
EIA 規格に適合するラックに取り付けることができます。(3U サイズ*)
非常放送以外に緊急地震放送、EV 放送、業務放送ができます。
付属の SD カードを使用することで、設定データの読み出し・書き込み、履歴の読み出し、および音源データの読み出し・書き込みが行えます。
フロントマイクは音量調節が可能です。ただし、非常放送時には音量調節器の位置に関係なく最大音量になります。

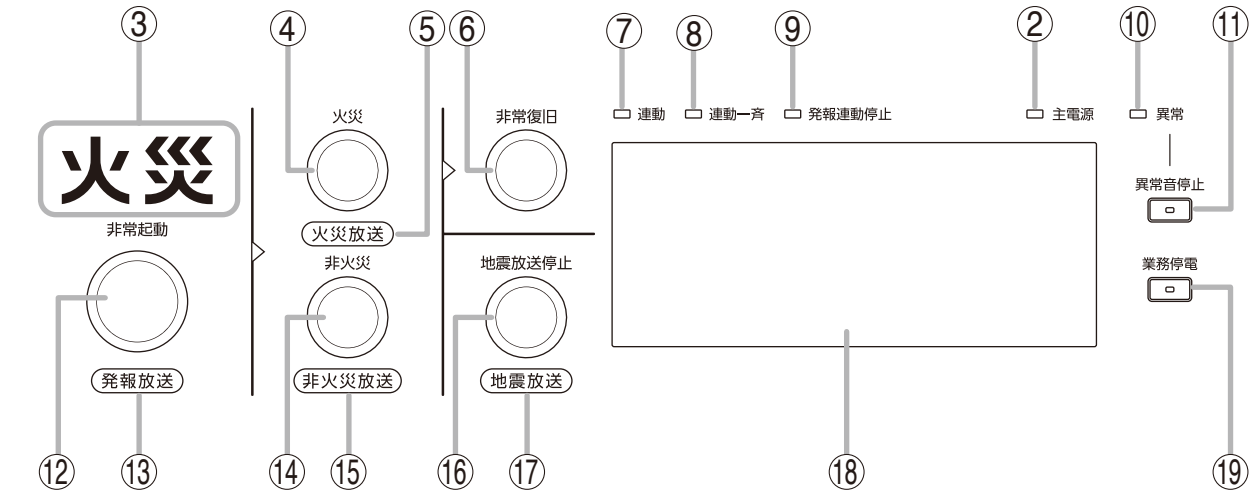
* 1U サイズ = 44.5 mm（基準サイズ）

[操作部]



1. 前面扉固定ねじ

A 部



2. 主電源表示灯（緑）
本機に主電源が正常に供給されているときに点灯します。停電中および蓄電池動作時は消灯します。

3. 火災表示灯（赤）
自火報の感知器、非常電話、または発信機から起動がかかると自動的に点灯します。また、手動で非常起動スイッチ（12）を押したときに点灯します。

4. 火災放送スイッチ
火災を確認したときに押して、火災放送をします。
（☞ P. 31「非常放送のしかた」）

5. 火災放送表示灯（赤）
火災放送の状態を表します。
点灯：火災放送中
点滅：火災放送の前後

6. 非常復旧スイッチ
非常放送を復旧するときに押します。非常放送状態が解除されたことを確認し、感知器・非常電話・発信機などをすべて復旧させてから押してください。
（☞ P. 31「非常放送のしかた」）

7. 自火報連動モード表示灯（緑）
本機が自火報などとの連動モードに設定されているときに点灯します。
モードの設定はシステム設定時に行います。
（☞ P. 28「非常放送の動作モード」、別冊のシステム設定説明書「非常放送設定」）

8. 自火報連動一斉モード表示灯（緑）
本機が自火報などとの連動一斉モードに設定されているときに点灯します。
モードの設定はシステム設定時に行います。
（☞ P. 28「非常放送の動作モード」、別冊のシステム設定説明書「非常放送設定」）

9. 発報連動停止表示灯（緑）
本機が発報連動停止モードに設定されているときに点灯します。
モードの設定はシステム設定時に行います。
（☞ P. 28「非常放送の動作モード」、別冊のシステム設定説明書「非常放送設定」）

ご注意
発報連動停止モードに設定するときは、所轄の消防署の承認が必要です。

10. 異常表示灯（橙）
システムに異常が発生したときに点滅します。
異常音停止スイッチ（11）を押すと点灯に変わります。原因を取り除いた後、異常解除キー（37）を押すと消灯します。
また、アナログ一斉放送*状態のときにも点灯する表示灯で、点灯中はすべての回線に放送が流れます。
※ 異常が発生したときは、直ちに販売店または保守契約店にご連絡ください。
* FS-2500 システムの CPU の暴走などで、非常放送、緊急地震放送、および業務放送ができないときに、フロントマイクから行う放送です。すべてのスピーカー回線に最大音量で放送されます。

11. 異常音停止スイッチ
システムに異常が発生したときに操作します。
異常警告音を停止するときや、液晶画面（18）の異常表示画面を操作するときに使用します。
（☞ P. 78「日常点検」）

12. 非常起動スイッチ
手動で非常放送を起動するとき、または手動で感知器発報放送から火災放送へ移行するときに押します。
（☞ P. 31「非常放送のしかた」）

13. 発報放送表示灯（橙）
感知器発報放送の状態を表します。
点灯：発報放送中
点滅：発報放送の前後

14. 非火災放送スイッチ
火災が発生していないことを確認したときに押して、非火災報放送をします。
（☞ P. 31「非常放送のしかた」）

15. 非火災放送表示灯（緑）
非火災報放送の状態を表します。
点灯：非火災報放送中
点滅：非火災報放送の後

16. 地震放送停止スイッチ
緊急地震放送を停止するときに押します。
緊急地震放送よりも非常放送を優先して行いたいときに押します。

17. 地震放送表示灯（橙）
緊急地震放送時に点滅します。

18. 液晶画面
バックライト付きです。
非常放送時に必要な操作ガイドの表示や、業務放送時の放送状態の表示、および各種の異常状態の表示を行います。

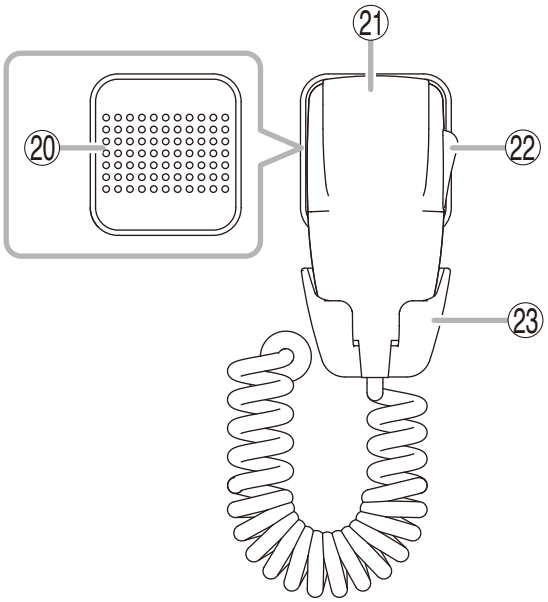
メ　モ

何も操作をしない、かつ自火報を含む外部機器からの制御が何も働いていない状態が 3 分続くと、バックライトは消灯します。

19. 業務停電放送起動スイッチ
業務停電放送を起動します。停電時に押すと、システムが停電待機状態から立ち上がります。

ご注意
業務停電放送をするには、業務用途の電源パネルの設置および事前の設定が必要です。
（☞ P. 74「業務停電放送のしかた」、別冊の設置説明書「業務停電放送を行うときの接続と設定」、別冊のシステム設定説明書「機器構成設定」）

B 部



20. モニタースピーカー
放送のモニター、非常放送時の音声ガイドメッセージ、および異常時の警告音が流れます。ハウリング防止のため、マイク放送中はモニタースピーカーからの出力は停止します。

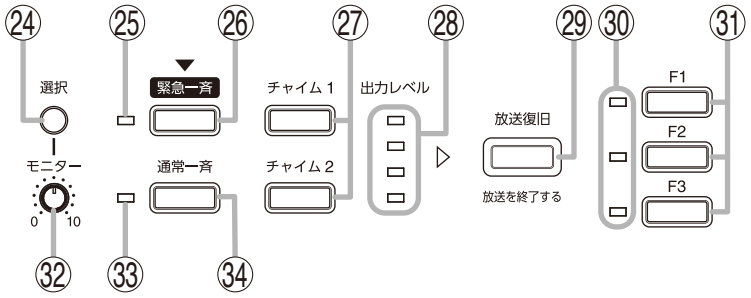
21. フロントマイク
非常放送および業務放送時に使用するマイクです。放送階を選択した状態で、トークスイッチ（22）を押しながらマイク放送をします。
業務放送時のマイク放送の音量は、設定操作部のマイク音量調節器（39）を回して調節することができます。

ご注意
非常放送時はマイク音量調節器の位置に関係なく最大音量になります。
（☞ P. 31「非常放送のしかた」、P. 42「本体放送のしかた」）

22. トークスイッチ
マイク放送時に使用します。
放送階を選択した状態で、このスイッチを押しながら放送します。
（☞ P. 42「本体放送のしかた」）

23. マイクホルダー
マイクを保持するホルダーです。

C 部



24. モニター選択スイッチ
モニターをする出力系統を切り換えます。
（☞ P. 73「放送モニター機能」）

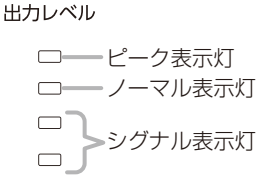
25. 緊急一斉放送表示灯（緑）
緊急一斉放送スイッチ（26）で放送階を選択して放送をしているときに点灯します。ただし、スイッチ動作設定*1 が独立制御モードかつ作動表示灯設定が回線動作中 ON の場合、業務放送中は点灯しません。
また、緊急一斉放送スイッチと同じグループ回線に設定された増設操作パネルの放送階選択スイッチから業務緊急モードで放送する場合にも点灯します。
非常放送時は一斉移行タイマーのタイムアップ後に点灯します。

26. 緊急一斉放送スイッチ
システム設定時に本機に設定した一斉区域に放送をするときに押します。
緊急一斉放送は、アッテネーターの設定に関係なく最大音量で放送が流れます。ただし、スイッチ動作設定*1 が独立制御モードに設定されている場合、アッテネーターの有効／無効は、放送階選択スイッチの業務緊急*1 設定に従います。
（☞ P. 31「非常放送のしかた」、P. 42「本体放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「機器制御設定」）

27. チャイムスイッチ［チャイム 1、チャイム 2］
業務放送で、チャイムを鳴らすスイッチです。
工場出荷時は下記のとおり設定されています。
チャイム 1：上り 4 音
チャイム 2：下り 4 音
（☞ P. 42「本体放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「機器制御設定」）

28. 放送出力レベル表示灯

モニターをしている放送の出力レベルを表示します。ピーク表示灯が点灯しない範囲で使用してください。



表示灯	色	点灯レベル
ピーク表示灯	赤	+0.5 dB *2
ノーマル表示灯	橙	−8 dB *2
シグナル表示灯	緑	−22 dB *2

29. 放送復旧スイッチ

放送終了時に押します。選択されていた放送階がすべて解除されます。

ご注意

非常放送の場合、放送復旧スイッチを押すといったん放送を終了しますが、非常放送状態は引き続き継続されます。ただし、一斉移行タイマーのタイムアップ後は、操作が無効になります。

（☞ P. 42「本体放送のしかた」）

30. ファンクションスイッチ表示灯（緑）

ファンクションスイッチ（31）を押して EV 放送をしている間、点灯します。

31. ファンクションスイッチ［F1、F2、F3］

業務放送で、メッセージをワンタッチで放送するスイッチです。

メッセージはシステム設定時に登録します。

（☞ P. 45「EV 放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「機器制御設定」）

32. モニター音量調節器

モニタースピーカー（20）の音量を調節します。時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

ハウリング防止のため、マイク放送中はモニタースピーカーからの出力は停止します。

ご注意

非常放送時、緊急地震放送時は、音量調節器の位置に関係なく最大音量になります。

（☞ P. 73「放送モニター機能」）

33. 通常一斉放送表示灯（緑）

通常一斉放送スイッチ（34）で放送階を選択して放送をしているときに点灯します。ただし、スイッチ動作設定*1 が独立制御モードかつ作動表示灯設定が回線動作中 ON の場合、業務放送中は点灯しません。

また、通常一斉放送スイッチと同じグループ回線に設定された増設操作パネルの放送階選択スイッチから通常放送モードで放送する場合にも点灯します。

非常放送時は消灯します。

34. 通常一斉放送スイッチ

システム設定時に本機に設定した一斉区域に放送をするときに押します。

通常一斉放送は、アッテネーターによる音量の調節が可能です。ただし、スイッチ動作設定*1 が独立制御モードに設定されている場合、アッテネーターの有効／無効は、放送階選択スイッチの業務緊急*1 設定に従います。

ご注意

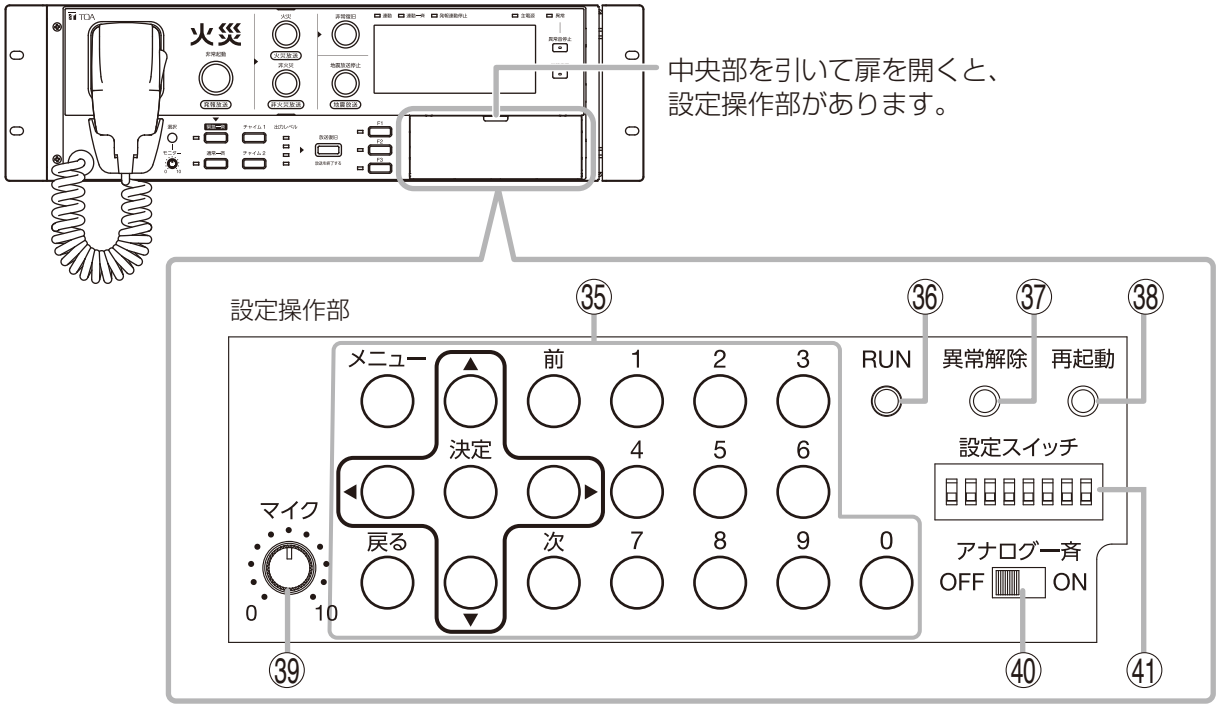
非常放送時はアッテネーターの設定に関係なく最大音量になります。

（☞ P. 31「非常放送のしかた」、P. 42「本体放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「機器制御設定」）

*1 スイッチ動作設定および放送階選択スイッチの業務緊急の設定について、詳しくは FS-2500 システム設定説明書をお読みください。

*2 0 dB = 1 V

D 部



35. システム設定キー
システム設定のときに使用します。

36. RUN 表示灯（緑）
本機が正常に動作している場合は、約 1 秒周期で点滅します。
※ 異常が発生したときは、直ちに販売店または保守契約店にご連絡ください。

37. 異常解除キー
機器に異常が発生したときに、異常状態を解除します。異常の原因を取り除いた後に押してください。
押すと、液晶画面の異常表示が消えます。
（☞ P. 78「日常点検」）

38. 再起動キー
1 秒以上押し続けると、システムを再起動させます。動作履歴が保存されます。

ご注意

再起動すると、現在行われている放送は停止します。

39. マイク音量調節器
フロントマイクの音量を調節します。時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

ご注意

非常放送時は音量調節器の位置に関係なく最大音量になります。
（☞ P. 42「本体放送のしかた」）

40. アナログ一斉放送切換スイッチ
アナログ一斉放送*のオン／オフを切り換えます。
ON 側にすると、フロントマイクによる一斉放送が全回線に流れます。異常発生時に放送したいときに使用してください。（工場出荷時の設定：OFF）
* FS-2500 システムの CPU の暴走などで、非常放送、緊急地震放送、および業務放送ができないときに、フロントマイクから行う放送です。すべてのスピーカー回線に最大音量で放送されます。

41. 設定スイッチ

※ 左端からスイッチ 1～8

（工場出荷時の設定：すべて OFF）

- **スイッチ 1**
  履歴データの保存を行います。
  （☞ 別冊のシステム設定説明書「履歴データ保存（EP → SD）」）
  ON ：履歴データを SD カードに保存します。
  OFF ：通常は OFF で使用します。
- **スイッチ 2**
  異常発生時に異常警告音を鳴らすかどうかを設定します。
  ON（🔇）：異常発生時に異常警告音を鳴らしません。
  OFF（🔊）：異常発生時に異常警告音を鳴らします。
- **スイッチ 3 ～ 8**
  使用しません。設定を変更しないでください。

■ 増設操作パネル FS-2510EP、FS-2520EP

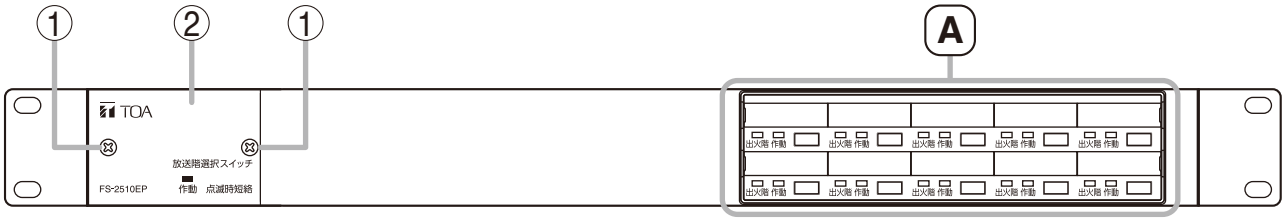
- EIA 規格に適合するラックに取り付けることができる 1U サイズ*1 の増設操作パネルです。
- 非常用操作パネル FS-2500EP に接続して放送階選択スイッチを設けるためのパネルです。
  1 台あたりの放送階選択スイッチ数は以下のとおりです。

品番	スイッチ数	備考
FS-2510EP	10	増設操作パネルの末端に 1 台のみ接続可能
FS-2520EP	20	

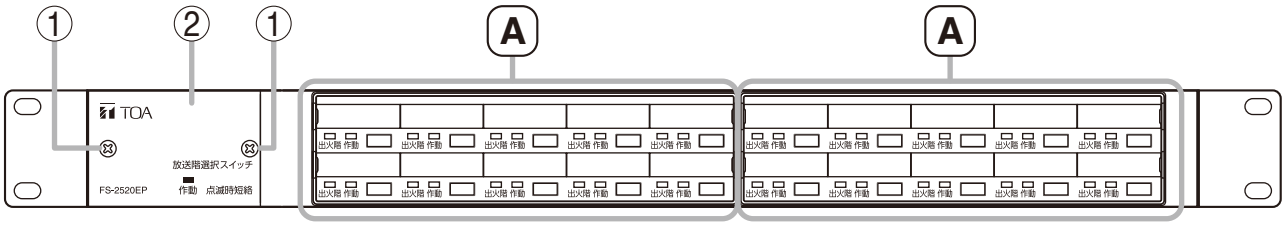
- 合計で最大 25 台が接続でき、最大 500 個の放送階選択スイッチを設けることができます。

*1 1U サイズ = 44.5 mm（基準サイズ）

[FS-2510EP 操作部]



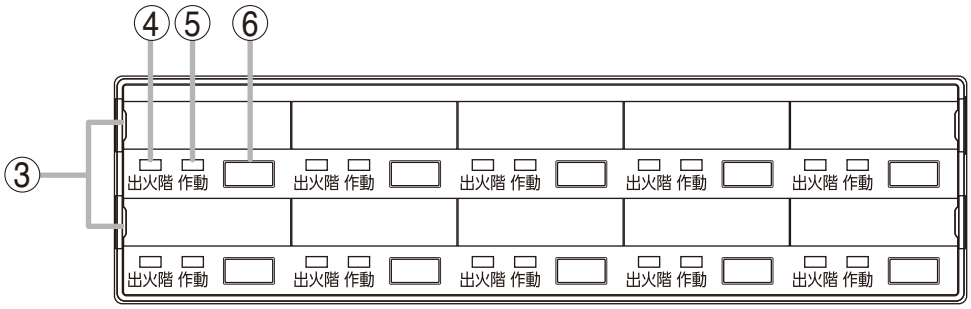
[FS-2520EP 操作部]



1. 通線部カバー固定ねじ

2. 通線部カバー

A 部



3. 記名カード挿入部
付属の記名カードを挿入するスペースです。
別冊のシステム設定説明書に入っているコピー台紙を利用して記名カードを作成することもできます。
（☞ 別冊のシステム設定説明書「記名カードの取り付け」）

4. 出火階表示灯（赤）
非常時に出火階を表します。
自火報から階別信号が入力されると、該当する放送階選択スイッチ（6）の出火階表示灯が点灯します。
（☞ P. 31「非常放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「機器制御設定」）

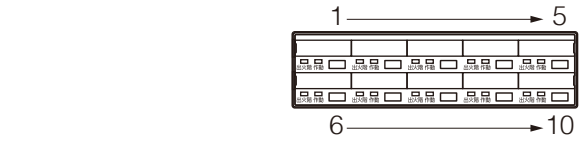
5. 作動・短絡表示灯（緑）
放送階選択スイッチ（6）に登録されている回線の放送状態および短絡状態を表します。
消灯：回線未使用
点灯：対象回線が選択中で、優先度により 1 回線以上に放送中*2
点滅：回線の一部またはすべての回線が短絡

*2 作動表示灯設定により点灯内容が異なります。
詳しくはP. 67「グループ放送」をお読みください。

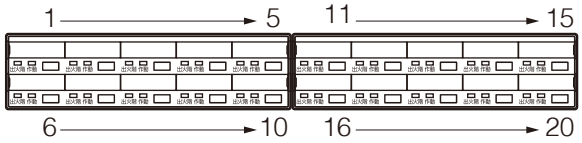
6. 放送階選択スイッチ
非常放送または業務放送をするときに、放送をする回線を選択します。

放送をする回線は、システム設定時に各スイッチに個別（1 回線）またはグループ（複数回線）を登録して使用します。
スイッチ番号は以下のとおりです。

・FS-2510EP



・FS-2520EP



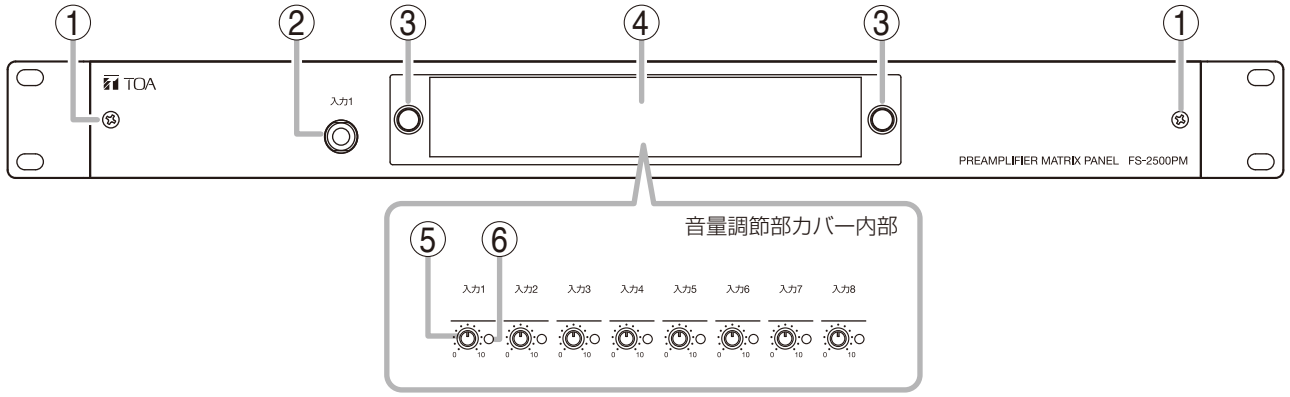
（☞ P. 31「非常放送のしかた」、P. 42「本体放送のしかた」、P. 44「放送階選択スイッチによるBGM 放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「機器制御設定」）

■ プリアンプマトリクスパネル FS-2500PM

- EIA 規格に適合するラックに取り付けることができる 1U サイズ*1 のプリアンプマトリクスパネルです。
- 非常用操作パネル FS-2500EP に最大 3 台の接続が可能で、業務放送の音声入力数を増やすことができます。また、制御入力や制御出力端子を備えていますので、外部からの業務放送起動を受けたり、放送状態により外部機器を制御することができます。
- 1 台あたり 8 の音声入力を装備しています。FS-2500EP に FS-2500PM を 3 台接続することにより、最大 25 の音声入力を構成でき、各種音源が接続できます。
- 1 台あたり 20 の制御入力と 10 の制御出力があり、FS-2500EP に FS-2500PM を 3 台接続することにより、最大 62 の制御入力と最大 38 の制御出力を設けることができます。

*1 1U サイズ = 44.5 mm（基準サイズ）

[前面]



1. 前面パネル取付ねじ

2. 入力 1 ジャック
マイクのホーンプラグを差し込みます。
この入力 1 は、後面部の同じ入力 1 に対して優先の機能を持っています。この入力 1 ジャックにホーンプラグを差し込むことにより、後面の音声入力端子 1 の入力が切れます。

3. 音量調節部カバーつまみ
両方のつまみを引くと、音量調節部カバーが取り外せます。

4. 音量調節部カバー
このカバー内部に各入力の音量調節器があります。

5. 音量調節器［入力 1 ～入力 8］
各入力の音量調節器です。左から入力 1 ～入力 8 の順に配置されています。
時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回し切ると音量が 0 になります。

6. 信号表示灯（緑）
各入力の信号表示灯です。一定レベル以上の信号が入力されると点灯します。
音量調節器を最大位置にしたときに、入力レベル設定と点灯する信号レベルはおおよそ以下のようになります。

入力レベル設定	点灯レベル
0 dB *2	−40 dB *2
−20 dB *2	−60 dB *2
−40 dB *2	−80 dB *2
−60 dB *2	−100 dB *2

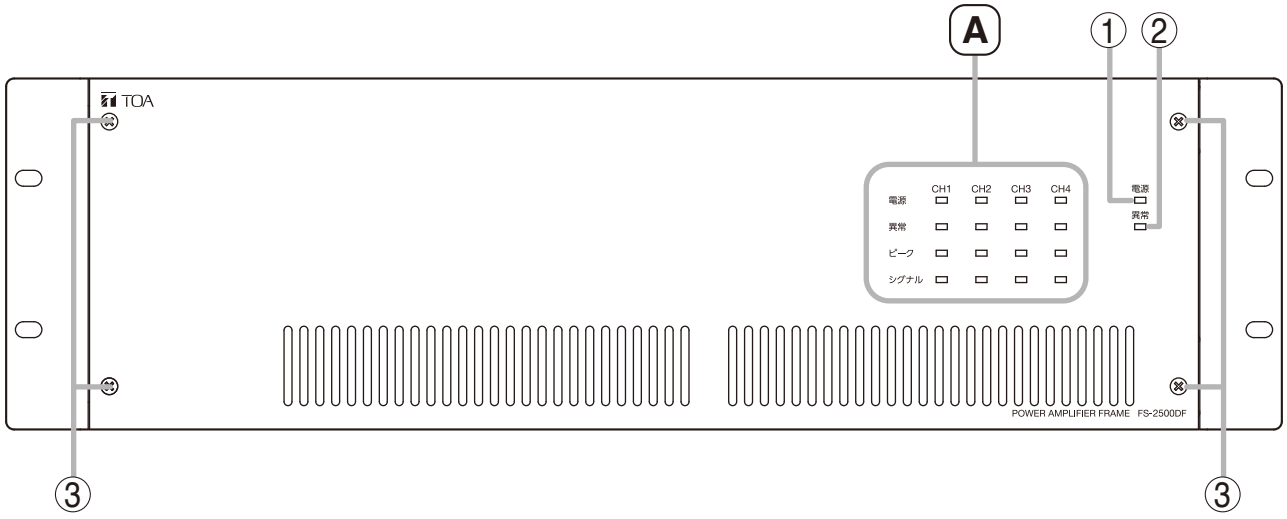
*2 0 dB = 1 V

■ パワーアンプフレーム FS-2500DF

EIA 規格に適合するラックに取り付けることができる、3U サイズ*1 のパワーアンプフレームです。デジタルパワーアンプモジュール FS-006DA/012DA/024DA を最大 4 台収納でき、最大定格出力 960 W のパワーアンプを構成できます。配線はフロント左側に設けられた通線スペースに通すことができます。また、スロット方式でデジタルパワーアンプモジュールを前面から抜き差しでき、メンテナンスが行いやすい構造になっています。

*1 1U サイズ = 44.5 mm（基準サイズ）

[前面]



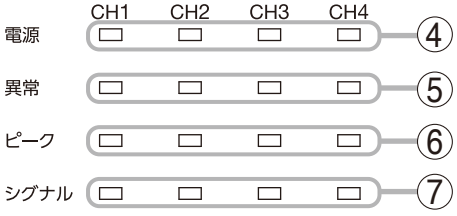
1. 電源表示灯（緑）
本機への給電状態を表します。
点灯：非常用電源パネルから正常に給電されています。
消灯：非常用電源パネルからの給電が正常に行われていません。

2. 異常表示灯（橙）
本機に異常が発生したときに点滅します。
※ 点滅したときは、直ちに販売店または保守契約店にご連絡ください。

3. 前面パネル取付ねじ

A 部

本機のモジュールスロットに収納されているパワーアンプモジュールの状態をチャンネルごとに表示します。CH1 が最も左に収納されているパワーアンプモジュールに対応します。



4. 電源表示灯（緑）
パワーアンプモジュールへの給電状態を表します。
点灯：パワーアンプフレームまたは電源パネルから正常に給電されています。
消灯：パワーアンプフレームおよび電源パネルからの給電が正常に行われていません。または、モジュールスロットにパワーアンプモジュールが入っていません。

5. 異常表示灯（橙）
パワーアンプモジュールに異常が発生したときに点滅します。
※ 点滅したときは、直ちに販売店または保守契約店にご連絡ください。

6. ピーク表示灯（赤）
パワーアンプモジュールに約 +0.5 dB*2 を超えるレベルの音声信号が入力されると点灯します。
ピーク表示灯が点灯しない範囲で使用してください。

7. シグナル表示灯（緑）
パワーアンプモジュールに約 −22 dB*2 を超えるレベルの音声信号が入力されると点灯します。

*2 0 dB = 1 V

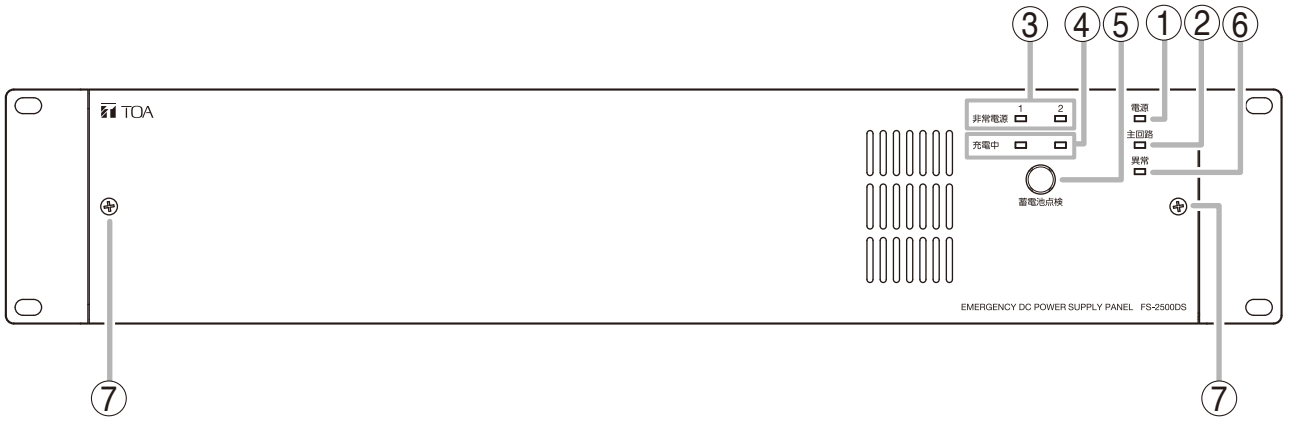
■ 非常用電源パネル FS-2500DS

EIA 規格に適合するラックに取り付けることができる 2U サイズ*1 の非常用電源パネルです。
また非常用電源パネルとは別に、本機を業務用電源パネルとしてシステムに追加すると、業務停電専用の無停電電源パネルとして使用できます。

*1 1U サイズ = 44.5 mm（基準サイズ）

ご注意
電源分配パネル FS-2500PD の使用が必要です。

[前面]



1. 電源表示灯（緑）
常用電源での動作時に点灯します。

2. 主回路表示灯（緑）
主回路*2 の電源の状態を表します。
点灯：正常
消灯：異常
*2 常用電源動作中（蓄電池点検中を除く）は主電源の状態を表し、非常電源動作中は非常電源の状態を表します。
（☞ P. 80「電源の点検のしかた」）

3. 非常電源表示灯（緑）
蓄電池の状態を表します。
点灯：正常
点滅：電圧が低下（正常動作は可能）
消灯：異常
この表示灯は点検ボタンを押したとき、および停電時に常用電源から非常電源に切り換わったときに機能します。
（☞ P. 80「電源の点検のしかた」）

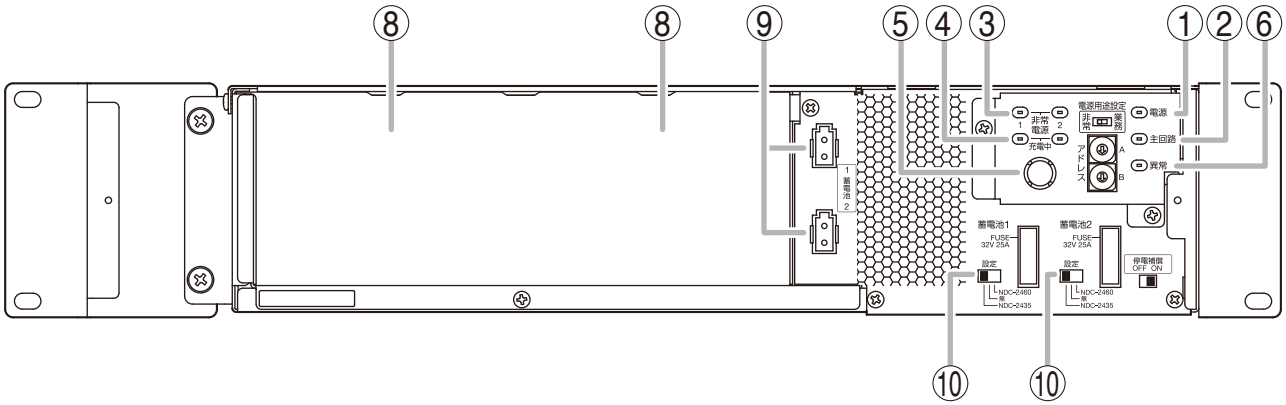
4. 充電中表示灯（緑）
蓄電池が充電中のときに点灯します。
※蓄電池が接続されていないと点灯しません。
（☞ P. 80「電源の点検のしかた」）

5. 蓄電池点検スイッチ
蓄電池を点検するときに使用します。
（☞ P. 80「電源の点検のしかた」）

6. 異常表示灯（橙）
本機に異常が発生したときに点滅します。
※ 点滅したときは、直ちに販売店または保守契約店にご連絡ください。

7. 前面パネル取付ねじ

[前面パネル内部]



8. 蓄電池収納部

停電時に放送を行うために必要となる蓄電池を収納するスペースです。2 つ収納することができます。
蓄電池は NDC-2435 または NDC-2460 が使用できます。

ご注意

蓄電池の寿命は標準で約 4 年です。これを過ぎると停電中の放送に問題を起こす恐れがあります。点検時のエラー発生の有無に関わらず、全数交換をしてください。
また、設置環境によっては、これより短期間で寿命となる場合もあります。点検時にエラーが発生したときは、速やかに蓄電池を交換してください。
（☞ P. 82「ニカド電池の交換について」）

9. 蓄電池コネクター

ニカド電池を接続します。
（☞ P. 82「ニカド電池の交換について」）

10. 蓄電池設定スイッチ

蓄電池コネクターに接続した蓄電池の種類を設定します。蓄電池コネクター 1 の設定は蓄電池設定スイッチ 1 で、蓄電池コネクター 2 の設定は蓄電池設定スイッチ 2 で行います。
NDC-2435 ：NDC-2435 を接続したとき
無　　：蓄電池を接続しないとき
NDC-2460 ：NDC-2460 を接続したとき
（工場出荷時の設定：NDC-2435）

ご注意

ニカド電池を接続していても、蓄電池設定スイッチ 1、2 ともに「無」に設定していると、使用できません。

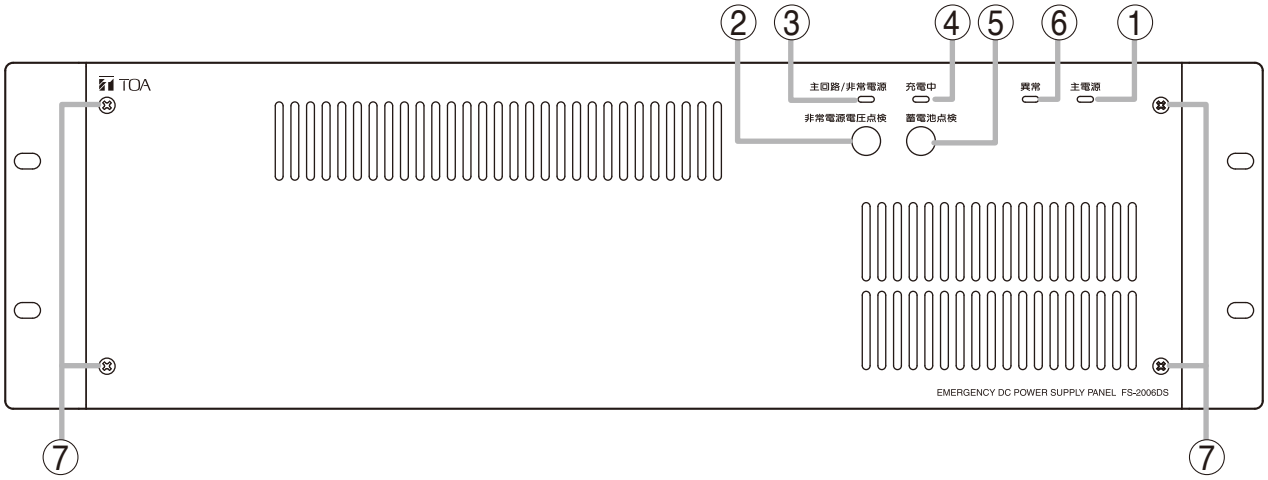
※ 前面パネル内部の上記以外の部分は、本書で説明する操作には使用しません。
前面パネル内部のすべての名称とはたらきについては、別冊の FS-2500 設置説明書で説明しています。

■ 非常用電源パネル FS-2006DS

EIA 規格に適合するラックに取り付けることができる 3U サイズ*1 の非常用電源パネルです。
また非常用電源パネルとは別に、本機を業務用電源パネルとしてシステムに追加すると、業務停電専用の無停電電源パネルとして使用できます。

*1 1U サイズ = 44.5 mm（基準サイズ）

[前面]



1. 主電源表示灯（緑）
主電源での動作時に点灯します。

2. 非常電源電圧点検スイッチ
非常電源の出力電圧を確認するためのスイッチです。
点検時に使用します。
（☞ P. 80「電源の点検のしかた」）

3. 主回路／非常電源表示灯（緑）
主回路*2の電源の状態を表します。
点灯：正常
点滅：電圧が低下（正常動作は可能）
消灯：異常
*2 常用電源動作中（蓄電池点検中を除く）は主電源の状態を表し、それ以外は非常電源の状態を表します。
（☞ P. 80「電源の点検のしかた」）

4. 充電中表示灯（緑）
蓄電池が充電中のときに点灯します。
（☞ P. 80「電源の点検のしかた」）

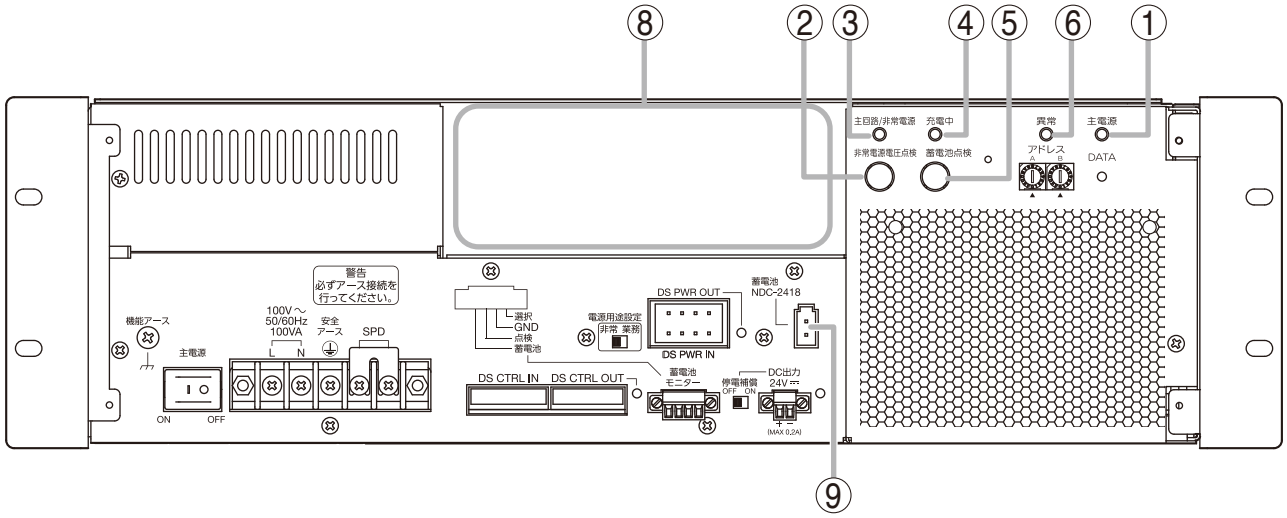
5. 蓄電池点検スイッチ
蓄電池を点検するときに使用します。
（☞ P. 80「電源の点検のしかた」）

6. 異常表示灯（橙）
本機に異常が発生したときに点滅します。
※ 点滅したときは、直ちに販売店または保守契約店にご連絡ください。

7. 前面パネル取付ねじ

[端子部]

前面パネル取付ねじ 4 本を緩めて前面パネルを外すと、内部は端子部になっています。



8. 蓄電池収納部
停電時に放送を行うために必要となる蓄電池を収納するスペースです。

> **⚠注意**
> 蓄電池は必ずニカド電池 NDC-2418 を使用してください。

ご注意
蓄電池の寿命は標準で約 4 年です。
これを過ぎると停電中の放送に問題を起こす恐れがあります。点検時のエラー発生の有無に関わらず、全数交換をしてください。
また、設置環境によっては、これより短期間で寿命となる場合もあります。点検時にエラーが発生したときは、速やかに蓄電池を交換してください。
（☞ P. 82「ニカド電池の交換について」）

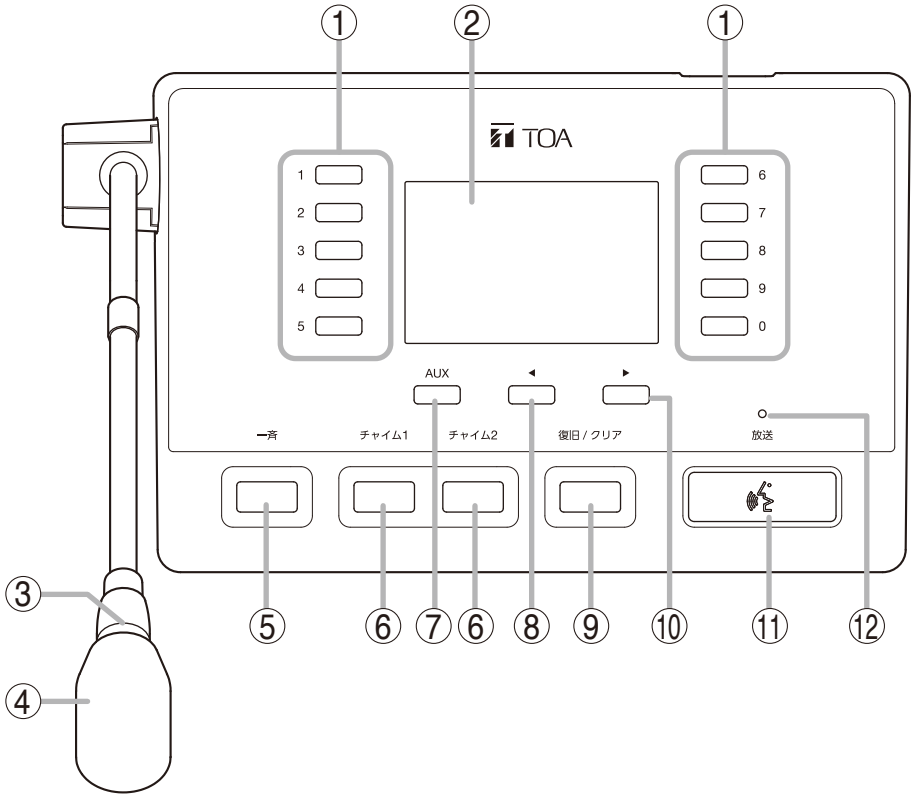
9. 蓄電池コネクター
指定のニカド電池を接続します。
（☞ P. 82「ニカド電池の交換について」）

※ 端子部の上記以外の部分は、本書で説明する操作には使用しません。
端子部のすべての名称とはたらきについては、別冊の FS-2500 設置説明書で説明しています。

■ 卓上型リモートマイク RM-500

業務放送に使用する卓上型のリモートマイクです。
液晶画面に任意の回線やグループ名称を放送先として表示することができ、キー操作によりあらかじめ登録しておいた最大 80 局への放送ができます。
AUX キーにより、マイク放送の有無にかかわらず、外部音声のみの制御もできます。
音声明瞭化機能により、マイク音声が雑音環境下でも聞き取りやすくなり、マイクに近づいたり離れたりしても適切なレベルで音声を拾いやすくなります。
別売の壁掛金具を使用することにより、壁に取り付けることもできます。

[操作面]



1. 数字キー（0 ～ 9）
通常は液晶画面に表示されている放送先の番号を選択します。
メニュー画面表示中にはメニュー項目の番号、選択肢の番号を選択します。

2. 液晶画面
通常は設定された放送先と放送の状態を表示します。
底面の設定スイッチのスイッチ 6 を ON にすると、ダイレクト選択モードに切り換わり、回線番号登録画面が表示されます。
底面の設定スイッチのスイッチ 7 を ON にすると、メニュー画面に切り換わります。
（☞ 別冊の設置説明書「各部の名称とはたらき」の「卓上型リモートマイク RM-500」）

3. マイク表示灯（緑）
マイク放送中に点灯します。ただし、AUX 入力端子に接続したマイクからの音声を放送しているときは点灯しません。
システム設定により、点灯しないようにすることもできます。

4. マイク
業務放送時に使用するマイクです。

5. 一斉キー
システム設定時に設定した一斉区域に放送をするときに押します。
システム設定時に通常一斉放送か、緊急一斉放送かを選択します。
通常一斉放送（システム設定時に業務緊急「なし」に設定）に設定したときは、アッテネーターによる音量の調節が可能です。
緊急一斉放送（システム設定時に業務緊急「あり」に設定）に設定したときは、アッテネーターの設定に関係なく最大音量で放送が流れます。
（☞ P. 46「業務用リモコン RM-500 からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「一斉 SW 設定」）

6. チャイムキー（1、2）
チャイムなど本体システムで設定した音源を放送します。
（☞ P. 46「業務用リモコン RM-500 からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「チャイム SW 設定（1-4-2-4-4）」）

7. AUX キー
AUX 入力端子からの音声を放送します。
（☞ P. 52「AUX 放送のしかた」）
メニュー画面表示中には画面下部左のガイド表示の動作になります。

8. ◀キー
液晶画面に表示されているページの 1 つ前のページに移動します。
メニュー画面および回線番号登録画面表示中には画面下部中央のガイド表示の動作になります。

9. 復旧／クリアキー
放送中に押すと、放送を終了します。
通常の液晶画面で選択中のすべての項目について、選択を解除します。

10. ▶キー
液晶画面に表示されているページの 1 つ次のページに移動します。
メニュー画面および回線番号登録画面表示中には画面下部右のガイド表示の動作になります。

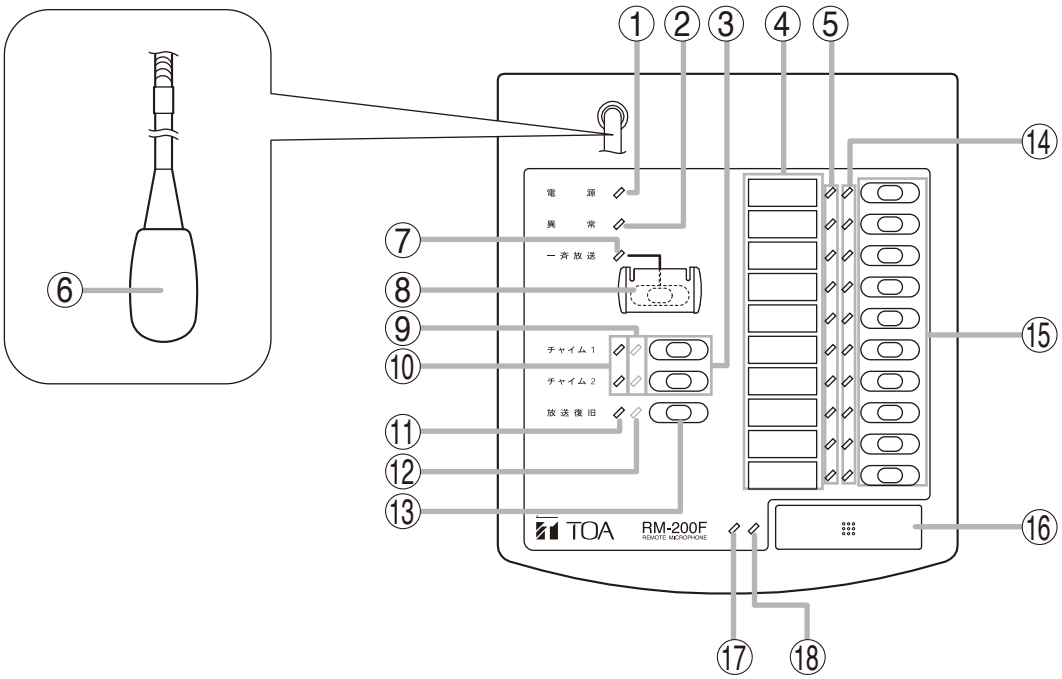
11. トークキー
マイク放送時に使用します。
システム設定時に PTT 式と LOCK 式のどちらかを設定します。
PTT 式に設定されているときは、キーを押している間だけ放送することができます。LOCK 式に設定されているときは、押すと放送が開始され、もう一度押すと放送が終了します。
（☞ P. 46「業務用リモコン RM-500 からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務 RM 動作設定」）

12. 放送表示灯（緑）
トークキーの操作状態に連動して点灯、消灯します。

■ 卓上型リモートマイク RM-200F

業務放送に使用する卓上型のリモートマイクです。
個別選択やグループ選択などに設定できる回線選択キーが 10 個、チャイムキーが 2 個、放送復旧キーが 1 個、また一斉放送用のカバー付きスイッチが 1 個あり、それぞれ表示灯と連動しています。別売の拡張ユニット RM-210F を接続することにより、回線選択キーと表示機能を 10 個単位で拡張できます。

[上面]



1. 電源表示灯（緑）
本機に電源を入れると点灯します。

2. 異常表示灯（橙）
システム内で異常が発生したとき点滅し、本体との通信異常時、および本機の再起動中に点灯します。
※ 本機の再起動は FS-2500 本体から行います。

3. チャイムキー（1、2）
業務放送で、チャイムを鳴らすキーです。
工場出荷時は下記のとおり設定されています。
チャイム 1：上り 4 音
チャイム 2：下り 4 音
（☞ P. 55「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」）

4. 表示ラベル挿入部
表示ラベルを挿入するスペースです。
別冊のシステム設定説明書に表示ラベルのコピー台紙が付いています。
（☞ 別冊のシステム設定説明書「表示ラベルの取り付け」）

5. 放送状態表示灯（橙／緑）
回線選択キー（15）に登録されている回線の放送状態を表します。
（☞ P. 69「業務用リモコンの放送状態の表示」）

6. マイク
業務放送時に使用するマイクです。
マイクの音量は、マイク音量調節器で調節できます。
（☞ P. 55「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊の設置説明書「入力感度の調節」）

7. 一斉放送表示灯（緑）
一斉放送キーで回線を選択すると点灯します。

8. 一斉放送キー（カバー付き）
一斉区域に放送をするときに押します。
システム設定時に通常一斉放送か、緊急一斉放送かを選択します。
通常一斉放送（システム設定時に業務緊急「無し」に設定）に設定したときは、アッテネーターによる音量の調節が可能です。
緊急一斉放送（システム設定時に業務緊急「有り」に設定）に設定したときは、アッテネーターの設定に関係なく最大音量で放送が流れます。
（☞ P. 55「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」）

9. 表示灯
使用しません。

10. チャイム表示灯（緑）
チャイムが鳴っている間、点滅します。

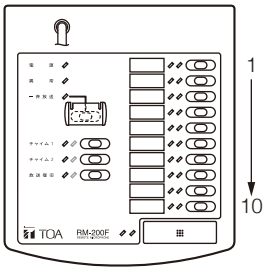
11. 放送復旧表示灯（緑）
放送復旧キー（13）を押している間、点灯します。

12. 表示灯
使用しません。

13. 放送復旧キー
業務 RM 放送を終了するキーです。押すと、選択されていた放送階はすべて解除されます。

14. 回線選択表示灯（緑）
回線選択キーに登録されている回線が選択されているときに点灯します。
（☞ P. 69「業務用リモコンの放送状態の表示」）

15. 回線選択キー
業務放送をするときに、放送をする回線を選択するキーです。放送をする回線は、システム設定時に各キーに個別（1 回線）またはグループ（複数回線）を登録して使用します。
本機には回線選択キーを 10 個備えています。キー番号は以下のとおりです。



（☞ P. 55「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」）

16. トークキー
マイク放送時に使用します。
システム設定時に PTT 式と LOCK 式のどちらかを設定します。
PTT 式に設定されているときは、キーを押している間だけ放送することができます。LOCK 式に設定されているときは、押すと放送が開始され、もう一度押すと放送が終了します。
（☞ P. 55「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」）

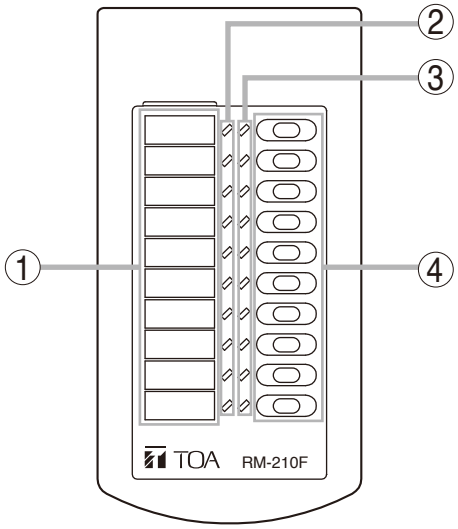
17. 放送状態表示灯（橙／緑）
本機で選択した回線の放送状態を表します。
（☞ P. 69「業務用リモコンの放送状態の表示」）

18. マイク表示灯（緑）
マイク放送中に点灯します。

■ 卓上型リモートマイク拡張ユニット RM-210F

RM-200F 専用の卓上型リモートマイク拡張ユニットです。卓上型リモートマイク RM-200F の回線選択キーと表示機能を本機 1 台につき 10 個単位で拡張できます。最大 7 台を増設できます。

[上面]

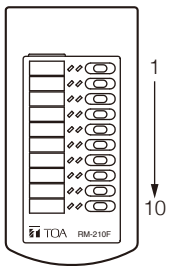


1. 表示ラベル挿入部
表示ラベルを挿入するスペースです。
別冊のシステム設定説明書に表示ラベルのコピー台紙が付いています。
（☞ 別冊のシステム設定説明書「表示ラベルの取り付け」）

2. 放送状態表示灯（橙／緑）
回線選択キー（4）に登録されている回線の放送状態を表します。
（☞ P. 69「業務用リモコンの放送状態の表示」）

3. 回線選択表示灯（緑）
回線選択キーに登録されている回線が選択されているときに点灯します。
（☞ P. 69「業務用リモコンの放送状態の表示」）

4. 回線選択キー
業務放送をするときに、放送をする回線を選択するキーです。放送をする回線は、システム設定時に各キーに個別（1 回線）またはグループ（複数回線）を登録して使用します。
本機には回線選択キーを 10 個備えています。キー番号は以下のとおりです。

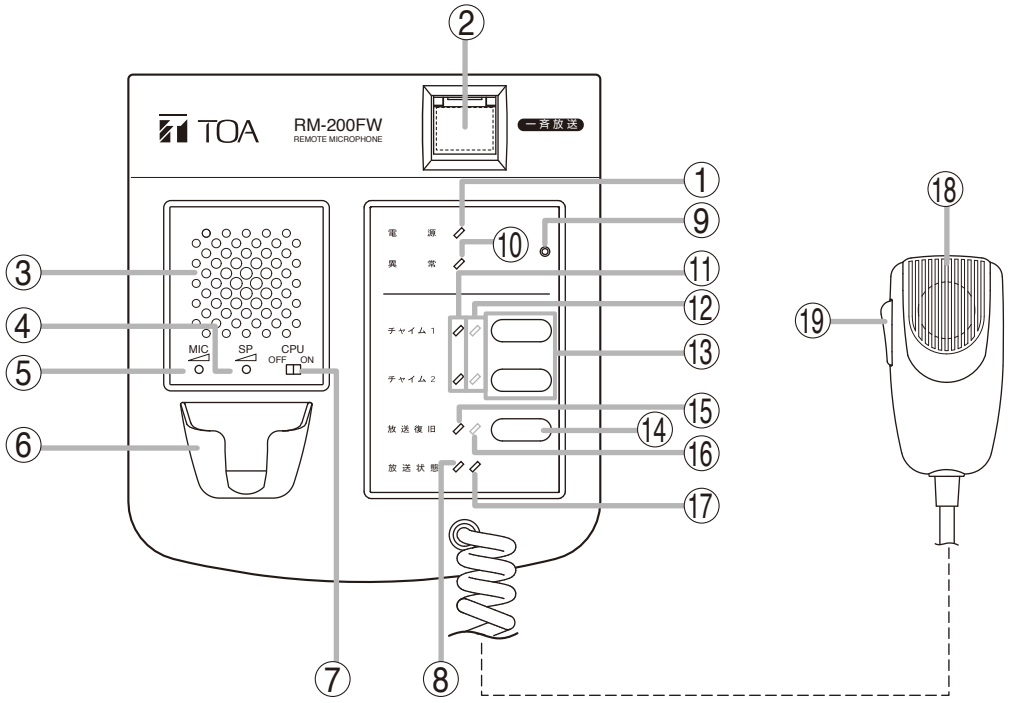


（☞ P. 55「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」）

■ 壁掛型リモートマイク RM-200FW

業務放送に使用する壁掛型のリモートマイクです。
チャイムキーが 2 個、放送復旧キーが 1 個、また一斉放送用のカバー付きスイッチが 1 個あり、それぞれ表示灯と連動しています。別売の拡張ユニット RM-220FW を接続することにより、個別選択やグループ選択などに設定できる回線選択キーと表示機能を 20 個単位で拡張できます。

[上面]



1. 電源表示灯（緑）
本機に電源を入れると点灯します。

2. 一斉放送キー（カバー付き）
一斉区域に放送をするときに押します。
システム設定時に通常一斉放送か、緊急一斉放送かを選択します。
通常一斉放送（システム設定時に業務緊急「無し」に設定）に設定したときは、アッテネーターによる音量の調節が可能です。
緊急一斉放送（システム設定時に業務緊急「有り」に設定）に設定したときは、アッテネーターの設定に関係なく最大音量で放送が流れます。
キーは照光式となっており、このキーを押して回線を選択すると、点灯します。
（☞ P. 55「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」）

3. スピーカー
業務放送時にチャイムキー（13）を押すと、チャイムが鳴ります。

4. スピーカー音量調節器
スピーカーからの音量を調節します。時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。

5. マイク音量調節器
マイクの音量を調節します。時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。
（☞ 別冊の設置説明書「入力感度の調節」）

6. マイクホルダー
マイクを保持するホルダーです。

7. CPU スイッチ
使用しません。

8. 放送状態表示灯（橙／緑）
壁掛型リモートマイク拡張ユニット RM-220FW（P. 25）の回線選択キー（4）に登録されている回線の放送状態を表します。
（☞ P. 69「業務用リモコンの放送状態の表示」）

9. リセットキー
使用しません。

10. 異常表示灯（橙）
システム内で異常が発生したとき点滅し、本体との通信異常時、および本機の再起動中に点灯します。
※ 本機の再起動は FS-2500 本体から行います。

11. チャイム表示灯（緑）
チャイムが鳴っている間、点滅します。

12. 表示灯
使用しません。

13. チャイムキー（1、2）
業務放送で、チャイムを鳴らすキーです。

工場出荷時は下記のとおり設定されています。
チャイム 1：上り 4 音
チャイム 2：下り 4 音
（☞ P. 55「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」）

14. 放送復旧キー
業務 RM 放送を終了するキーです。押すと、選択されていた放送階はすべて解除されます。

15. 放送復旧表示灯（緑）
放送復旧キー（14）を押している間、点灯します。

16. 表示灯
使用しません。

17. マイク表示灯（緑）
マイク放送中に点灯します。

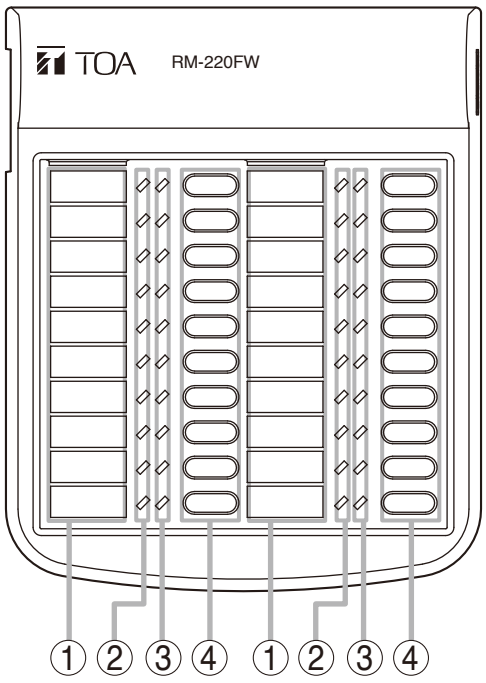
18. マイク
業務放送時に使用するマイクです。
マイクの音量は、マイク音量調節器（5）で調節できます。
（☞ P. 55「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊の設置説明書「入力感度の調節」）

19. トークスイッチ
マイク放送時に使用します。
トークスイッチは PTT 式となっており、スイッチを押している間だけ放送することができます。
（☞ P. 55「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」）

■ 壁掛型リモートマイク拡張ユニット RM-220FW

RM-200FW 専用の壁掛型リモートマイク拡張ユニットです。壁掛型リモートマイク RM-200FW の回線選択キーと表示機能を本機 1 台につき 20 個単位で拡張できます。最大 4 台を増設できます。

[上面]

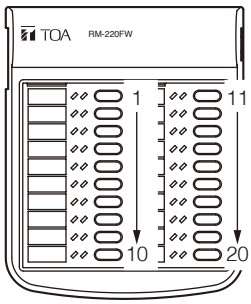


1. 表示ラベル挿入部
表示ラベルを挿入するスペースです。
別冊のシステム設定説明書に表示ラベルのコピー台紙が付いています。
（☞ 別冊のシステム設定説明書「表示ラベルの取り付け」）

2. 放送状態表示灯（橙／緑）
回線選択キー（4）に登録されている回線の放送状態を表します。
（☞ P. 69「業務用リモコンの放送状態の表示」）

3. 回線選択表示灯（緑）
回線選択キーに登録されている回線が選択されているときに点灯します。
（☞ P. 69「業務用リモコンの放送状態の表示」）

4. 回線選択キー
業務放送をするときに、放送をする回線を選択するキーです。放送をする回線は、システム設定時に各キーに個別（1 回線）またはグループ（複数回線）を登録して使用します。
（☞ P. 55「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」、別冊のシステム設定説明書「業務用リモコンのスイッチの設定」）
本機には回線選択キーを 20 個備えています。キー番号は以下のとおりです。



放送の種類と概要

FS-2500 システムには次のような放送の種類があります。

緊急地震放送	
非常放送	感知器発報放送 火災放送 非火災報放送
業務放送 （業務停電放送）	［音源による分類］ EV 放送 本体放送 非常 RM 放送 業務 RM 放送 接点式 RM 放送 外部音源放送 BGM 放送
	［音量調節の可否による分類］ 通常放送モード 業務緊急モード
アナログ一斉放送	

■ 緊急地震放送

緊急地震速報受信端末に連動して地震の発生を知らせる放送です。FS-2500 本体に内蔵の音源を使用して、非常放送に優先して放送されます。停電時も非常電源を使用して放送が行えます。

■ 非常放送

火災発生時に避難誘導を目的に行われる放送です。自火報感知器や発信機などに連動して放送されます。FS-2500 本体や非常用リモコンを操作して手動で放送することもできます。停電時も非常電源を使用して放送が行えます。
放送内容は以下の 3 つがあります。

感知器発報放送	火災感知器が作動し火災の確認中であることを知らせる放送です。
火災放送	火災の発生が確認され、避難を促す放送です。
非火災報放送	現場確認の結果、火災の発生が誤報であったことを知らせる放送です。

■ 業務放送

店舗などでの BGM や案内放送、リモコンによる呼び出し放送や、チャイム、定時放送など日常的に使用する放送です。
各々の放送は、設定により優先順位を変更できます。
また、設定により BGM 音源をミキシングして出力することもできます。（ただし、EV 放送の場合を除く。）

EV 放送	FS-2500 本体または非常用リモコンのファンクションスイッチ、非常用リモコンの緊急放送スイッチ、あるいは EV 放送用途の制御入力により、EV メッセージをワンタッチで放送することができます。
本体放送	FS-2500 本体の一斉放送スイッチや放送階選択スイッチで放送先を選択して、本体のフロントマイクや外部放送入力に接続された音源などを使用しての放送ができます。フロントマイクのトークスイッチとの連動や、チャイムスイッチを操作してチャイムを鳴らすこともできます。

非常 RM 放送	非常用リモコンの一斉放送スイッチや放送階選択スイッチで放送先を選択して、非常用リモコンのフロントマイクや非常 RM 放送入力に接続された音源を使用しての放送ができます。本体の外部放送入力に接続された音源などを使用しての放送も行えます。フロントマイクのトークスイッチとの連動や、チャイムスイッチを操作してチャイムを鳴らすこともできます。
業務 RM 放送	業務用リモコンの一斉放送キー、回線選択キーなどで放送先を選択して、マイク放送が行えます。マイクのトークスイッチとの連動や、チャイムキーを操作してチャイムを鳴らすこともできます。また、本体の外部放送入力に接続された音源や、業務用リモコンの AUX 入力の設定により、AUX 入力に接続された音源を使用した放送も可能です。
接点式 RM 放送	接点式リモコンの放送階選択スイッチで放送先を選択してマイク放送が行えます。回線選択の開始や復旧に連動させたり、チャイムスイッチを操作してチャイムを鳴らすこともできます。
外部音源放送	タイマーで起動される演奏機器や電話交換機からの制御信号と音声信号を接続して、外部からの制御により放送が行えます。また、外部からの制御信号の放送開始や終了に連動して内蔵チャイムを鳴らすこともできます。
BGM 放送	本体の外部放送入力やプリアンプマトリクスパネルの音声入力に接続された音源を使用して BGM 放送を流すことができます。この放送は、他の放送が入ってきたときに、その放送の邪魔をしないように自動的に音量を下げることができます。 FS-2500 本体や非常用リモコンの BGM 放送用途の放送階選択スイッチを押すか、または BGM 放送用途の制御入力をメイクすることで放送が行えます。

■ 放送モード

通常放送モード	業務放送で使用される放送モードで、放送先の壁に取り付けられたアッテネーターにより放送の音量調節が可能です。
業務緊急モード	通常放送モードと異なり、アッテネーターでの音量調節は行えず、最大音量での放送となります。

■ 業務停電放送

業務停電放送用に業務用電源パネルが設置されていれば、停電時も業務放送が行えます。

■ アナログ一斉放送

FS-2500 システムは CPU により制御されて動作しています。放送の操作を行っても正しく動作しないときは、アナログ一斉放送切換スイッチを ON にすれば、FS-2500 本体と非常用リモコンのフロントマイクから、業務緊急モードで一斉放送を行うことができます。

非常放送のしくみ

（はじめて非常用放送設備を操作される方に）

操作手順については、「非常放送のしかた」（P. 31）をお読みください。

■ 非常放送の起動方法

非常放送を起動させるには、次の 3 つの方法があります。

① 自火報感知器起動	自動火災報知設備（以下、自火報）の感知器が作動すると、その階の出火階表示灯が点灯し、自動的に非常放送が起動します。 連動モードのときは、出火階（感知器が作動した階）とその直上階などのスピーカーに放送されます。
② 非常電話・発信機起動	非常電話の受話器を取り上げるか発信機を起動すると、その階の出火階表示灯が点灯し、自動的に非常放送が起動します。 連動モードのときは、出火階（非常電話、発信機を起動した階）とその直上階などのスピーカーに放送されます。
③ 手動起動	操作者の判断で「非常起動スイッチ」を押し、非常放送を起動させます。 「放送階選択スイッチ」で選んだ階のスピーカーに放送されます。

■ 音声メッセージ

マイクで放送しなくても、警報音と音声メッセージによる次の 3 段階の自動放送が行われます。（☞ P. 39）

① 感知器発報放送	感知器などが作動し、火災の発生を確認中であることを知らせます。
② 火災放送	火災の発生を知らせます。
③ 非火災報放送	確認の結果、火災の発生がなかったことを知らせます。

■ 非常放送の動作モード

動作モードは、機器の設置のときに設定済みです。次の①、②、③の各項目について、設定されたモードの説明をお読みください。

① 連動・連動一斉モード

外部から非常放送の起動がかかったとき（自火報または非常電話・発信機*が起動したとき）の放送階（放送エリア）がモードによって異なります。モードは設定済みですので、さわらないでください。

※ 手動起動の場合は、連動・連動一斉モードの設定に関係なく、選択した階のみに非常放送がされます。

連動モード （工場出荷時の設定）	出火階（起動のあった階）とその直上階に非常放送がされます。 （出火階が 1 階または地下の階のときは、1 階と地下すべての階が追加されます。それらを含めて直上階などを連動階ともいいます。）
連動一斉モード	すべての階に非常放送がされます。

* 発信機：ボタンを押すことにより、自火報を起動させる装置。表示灯も付いています。

② 発報・火災モード

手動起動と非常電話・発信機*起動のとき、すぐに火災放送がされるかどうかがモードによって異なります。

※ 自火報感知器が起動したときのモードとは異なります。

※ 自火報感知器起動の場合は、発報・火災モードの設定に関係なく、発報連動・発報連動停止モードの設定により動作が決定されます。

発報モード	起動がかかると、まず感知器発報放送がされ、その後に火災放送になります。
火災モード （工場出荷時の設定）	起動がかかると、感知器発報放送なしに、すぐ火災放送になります。

③ 発報連動・発報連動停止モード

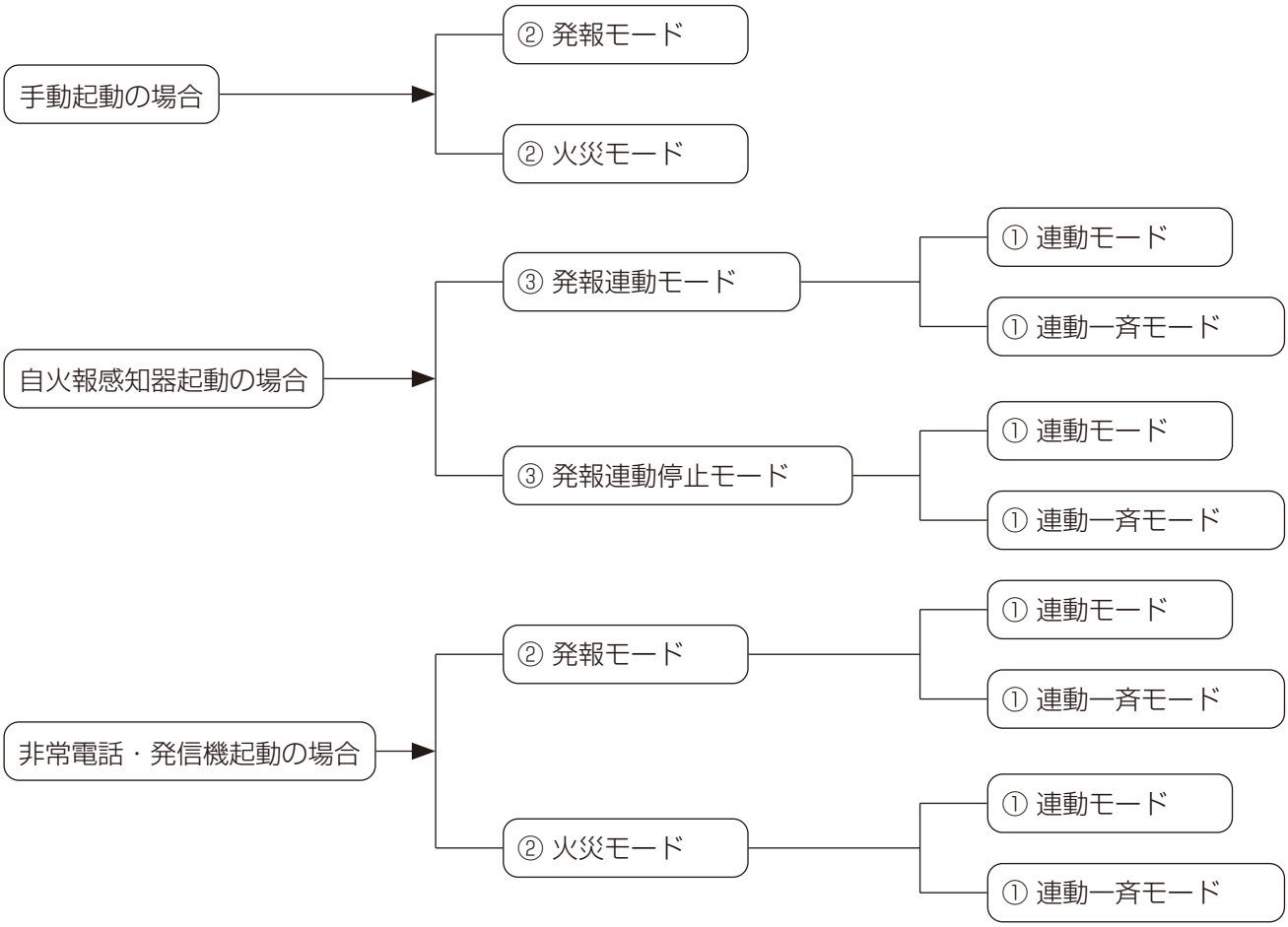
自火報感知器が起動したとき、感知器発報放送（発報連動）の有無がモードによって異なります。

※ 非常電話・発信機*起動の場合は、発報連動・発報連動停止モードの設定に関係なく、発報・火災モードの設定により動作が決定されます。

発報連動モード （工場出荷時の設定）	起動がかかると、まず感知器発報放送がされ、次の段階で火災放送になります。
発報連動停止モード	起動がかかっても感知器発報放送はされません。次の段階で火災放送になります。 操作する人に対して前面操作部のモニタースピーカーから「火災音信号」と現場の確認と操作を指示する「音声メッセージ」が出ます。 （このモードで使用するには、所轄の消防署の承認が必要です。）

* 発信機：ボタンを押すことにより、自火報を起動させる装置。表示灯も付いています。

■ 起動方法と動作モードの関係



■ 火災放送移行タイマーと一斉移行タイマー

本機には避難時の安全性を確保するため、段階的な非常放送ができるよう、内部に火災放送移行タイマーと一斉移行タイマーを内蔵しています。
それぞれのタイマーは、建物の規模や構造に合わせて機器の設置時に設定されています。動作の内容については、「非常放送のしかた」（P. 31）をお読みください。

重　要
● 法律上の火災放送移行タイマーの設定は、2 ～ 5 分です。
● 法律上の一斉移行タイマーの設定は、切、0 分、または 2 ～ 5 分です。
● タイマーの設定、変更は所轄消防署の指導に従ってください。

● 火災放送移行タイマー

このタイマーは
- 自火報感知器起動時
- 手動起動時（発報・火災が発報モードのとき）

において発報放送開始時または火災音信号鳴動開始時にスタートし、設定された時間が経過すると自動的に火災放送を開始させるためのものです。
ただし、火災放送移行タイマー作動中に非火災報放送をしたときは、タイマーは停止して火災放送には移行しません。

● 一斉移行タイマー

このタイマーは、火災放送開始時または火災放送移行タイマーのタイムアップ時にスタートし、設定された時間が経過すると自動的に一斉火災放送を開始させるためのものです。
タイマー機能を「切」にすることもできます。
タイマー時間設定を「0 分」にしたときは、すぐに一斉火災放送を開始します。
ただし、一斉移行タイマー作動中に非火災報放送をした場合は、タイマーは停止して一斉火災放送には移行しません。

※ 一斉移行タイマーがタイムアップ後は、放送復旧を含む放送階の変更はできません。一斉放送だけになります。

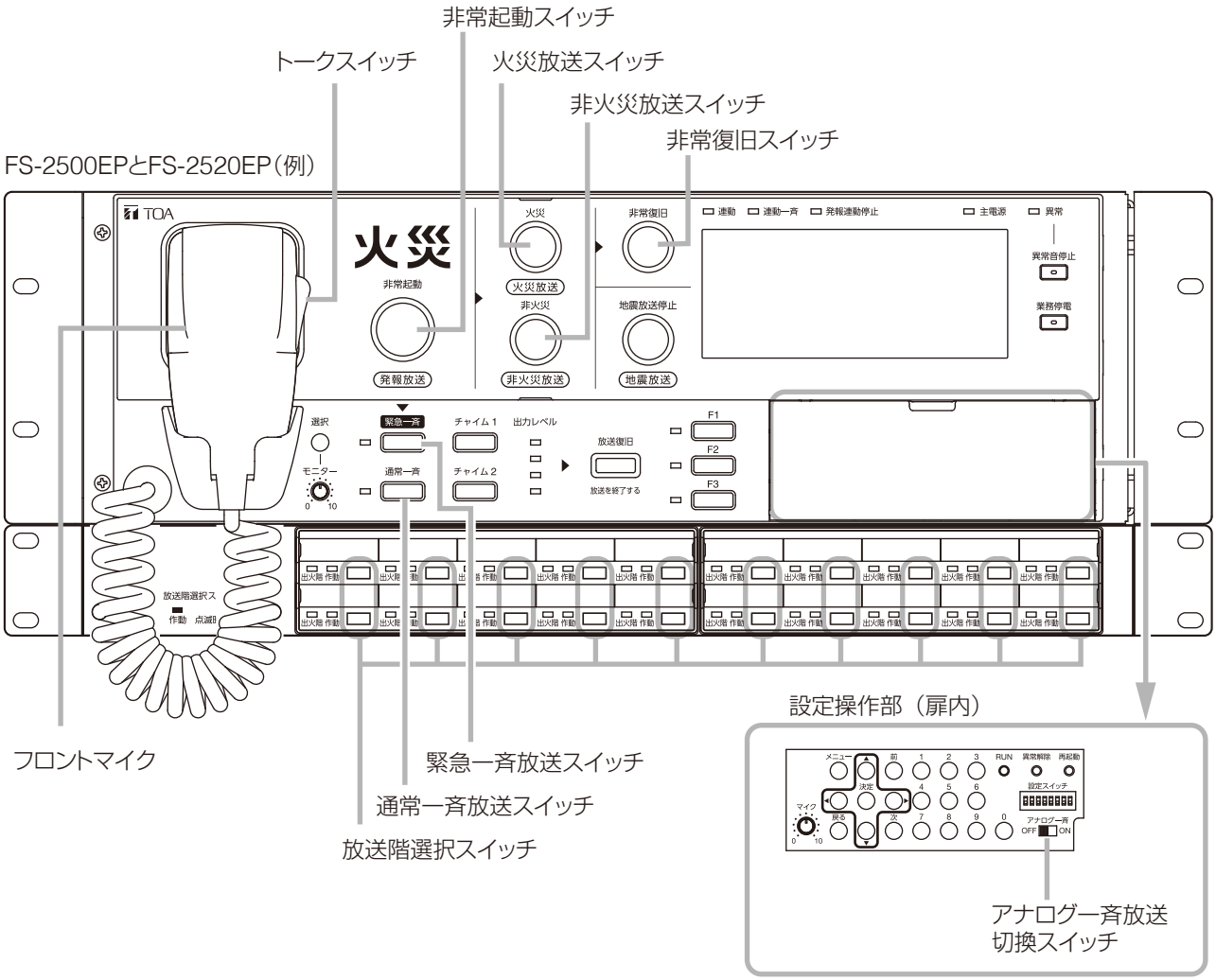
非常放送のしかた

非常放送を起動する方法、および機器設置の際に設定した動作モードによって放送のしかたが異なります。

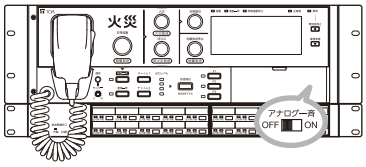
決められたモードの手順をお読みください。

1. 自火報感知器起動の場合 ☞ P. 32
2. 非常電話・発信機起動の場合 ☞ P. 34
3. 手動起動の場合 ☞ P. 36

■ 非常放送の操作で使用するスイッチ



■ 自火報感知器起動の場合



FS-2500EPとFS-2520EP（例）

自火報の感知器起動
（業務放送中であれば業務放送が停止します。）

- 火災灯点灯
- 出火階表示灯点灯
- 出火階および連動階の階別作動表示灯点灯（連動モード）
- すべての階の階別作動表示灯点灯（連動一斉モード）

火災放送移行タイマーが起動します。
火災放送移行タイマー設定　　分　　秒

発報連動停止モード　　**発報連動モード**

❶
感知器発報放送はされません。
「火災音信号」と音声ガイドメッセージ（M6）がモニタースピーカーから出ます。

❷
感知器発報放送（M1、M5） *2
放送階：出火階および連動階（連動モード）
：すべての階（連動一斉モード）
起動のあった階の階情報（ ○○階の ）を含みます。

❶または❸

- 非常電話
- 発信機
- 感知器第2報
- 自火報の火災確認信号

上記いずれかの起動 *1

現場を確認してください。

非火災（誤報）→ Ⓐ 次ページへ

火災

非常起動スイッチまたは火災放送スイッチを押してください。

火災放送移行タイマータイムアップ

マイク放送をしたとき
- マイク放送終了後は無音状態となります。
- 現場を確認して、手動で火災・非火災報放送にするか、マイクで誘導指示をしてください。

一斉移行タイマー	一斉移行タイマー	一斉移行タイマー
□　切	□　0 分	□　分　秒

一斉移行タイマー起動

❹
火災放送（M2） *3
放送階：出火階および連動階（連動モード）
：すべての階（連動一斉モード）
最初に起動のあった階の階情報（ ○○階で ）を含みます。

一斉移行タイマータイムアップ

❺
一斉火災放送（M2） *3、*4
放送階：すべての階
最初に起動のあった階の階情報（ ○○階で ）を含みます。

❹
火災放送（M2） *3
放送階：出火階および連動階（連動モード）
：すべての階（連動一斉モード）
最初に起動のあった階の階情報（ ○○階で ）を含みます。

非火災（誤報）→ Ⓐ 次ページへ

火災

- フロントマイクで適切な避難誘導放送をしてください。
  マイク放送を終了させると、第2シグナル警報音（フィ、フィ、フィ）の連続となります。
- 必要に応じ、他の放送階も選択してください。*4

※ M1、M2などは、音声メッセージの番号を示します。（☞ P. 39）
※ 丸数字は、その時点における操作パネル上の液晶表示を表します。（☞ P. 40）

Ⓐ
前ページから

非火災（誤報）

非火災

非火災放送スイッチを押してください。

非火災報放送（M3） ❻
放送階：感知器発報放送または火災放送で放送されていた階

非常放送を終了するとき

感知器、非常電話、発信機を復旧させてください。

非常復旧

非常復旧スイッチを押してください。

- 火災灯　：消灯
- 出火階表示灯　：消灯
- 階別作動表示灯：消灯

復　旧
（感知器起動前が業務放送中であれば、元の業務放送状態に戻ります。）

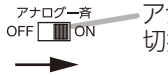
感知器、非常電話、発信機を復旧させないで非常復旧スイッチを押した場合は、まだ火災状態と判断して、非常放送を始めます。

非火災や鎮火が確認されたときは、必ず感知器、非常電話、発信機を復旧させてから非常復旧スイッチを押してください。

マイク放送は最優先なので、いつでも放送することができます。*5

[操作中に動作が不安定なときは…]

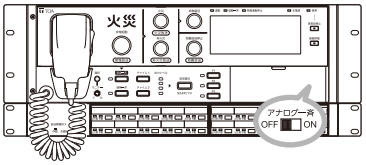
設定操作部扉内のアナログ一斉放送切換スイッチをON側にしてください。
フロントマイクから、業務緊急モードで一斉放送を行うことができます。



アナログ一斉放送切換スイッチ

*1 異なる階の感知器が同時に起動したとき、または発報放送中に別の階の感知器が起動したときは、発報放送のメッセージ終了後、すぐに火災放送になります。
*2 異なる階の感知器が同時に起動したときは、階メッセージ番号が最も小さい階の階情報（○○階の）を含んだ感知器発報放送を行います。（階メッセージ番号については別冊のシステム設定説明書を参照してください。）
*3 感知器発報放送後、新たに別の階の感知器が起動したときでも、火災放送では最初に起動のあったときの階情報（○○階で）を含んだ音声メッセージだけが放送されます。
*4 一斉移行タイマーがタイムアップした後は、放送復旧を含む放送階の変更はできません。一斉放送だけになります。
*5 ただし、緊急地震放送は非常放送よりも優先されます。緊急地震放送中に非常放送をしたいときは、緊急地震放送停止スイッチを押して緊急地震放送を終了する必要があります。
（☞ P. 77「緊急地震放送をするときの非常放送の動作」）

■ 非常電話・発信機起動の場合



FS-2500EPとFS-2520EP（例）

非常電話または発信機からの起動
（業務放送中であれば業務放送が停止します。）

- 火災灯点灯
- 出火階表示灯点灯
- 出火階および連動階の階別作動表示灯点灯（連動モード）
- すべての階の階別作動表示灯点灯（連動一斉モード）

発報モード

感知器発報放送（M1）＊1
放送階：出火階および連動階（連動モード）
：すべての階（連動一斉モード）
起動のあった階の階情報（ ○○階の ）を含みます。

❼

火災モード

一斉移行タイマー
□ 切

一斉移行タイマー
□ 0 分

一斉移行タイマー
□ 分 秒

一斉移行タイマー起動

❹
火災放送（M2）＊2
放送階：出火階および連動階（連動モード）
：すべての階（連動一斉モード）
最初に起動のあった階の階情報（ ○○階で ）を含みます。

❹
火災放送（M2）＊2
放送階：出火階および連動階（連動モード）
：すべての階（連動一斉モード）
最初に起動のあった階の階情報（ ○○階で ）を含みます。

一斉移行タイマータイムアップ

❺
一斉火災放送（M2）＊2、＊3
放送階：すべての階
最初に起動のあった階の階情報（ ○○階で ）を含みます。

非火災（誤報）

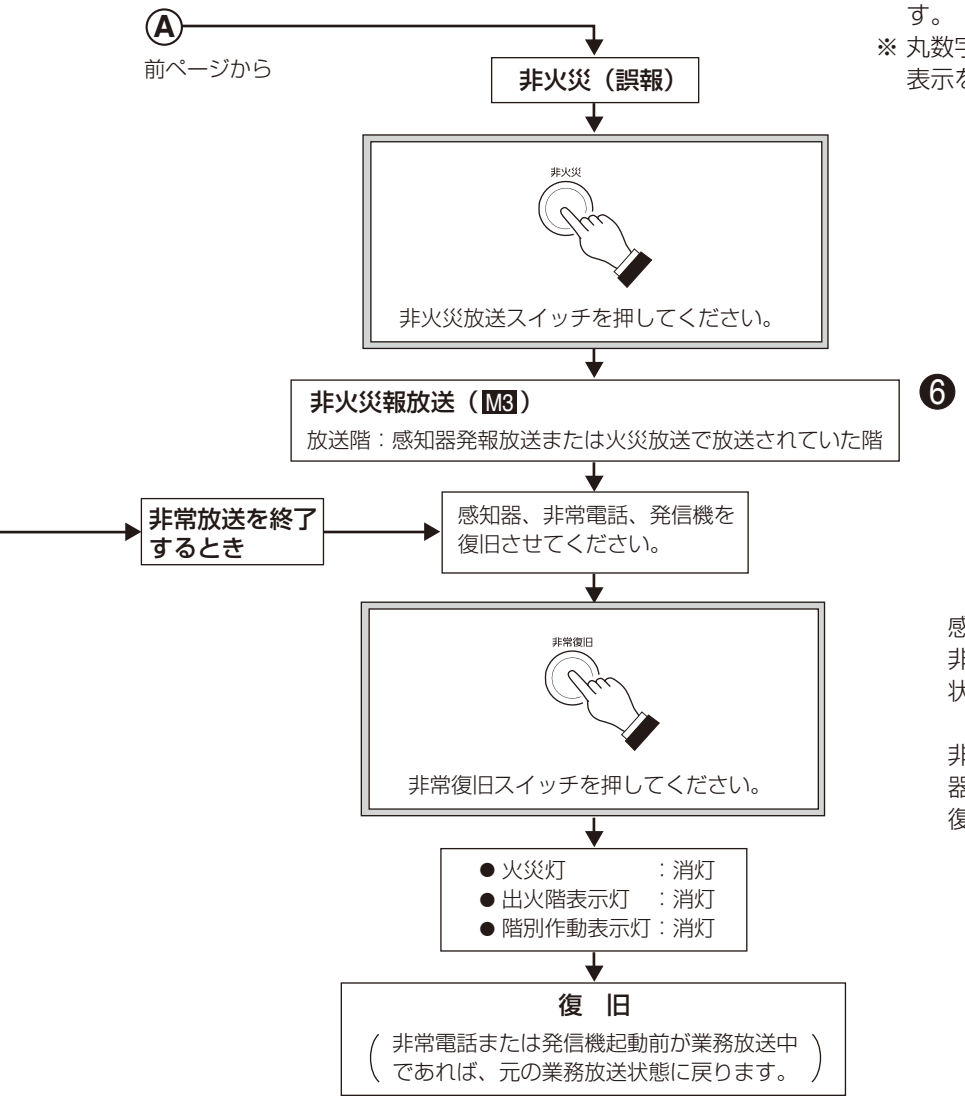
Ⓐ 次ページへ

火災

- フロントマイクで適切な避難誘導放送をしてください。
  マイク放送を終了させると、第2シグナル警報音（フィ、フィ、フィ）の連続となります。
- 必要に応じ、他の放送階も選択してください。＊3

＊1 異なる階の非常電話･発信機が同時に起動したときは、階メッセージ番号が最も小さい階の階情報(○○階の)を含んだ感知器発報放送を行います。（階メッセージ番号については別冊のシステム設定説明書を参照してください。）
＊2 感知器発報放送後、新たに別の階の非常電話・発信機が起動したときでも、火災放送では最初に起動のあったときの階情報（○○階で）を含んだ音声メッセージだけが放送されます。
＊3 一斉移行タイマーがタイムアップした後は、放送復旧を含む放送階の変更はできません。
一斉放送だけになります。
＊4 ただし、緊急地震放送は非常放送よりも優先されます。緊急地震放送中に非常放送をしたいときは、緊急地震放送停止スイッチを押して緊急地震放送を終了する必要があります。
（☞ P. 77「緊急地震放送をするときの非常放送の動作」）

※ M1、M2などは、音声メッセージの番号を示します。（☞ P. 39）
※ 丸数字は、その時点における操作パネル上の液晶表示を表します。（☞ P. 40）



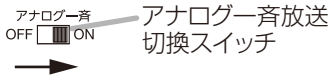
感知器、非常電話、発信機を復旧させないで非常復旧スイッチを押した場合は、まだ火災状態と判断して、非常放送を始めます。

非火災や鎮火が確認されたときは、必ず感知器、非常電話、発信機を復旧させてから非常復旧スイッチを押してください。

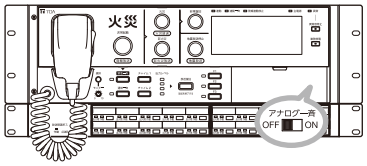
マイク放送は最優先なので、いつでも放送することができます。*4

[操作中に動作が不安定なときは…]

設定操作部扉内のアナログ一斉放送切換スイッチをON側にしてください。
フロントマイクから、業務緊急モードで一斉放送を行うことができます。



■ 手動起動の場合



FS-2500EPとFS-2520EP（例）

※ M1、M2などは、音声メッセージの番号を示します。（☞ P. 39）
※ 丸数字は、その時点における操作パネル上の液晶表示を表します。（☞ P. 40）

火災放送移行タイマーが起動します。
火災放送移行タイマー設定　　分　　秒

● 非常電話
● 発信機
● 感知器

上記いずれかの起動 *1

マイク放送をしたとき
● マイク放送終了後は無音状態となります。
● 現場を確認して、手動で火災・非火災報放送にするか、マイクで誘導指示をしてください。

火災放送移行タイマータイムアップ

一斉移行タイマー	一斉移行タイマー	一斉移行タイマー
□　切	□　0 分	□　分　秒

一斉移行タイマー起動

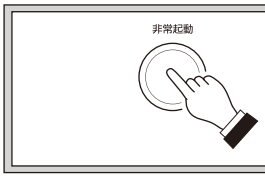
❹
火災放送（M2）
放送階:起動階（出火階）、
連動階および選択した階（連動モード）
:すべての階（連動一斉モード）
最初に起動のあった階の階情報（ ○○階で ）を含みます。

一斉移行タイマータイムアップ

❺
一斉火災放送（M2）*3
放送階:すべての階
最初に起動のあった階の階情報（ ○○階で ）を含みます。

❹
火災放送（M2）
放送階:起動階（出火階）、
連動階および選択した階（連動モード）
:すべての階（連動一斉モード）
最初に起動のあった階の階情報（ ○○階で ）を含みます。

手動起動：火災の情報を入手したとき



非常起動スイッチを押してください。
（業務放送中であれば業務放送が停止します。）

❽または❾（M4）

必要と思われる放送階選択スイッチ、通常一斉放送スイッチ、緊急一斉放送スイッチのいずれかを押してください。

発報モード　　火災モード

感知器発報放送（M1、M5） ❿
放送階:選択した階 *2
階情報（ ○○階の ）は含みません。

現場を確認してください。 ⓫

非火災（誤報）→ Ⓑ 次ページへ

火災

非常起動スイッチまたは火災放送スイッチを押してください。

Ⓐ 次ページへ

一斉移行タイマー	一斉移行タイマー	一斉移行タイマー
□ 切	□ 0 分	□ 分 秒

一斉移行タイマー起動

火災放送（M2） ❹
放送階:選択した階
階情報（ ○○階で ）は含みません。

火災放送（M2） ❹
放送階:選択した階
階情報（ ○○階で ）は含みません。

一斉移行タイマータイムアップ

一斉火災放送（M2）*3 ❺
放送階:すべての階
階情報（ ○○階で ）は含みません。

非火災（誤報）→ Ⓑ 次ページへ

火災

- フロントマイクで適切な避難誘導放送をしてください。
  マイク放送を終了させると、第2シグナル警報音（フィ、フィ、フィ）の連続となります。
- 必要に応じ、他の放送階も選択してください。*3

Ⓑ
前ページから

非火災(誤報)

非火災報放送(M3) ❻
放送階:感知器発報放送または火災放送で放送されていた階

Ⓐ 前ページから → **非常放送を終了するとき** → 感知器、非常電話、発信機を復旧させてください。

感知器、非常電話、発信機を復旧させないで非常復旧スイッチを押した場合は、まだ火災状態と判断して、非常放送を始めます。

非火災や鎮火が確認されたときは、必ず感知器、非常電話、発信機を復旧させてから非常復旧スイッチを押してください。

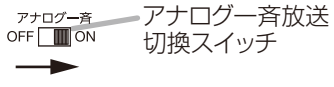
- 火災灯　　:消灯
- 出火階表示灯　:消灯
- 階別作動表示灯:消灯

復　旧
(手動起動前が業務放送中であれば、元の業務放送状態に戻ります。)

マイク放送は最優先なので、いつでも放送することができます。*4

[操作中に動作が不安定なときは…]

設定操作部扉内のアナログ一斉放送切換スイッチをON側にしてください。
フロントマイクから、業務緊急モードで一斉放送を行うことができます。



*1 発報放送中に起動したときは、メッセージ終了後に火災放送になります。
*2 放送階を手動で選択したときは、選択した階のみに放送されます。
*3 一斉移行タイマーがタイムアップした後は、放送復旧を含む放送階の変更はできません。一斉放送だけになります。
*4 ただし、緊急地震放送は非常放送よりも優先されます。緊急地震放送中に非常放送をしたいときは、緊急地震放送停止スイッチを押して緊急地震放送を終了する必要があります。
(☞ P. 77「緊急地震放送をするときの非常放送の動作」)

■ 音声メッセージの一覧

● 音声警報メッセージ

以下のメッセージは放送階のスピーカーから放送されます。

音声警報メッセージ			非常用ジャンクションパネルの誘導音装置鳴動停止信号出力端子の状態
M1	感知器発報放送	第１シグナル（パポパポパポ）＋「ただいま（○○階の）火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。（女声）」	メイク
M2	火災放送	第１シグナル（パポパポパポ）＋「火事です、火事です、（○○階で）火災が発生しました。落ち着いて避難してください。（男声）」＋第１シグナル（パポパポパポ）＋「火事です、火事です……（男声）」＋第２シグナル（フィ、フィ、フィ３回）以上の内容を継続してくり返します。マイク放送終了後は第２シグナルだけのくり返しとなります。	メイク ↓ 第２シグナル時にブレイク
M3	非火災報放送	第１シグナル（パポパポパポ）＋「さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。（女声）」 以上の内容を２回くり返します。	メイク

※ 感知器発報放送および火災放送の階情報

1. 手動起動による非常放送の場合は「階情報」（○○階の、○○階で）が含まれません。
2. 異なる階の感知器が同時に起動したときは、階メッセージ番号が最も小さい階の階情報（○○階の）を含んだ感知器発報放送を行います。
（階メッセージ番号については、別冊のシステム設定説明書を参照してください。）
3. 感知器発報放送後、新たに別の階の感知器が起動したときでも、火災放送では最初に起動のあったときの階情報（○○階で）を含んだ音声メッセージだけが放送されます。

※ 音声警報メッセージが２ケ国語、３ケ国語、または４ケ国語（日本語のほかに英語、中国語、韓国語が選択可）に設定されている場合は、日本語に続いて、設定されている言語のメッセージが放送されます。

感知器発報放送	英語	Attention please. The fire alarm system (on ○○ floor) is indicating a fire. We're now investigating the cause. Please wait for a further information.
	中国語	现在 ○楼的 火灾检测器已经启动。因正在确认，请注意下一个广播。
	韓国語	지금 ○층의 화재감지기가 작동했습니다 . 확인하는중이니 , 다음 방송에 주의하여 주십시오 .
火災放送	英語	There is a fire (on ○○ floor). Please evacuate as quickly as possible.
	中国語	火灾！火灾！在○楼 发生火灾。请镇定地前往避难场所避难。
	韓国語	화재입니다 . 화재입니다 . ○층에서화재가 발생했습니다 . 침착하게 대피하여 주십시오 .
非火災報放送	英語	Attention please. A few minutes ago, we announced there may be a fire. However, there is no fire. Once again, there is no fire.
	中国語	先前 火灾检测器之动作，确认结果并无异常状况。请放心。
	韓国語	방금전의 화재감지기의 작동은 확인 결과 이상 없음이 확인되었습니다 . 안심하여 주십시오 .

● 音声ガイドメッセージ

以下のメッセージは、前面操作部のモニタースピーカーから出力されます。放送階のスピーカーからは出力されません。

M4	放送階選択スイッチを押せ。
M5	発報放送を起動した。現場を確認せよ。火災のときは火災スイッチを押せ。 誤報のときは、非火災スイッチを押せ。
M6	火災信号を受信した。現場を確認せよ。火災のときは火災スイッチを押せ。 誤報のときは、自火報を停止させた後、非常復旧スイッチを押せ。

■ 操作パネルの液晶画面表示

❶
感知器　火災移行まで2分
出 火 → 火災 スイッチ
誤 報 → 非火災 スイッチ
マイク放送 → フロントマイク

❷
感知器　発報放送中　火災移行まで2分
出 火 → 火災 スイッチ
誤 報 → 非火災 スイッチ
マイク放送 → フロントマイク

❸
感知器　発報放送停止中 火災移行まで2分
出 火 → 火災 スイッチ
誤 報 → 非火災 スイッチ
マイク放送 → フロントマイク

❹
火災放送中　一斉移行まで2分
消 火 → 非常復旧 スイッチ
誤 報 → 非火災 スイッチ
マイク放送 → フロントマイク

❺
火災放送中
消 火 → 非常復旧 スイッチ
誤 報 → 非火災 スイッチ
マイク放送 → フロントマイク

❻
非火災放送中
出 火 → 火災 スイッチ
放送終了 → 非常復旧 スイッチ
マイク放送 → フロントマイク

❼
発信機　発報放送中
出 火 → 火災 スイッチ
誤 報 → 非火災 スイッチ
マイク放送 → フロントマイク

❽
手動起動　発報放送停止中
放送階選択スイッチを押せ
一 斉 → 緊急一斉 スイッチ
階 別 → 放送階選択 スイッチ

❾
手動起動　火災放送停止中
放送階選択スイッチを押せ
一 斉 → 緊急一斉 スイッチ
階 別 → 放送階選択 スイッチ

❿
手動起動　発報放送中　火災移行まで2分
出 火 → 火災 スイッチ
誤 報 → 非火災 スイッチ
マイク放送 → フロントマイク

⓫
手動起動　発報放送停止中 火災移行まで2分
出 火 → 火災 スイッチ
誤 報 → 非火災 スイッチ
マイク放送 → フロントマイク

業務放送のしかた

■ 業務放送の種類

FS-2500 システムでは以下の業務放送を行うことができます。

● FS-2500 本体からできる放送

FS-2500 本体を操作して以下の放送ができます。

マイク放送*1
チャイムの鳴動*1
ミックスバス*2に割り付けられた音声入力端子に接続された音源の放送*1
ミックスバス*2に割り付けられた音声入力端子に接続された音源の放送（BGM 放送）*3
EV 放送*4

※ 放送のしかた
*1 ☞ P. 42「本体放送のしかた」
*3 ☞ P. 44「放送階選択スイッチによる BGM 放送のしかた」
*4 ☞ P. 45「EV 放送のしかた」

● 非常用リモコンからできる放送

非常用リモコンを操作して以下の放送ができます。

マイク放送
チャイムの鳴動
ライン、マイク／ライン端子に接続された音源の放送
本体のミックスバス*2に割り付けられた音声入力端子に接続された音源の放送
本体のミックスバス*2に割り付けられた音声入力端子に接続された音源の放送（BGM 放送）
EV 放送

※ 放送のしかたは別冊の非常用リモコンの取扱説明書をお読みください。

● 業務用リモコンからできる放送

業務用リモコンには卓上型リモートマイク RM-500、RM-200F と壁掛型リモートマイク RM-200FW があります。
業務用リモコンを操作して以下の放送ができます。

マイク放送
チャイムの鳴動
AUX 入力に接続された音源の放送（RM-500、RM-200F で AUX 入力を使用する場合）
本体のミックスバス*2に割り付けられた音声入力端子に接続された音源の放送

※ 放送のしかた ☞ P. 46「業務用リモコン RM-500 からの放送のしかた」、P. 55「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」

● その他端子入力を使用した放送

上記以外にも、外部機器を本体に接続して以下の放送ができます。

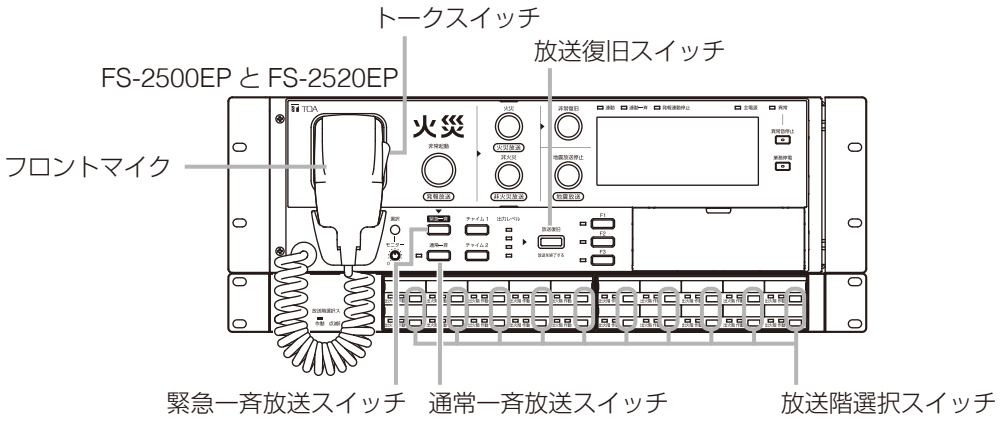
接点式 RM 放送
外部放送入力やプリアンプマトリクスパネルの音声入力に接続された音源の放送
本体のミックスバス*2に割り付けられた音声入力端子に接続された音源の放送
本体のミックスバス*2に割り付けられた音声入力端子に接続された音源の放送（BGM 放送）
EV 放送

※ 放送のしかた ☞ P. 58「その他端子入力を使用した放送のしかた」

*2 ☞ P. 61「ミックスバス放送」

■ 本体放送のしかた（スイッチ動作設定が通常動作モードの場合）

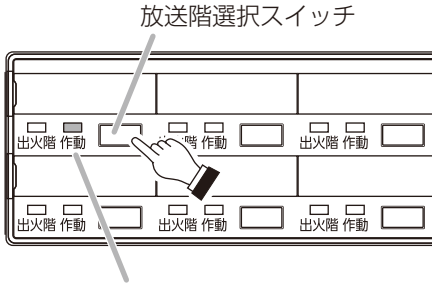
※ スイッチ動作設定が独立制御モードの場合の動作については、別冊のシステム設定説明書をお読みください。



1 放送階を選択する。

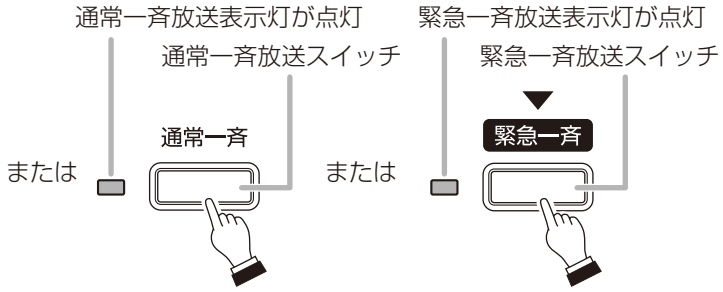
放送階選択スイッチ、または通常一斉放送スイッチか緊急一斉放送スイッチを押して放送階を選択します。

個別階またはグループを選んで放送するとき



（☞ P. 67「グループ放送」）

一斉区域に放送するとき



- 外部放送入力の用途が「本体マイクとミックス」に設定されている場合、外部放送入力に音源が入力されているときは、この操作で音源からの放送が開始されます。
- ミックスバスの用途が「業務／放送階選択 SW」に設定されている場合、ミックスバスに割り当てられた音声入力に音源が入力されているときは、この操作で音源からの放送が開始されます。ただし、ミックスバスの音源の放送は、本体放送のミックスバス放送ミュート設定に従います。
（☞ P. 66「本体・非常 RM・業務 RM 放送時の各音源の動作」）
- スイッチを押したら、液晶画面に放送状態が表示されます。（☞ P. 68「液晶画面での業務放送状態表示」）

ご注意

通常一斉放送スイッチでの放送はアッテネーターにより放送の音量調節ができます。
緊急一斉放送スイッチでの放送はアッテネーターの設定に関係なく最大音量で放送が行われます。

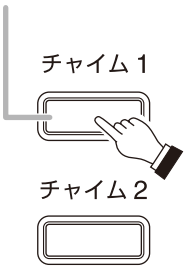
メ　モ

- 本体放送の優先度によっては、放送できない場合があります。（☞ P. 59「放送の優先度」）
- 放送階選択スイッチに登録されている回線の放送状態は作動表示灯で確認できます。
- ミックスバス放送中に本体放送を開始したときは、ミックスバス放送ミュート設定に従ってミックスバス放送が流れます。（☞ P. 61「ミックスバス放送」）

2 必要に応じて、チャイム１スイッチまたはチャイム２スイッチを押す。

放送開始時にチャイム音を鳴らしたいときは、チャイムスイッチを押します。

（チャイム１スイッチを押した例）
チャイム１スイッチ



ご注意

本体放送の開始チャイムを設定している場合、マイクのトークスイッチを押すと自動的にチャイムが鳴るため、この操作は不要です。
（☞ 別冊のシステム設定説明書「業務放送動作設定」）

メ　モ

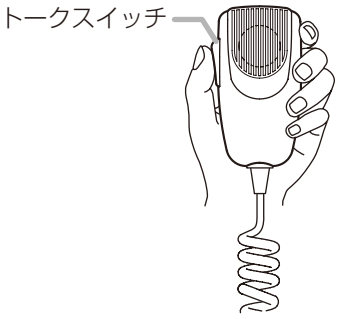
- チャイムの種類はシステム設定で変更できます。
  ［工場出荷時の設定］
  チャイム１：上り４音
  チャイム２：下り４音
- 途中でチャイムを停止したいときは、再度チャイムスイッチを押してください。
- マイク放送中はチャイムを鳴らすことはできません。

3 マイク放送をする。

3-1 フロントマイクのトークスイッチを押す。（マイク放送の開始）

開始チャイムを設定しているときは、トークスイッチを押すと同時に設定されたチャイムが鳴ります。
チャイムが鳴り終わったら、マイク放送が可能になります。
トークスイッチを押している間スピーカーから放送が流れます。

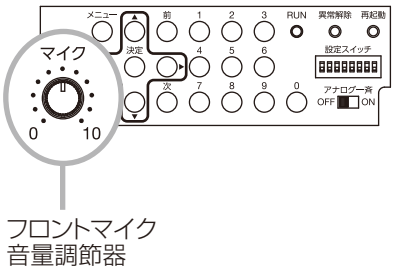
※ ハウリング防止のため、マイク放送中はモニタースピーカーからの出力は停止します。



メ　モ

- チャイムの種類はシステム設定で変更できます。
  ［工場出荷時の設定］
  開始チャイム：未使用
  終了チャイム：未使用
- マイクの音量を調節したいときは、設定操作部扉内のフロントマイク音量調節器を回して調節します。

設定操作部（扉内）



フロントマイク
音量調節器

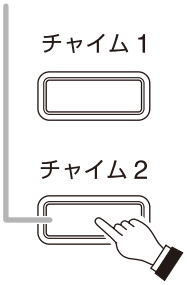
3-2 トークスイッチから指を離す。（マイク放送の終了）

放送が終了します。
終了チャイムを設定しているときは、トークスイッチから指を離すと同時にチャイムが鳴ります。

4 必要に応じて、チャイム１スイッチまたはチャイム２スイッチを押す。

放送終了時にチャイム音を鳴らしたいときは、チャイムスイッチを押します。

（チャイム２スイッチを押した例）
チャイム２スイッチ



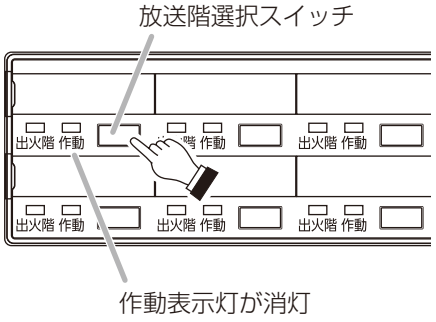
ご注意

本体放送の終了チャイムを設定している場合、マイクのトークスイッチから指を離すと自動的にチャイムが鳴るため、この操作は不要です。（☞ 別冊のシステム設定説明書「業務放送動作設定」）

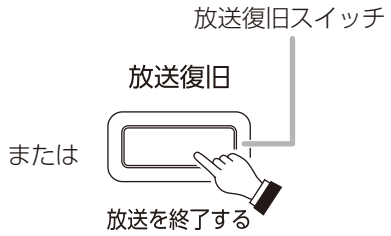
5 放送階の選択を解除する。

放送階選択スイッチをもう一度押すか、または放送復旧スイッチを押すと、放送階の選択が解除されます。

個別階またはグループを選んで解除するとき



すべての階を解除するとき



外部放送入力（用途が「本体マイクとミックス」）およびミックスバス（用途が「業務／放送階選択SW」）の音源による放送がされているときは、この操作で音源からの放送を終了します。

■ 放送階選択スイッチによる BGM 放送のしかた

放送階選択スイッチの操作によって、ミックスバスに割り当てられた音声入力に接続された演奏機器からの放送を開始または終了することができます。接点端子メイクによる BGM 放送の起動は、「その他端子入力を使用した放送のしかた」をお読みください。

※ あらかじめ放送階選択スイッチの用途を「BGM」に設定しておく必要があります。（☞ 別冊のシステム設定説明書「音声入力設定（1-4-1）」「本体（1-3-5-1）」）

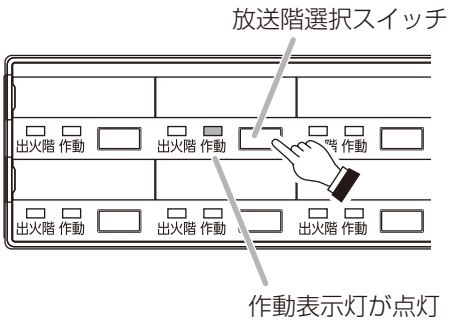
1 用途が「BGM」に設定されている放送階選択スイッチを押す。（BGM 放送の開始）

作動表示灯が点灯し、BGM 音源機器からの放送が流れます。

BGM は、システム設定時に登録した階に放送されます。

メ　モ

- 放送先のアンプが他の放送で使用されているときに BGM 放送の音量制御をどのように行うかは、ミックスバス放送ミュート設定（P. 61）に従います。
- ミックスバス（BGM）に割り当てられて入力された音源はミックスされて出力されます。



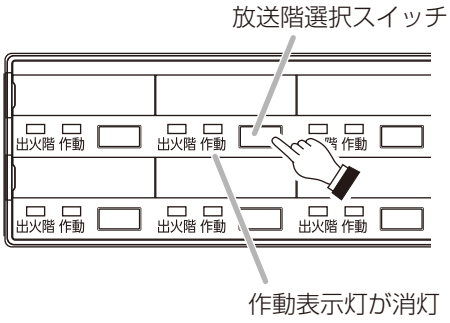
（BGM 放送中の液晶表示）

2 再度、放送階選択スイッチを押す。（BGM 放送の終了）

作動表示灯が消灯し、BGM 放送が終了します。

メ　モ

放送復旧スイッチを押しても BGM 放送は終了できません。

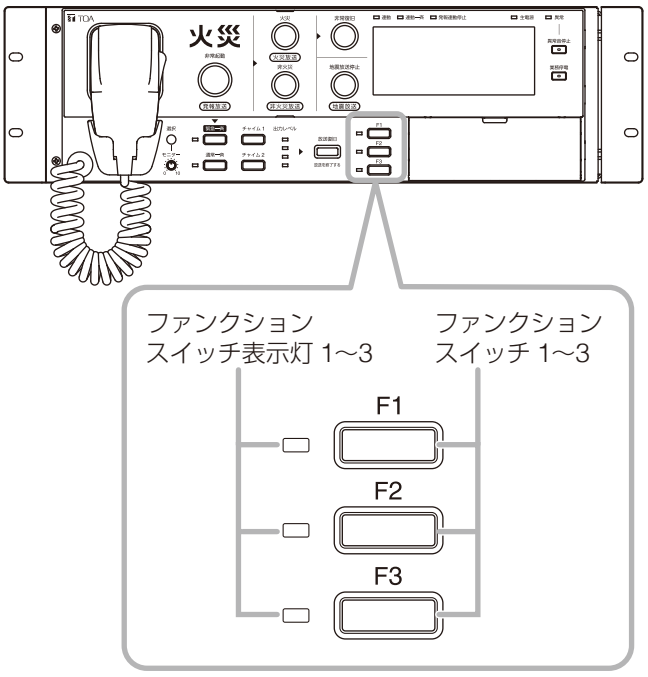


■ EV 放送のしかた

非常用操作パネルまたは非常用リモコンのファンクションスイッチ 1 ～ 3 および非常用リモコンの緊急放送スイッチ 1 ～ 3 を使って、あらかじめ登録したメッセージをワンタッチで放送することができます。
また、制御入力の用途を「EV 放送」に設定することにより、外部からファンクションスイッチに登録された放送を起動することもできます。（ ☞ 別冊のシステム設定説明書「制御入力設定」）

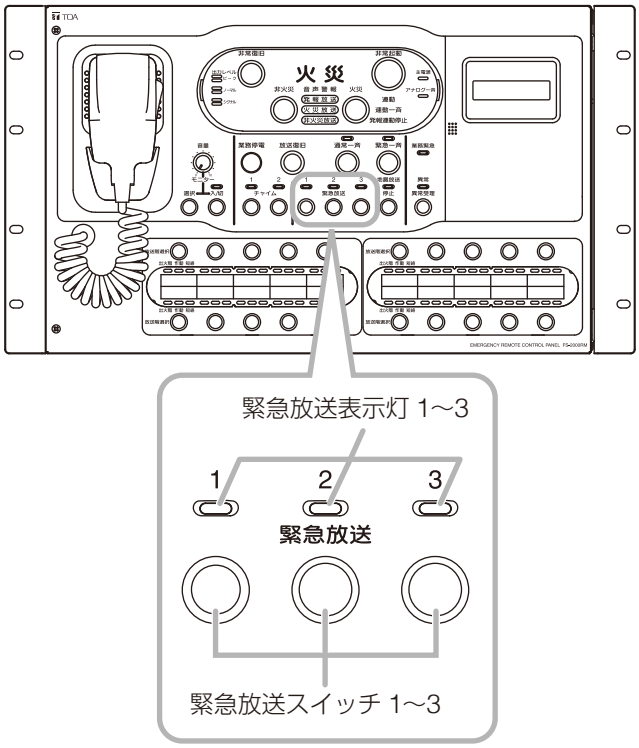
※ メッセージ、放送階、スピーカー回線へ放送を出力するモード（通常放送／緊急放送）を登録しておく必要があります。（ ☞ 別冊のシステム設定説明書「ファンクション SW 設定」）
※ 登録できるメッセージは全 10 種類です。（ ☞ 別冊のシステム設定説明書「ファンクション SW 設定」）

FS-2500EP 操作部



※ FS-2500RM も FS-2500EP と同様です。

FS-2000RM 操作部



※ FS-1010RM/1020RM/1030RM も FS-2000RM と同様です。

手順：ファンクションスイッチまたは緊急放送スイッチを押す。

ファンクションスイッチ表示灯または緊急放送表示灯が点灯し、登録されているメッセージが放送されます。
放送は、システム設定時に登録した階に行われます。

メ　モ

- 途中でメッセージの再生を停止したいときは、再度ファンクションスイッチまたは緊急放送スイッチを押します。また、用途が「EV 放送停止」に設定された制御入力で停止することもできます。
- EV 放送の優先度によっては、スイッチを押しても無効となる場合があります。
（ ☞ P. 59「放送の優先度」）
- 優先度により EV 放送をできなかった場合、EV 放送は放送待機中にはならず、キャンセルされます。優先度の高い放送が終了した後、改めてファンクションスイッチまたは緊急放送スイッチを押してください。
- 放送復旧スイッチでのメッセージの停止はできません。

■ 業務用リモコン RM-500 からの放送のしかた

● 操作の基本

[通常画面の表示]

通常使用状態では液晶画面には、以下のような内容が表示されます。

1. 番号
数字キーの番号を表示します。

2. 名称
放送先の名称を表示します。

3. 個別用アイコン表示エリア
該当する番号に割り当てられた放送先の状態をアイコンで表示します。

4. 全体用アイコン表示エリア
本機に割り当てられた放送先または制御入力の状態のうち、表示優先順位の高いものをアイコンで表示します。

5. チャイム表示エリア
本機の操作によるチャイムが鳴っているときに、以下のようなチャイムマークで表示します。

♫

設定により、以下のように、マイクレベルを表示することもできます。マイク音量が適切かどうかを放送中でも確認することができます。

PEAK ｝入力レベルが –4.0 dB 以上の場合に表示
■ ｝入力レベルが –20.0 dB 以上の場合に表示
｝入力レベルが –35.0 dB 以上の場合に表示

6. AUX 表示エリア
AUX キーの状態を表示します。

7. 放送状態表示エリア
本機に割り当てられた放送先の放送状態を表示します。

8. ページ表示
現在ページ／総ページを表示します。

[アイコン表示一覧]

アイコン	名称	表示優先順位	アイコンの意味
	他機放送中	高	他機からの放送が行われています。
	放送中	↑	本機によるマイク放送中、AUX 放送中、または放送先選択中です。
ON	制御入力作動中	低	本機の制御入力がメイク状態であることを示します。 全体用アイコン表示エリア（4）専用のアイコンです。

[放送状態表示一覧]

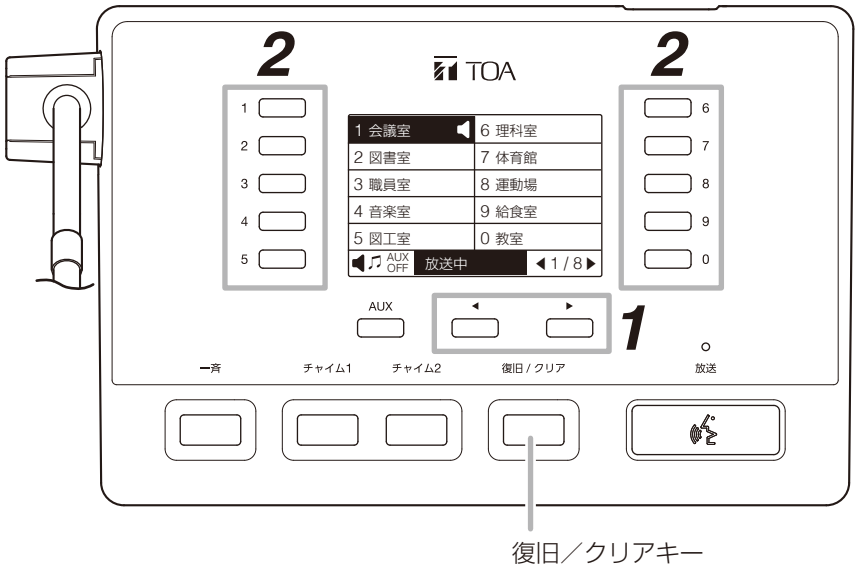
放送状態表示	表示の意味
放送中	液晶画面表示の該当する番号に設定された放送先の一部またはすべてに本機からの放送が行われています。このとき、表示エリアは反転表示（例：放送中）になります。
放送中：一斉	一斉キーに設定された放送先の一部またはすべてに本機からの放送が行われています。このとき、表示エリアは反転表示（放送中：一斉）になります。
選択中*	液晶画面表示の該当する番号に設定された放送先が選択されています。
選択中：一斉*	一斉キーに設定された放送先が選択されています。
待機中	自機が液晶表示の番号選択により放送しようとしているすべての放送先に、優先度が高い他の放送が行われ、本機からの放送ができない状態です。
待機中：一斉	自機が一斉キーの操作により放送しようとしているすべての放送先に、優先度が高い他の放送が行われ、本機からの放送ができない状態です。

* プリセレクト機能「使用する」設定時のみ

[AUX 表示一覧]

AUX 表示	表示の意味
AUX ON	AUX 機能を使用する設定で、AUX 出力がオンになっています。このとき、表示エリアは反転表示（AUX ON）になります。
AUX OFF	AUX 機能を使用する設定で、AUX 出力がオフになっています。
非表示	AUX 機能を使用しない設定です。AUX キーを押しても何も動作しません。

[画面内の項目の選択のしかた]



1 ◀キーまたは▶キーを何度か押して、選択したい項目があるページを表示させる。

2 選択したい項目の番号に該当する数字キーを押して選択する。

3 引き続き選択するときは手順 1 と 2 を必要なだけ繰り返す。

メ　モ

個別に選択を解除したいときは、同じ項目の番号に該当する数字キーをもう一度押します。
すべての項目の選択を解除したいときは、復旧／クリアキーを押します。

● キーロック機能を使用するとき

キーロック機能を「使用する」に設定していると、キーロック機能を使用できます。（☞ 別冊の設置説明書「メニュー画面での設定のしかた」）
キーロックをすることにより、キーロック解除操作以外の操作を無効にすることができます。
キーロック中は液晶画面に「キーロック中」と表示されます。

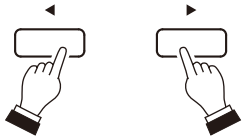
1 会議室	6 理科室
2 図書室	7 体育館
3 職員室	8 運動場
4 音楽室	9 給食室
5 図工室	0 教室
AUX OFF	◀1 / 8▶

キーロック中

メ　モ
電源の供給を停止しても、キーロック状態は保持されます。

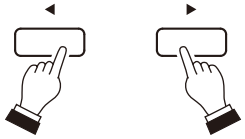
[キーロックをするとき]

手順：「キーロック中」が表示されていないときに、◀キーと▶キーを「キーロック中」が表示されるまで同時に押し続ける。



[キーロックを解除するとき]

手順：「キーロック中」が表示されているときに、◀キーと▶キーを「キーロック中」が表示されなくなるまで同時に押し続ける。



● マイク放送のしかた

[プリセレクトの設定を「使用しない」にしている場合]

メ　モ
AUX 入力を使用する設定で、AUX 表示エリアに「AUX ON」と表示されているときは、放送階の選択と同時に AUX 入力からの音声が放送され、マイク放送とミックスされます。マイク放送時に AUX 入力からの音声を放送したくない場合は、あらかじめ AUX キーを押して「AUX OFF」にしておいてください。

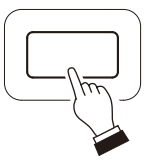
1 放送階を選択する。

1-1 個別階またはグループを選んで放送するとき

液晶画面に表示された放送先リストから選択します。（☞ P. 47「画面内の項目の選択のしかた」）

1-2 一斉区域に放送するとき

一斉



一斉キーを押します。
液晶画面の放送先がすべて選択状態になります。

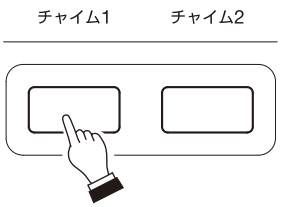
ご注意

- 通常モードの場合、一斉放送キーが「通常一斉放送」に設定されているときは、アッテネーターにより放送の音量調節ができます。一斉放送キーが「緊急一斉放送」に設定さ

れているときは、アッテネーターの設定に関係なく最大音量で放送が行われます。
- 独立制御モードの場合、各放送階選択スイッチの設定により、音量調節が可能か、最大音量で放送されるかが異なります。

メ　モ
- 業務 RM 放送の優先度によっては放送できない場合があります。
- ミックスバス放送中に業務 RM 放送を開始したときは、ミックスバス放送ミュート設定に従ってミックスバス放送が流れます。

2 必要に応じて、チャイム 1 キーまたはチャイム 2 キーを押す。



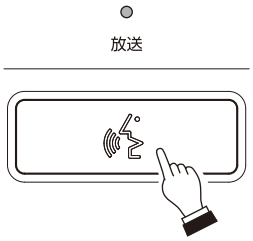
放送開始時にチャイム音を鳴らしたいときは、チャイムキーを押します。
チャイムが鳴っている間、液晶画面のチャイム表示エリアにチャイムマークが表示されます。

ご注意

業務 RM 放送の開始チャイムを設定している場合、トークキーを押すと自動的にチャイムが鳴るため、この操作は不要です。

メ　モ
- チャイムは本体システムで設定した音源を放送します。
- チャイムが鳴っている間に再度チャイムキーを押すと、操作と同時にチャイムがもう一度最初から再生されます。
- マイク放送中にもチャイム放送を鳴らすことができます。

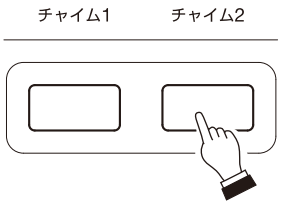
3 マイク放送を開始する。



トークキーを押します。（マイク放送の開始）
トークキーが PTT 式に設定されているときは、キーを押しながら放送します。
トークキーが LOCK 式に設定されているときは、キーを一度押し、キーから指を離して放送します。
開始チャイムを設定しているときは、トークキーを押すと同時に設定されたチャイム音が鳴ります。
チャイムが鳴っている間、液晶画面のチャイム表示エリアにチャイムマークが表示されます。
放送表示灯が点灯したら、マイク放送が可能になります。

メ　モ
- チャイムは本体システムで設定した音源を放送します。
- トークキーはシステム設定時に PTT 式と LOCK 式のどちらかに設定されています。（工場出荷時の設定：LOCK 式）
  PTT 式　：キーを押している間だけ放送できます。キーから指を離すと放送が終了します。
  LOCK 式 ：一度キーを押すと放送が開始され、もう一度押すと放送が終了します。

4 必要に応じて、チャイム 1 キーまたはチャイム 2 キーを押す。



放送終了時にチャイム音を鳴らしたいときは、チャイムキーを押します。

ご注意

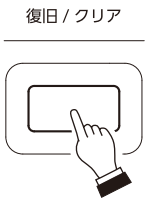
業務 RM 放送の終了チャイムを設定している場合、トークキー（PTT 式）から指を離すか、再度トークキー（LOCK 式）を押すと自動的にチャイムが鳴るため、この操作は不要です。

5 マイク放送を終了する。

PTT 式のときはトークキーから指を離します。LOCK 式のときはもう一度トークキーを押します。（マイク放送の終了）
マイク放送が終了します。
終了チャイムを設定しているときは、放送終了時にチャイムが流れます。
自動復旧の設定を「あり」にしているときは、放送階の選択が解除され、放送が終了します。

6 （自動復旧の設定を「なし」に設定しているときのみ）復旧／クリアキーを押す。

放送が終了し、放送階の選択状態も解除されます。



[プリセレクトの設定を「使用する」にしている場合]

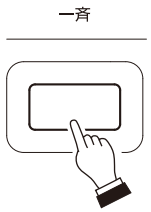
1 放送階を選択する。

1-1 個別階またはグループを選んで放送するとき

液晶画面に表示された放送先リストから選択します。（☞ P. 47「画面内の項目の選択のしかた」）

1-2 一斉区域に放送するとき

一斉キーを押します。
液晶画面の放送先がすべて選択状態になります。



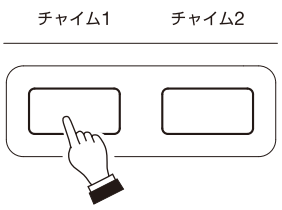
ご注意

- 一斉放送キーが「通常一斉放送」に設定されているときは、アッテネーターにより放送の音量調節ができます。
- 一斉放送キーが「緊急一斉放送」に設定されているときは、アッテネーターの設定に関係なく最大音量で放送が行われます。

メ　モ

- 業務 RM 放送の優先度によっては放送できない場合があります。
- ミックスバス放送中に業務 RM 放送を開始したときは、ミックスバス放送ミュート設定に従ってミックスバス放送が流れます。

2 必要に応じて、チャイム 1 キーまたはチャイム 2 キーを押す。



放送開始時にチャイム音を鳴らしたいときは、チャイムキーを押します。
チャイムが鳴っている間、液晶画面のチャイム表示エリアにチャイムマークが表示されます。

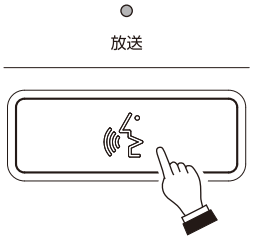
ご注意

業務 RM 放送の開始チャイムを設定している場合、トークキーを押すと自動的にチャイムが鳴るため、この操作は不要です。

メ　モ

- チャイムは本体システムで設定した音源を放送します。
- チャイムが鳴っている間に再度チャイムキーを押すと、操作と同時にチャイムがもう一度最初から再生されます。
- マイク放送中にもチャイム放送を鳴らすことができます。

3 マイク放送を開始する。

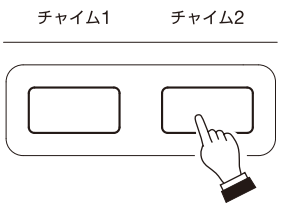


トークキーを押します。（マイク放送の開始）
トークキーが PTT 式に設定されているときは、キーを押しながら放送します。
トークキーが LOCK 式に設定されているときは、キーを一度押し、キーから指を離して放送します。
開始チャイムを設定しているときは、トークキーを押すと同時に設定されたチャイム音が鳴ります。
チャイムが鳴っている間、液晶画面のチャイム表示エリアにチャイムマークが表示されます。
放送表示灯が点灯したら、マイク放送が可能になります。

メ　モ

- チャイムは本体システムで設定した音源を放送します。
- トークキーはシステム設定時に PTT 式と LOCK 式のどちらかに設定されています。（工場出荷時の設定：LOCK 式）
  PTT 式　：キーを押している間だけ放送できます。キーから指を離すと放送が終了します。
  LOCK 式 ：一度キーを押すと放送が開始され、もう一度押すと放送が終了します。

4 必要に応じて、チャイム 1 キーまたはチャイム 2 キーを押す。



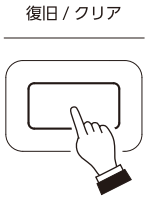
放送終了時にチャイム音を鳴らしたいときは、チャイムキーを押します。

ご注意

業務 RM 放送の終了チャイムを設定している場合、トークキー（PTT 式）から指を離すか、再度トークキー（LOCK 式）を押すと自動的にチャイムが鳴るため、この操作は不要です。

5 マイク放送を終了する。

PTT 式のときはトークキーから指を離します。LOCK 式のときはもう一度トークキーを押します。（マイク放送の終了）
マイク放送が終了します。
終了チャイムを設定しているときは、マイク放送終了時にチャイムが流れます。
自動復旧の設定を「あり」にしているときは、マイク放送終了後に、放送階が選択された状態に戻ります。
放送階の選択状態を次の放送にも利用する場合、**手順 6** の操作は不要です。
ただし、AUX 放送中の場合は、マイク放送終了後も AUX 放送を継続します。



6 復旧／クリアキーを押す。

放送が終了します。
自動復旧の設定を「なし」にしているときは放送階は選択されたままになります。

● AUX 放送のしかた

AUX 入力を使用する設定にしている場合、AUX キーを使用して AUX 入力からの音声を放送できます。
AUX キーの状態は液晶画面の AUX 表示エリアで確認できます。

メ　モ

AUX 放送はマイク放送とミックスされます。
AUX ミュート機能が設定されていると、マイク放送が入ったときに、設定に従って、AUX 放送がミュートされます。詳細については、別冊のシステム設定説明書をお読みください。

[プリセレクトの設定を「使用しない」にしている場合]

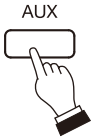
AUX キーは AUX 入力を ON/OFF するスイッチとして機能します。
放送階が選択されており、かつ AUX 入力が ON のときに、AUX 入力からの音声が放送されます。

1 放送を開始する。

メ　モ

手順 1-1 と **1-2** は順番が逆になっても構いません。

1-1 「AUX OFF」と表示されているときに AUX キーを押す。

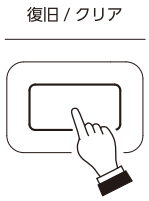


表示が「AUX ON」に変わります。

1-2 放送階を選択する。

マイク放送のとき（P. 48）と同様に、個別階またはグループを選ぶか、一斉キーで一斉区域を選択してください。
選択した放送階に AUX 入力からの音声が放送されます。

2 放送を終了する。

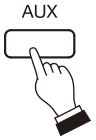


手順 1-2 で押したキーをもう一度押して放送階の選択を解除するか、または復旧／クリアキーを押します。
AUX 入力からの放送が終了します。

AUX キーを押すと表示が「AUX OFF」に変わります。

メ　モ

AUX キーを押すタイミングは、放送階の選択解除または復旧／クリアキーを押す前でも後でも構いません。
「AUX ON」のままにしておいても構いません。



[プリセレクトの設定を「使用する」にしている場合]

AUX キーは放送階が選択されているときのみ機能します。

1 放送を開始する。

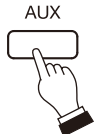
ご注意

手順 1-1 と **1-2** は順番どおりに行ってください。
放送階が選択されていないときに AUX キーを押しても無効になります。

1-1 放送階を選択する。

マイク放送のとき（P. 48）と同様に、個別階またはグループを選ぶか、一斉キーで一斉区域を選択してください。

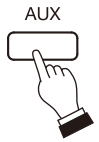
1-2 AUX キーを押す。



表示が「AUX ON」に変わり、選択した放送階に AUX 入力からの音声が放送されます。

2 放送を終了する。

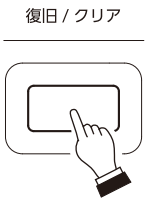
2-1 自動復旧の設定を「あり」にしているとき



AUX キーを押すと、AUX 放送が終了します。
ただし、マイク放送中やチャイム放送中の場合、それらは継続します。

AUX キーの代わりに復旧／クリアキーを押しても、放送が終了します。
放送が終了したら、AUX 入力は自動的にオフになります。

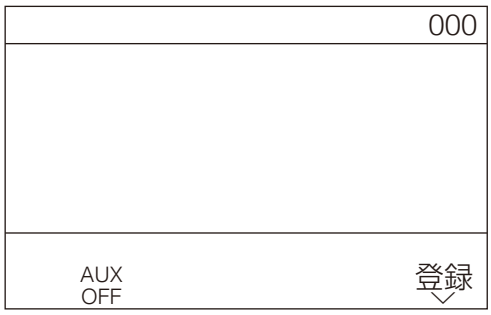
2-2 自動復旧の設定を「なし」にしているとき



復旧／クリアキーを押すと、AUX 放送が終了します。

● ダイレクト選択モードでの放送のしかた

ダイレクト選択モードに設定されている場合は、放送階の選択のしかたが以下のように変わります。



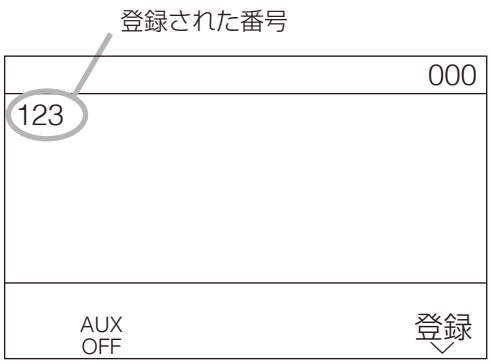
1 数字キーを押して、放送したい回線番号を入力する。

画面右上に入力した回線番号が表示されます。

2 ▶キーを押して登録する。

メ　モ

入力中の番号が表示されている状態で、復旧／クリアキーを押すと、入力中の番号が削除されます。



入力した回線番号が放送階として登録されます。
ただし、他機放送中などのために指定した回線が選択できなかったときは、登録番号欄には追加されず、入力番号欄も初期値の「000」に戻ります。

3 複数の回線に放送するときは、手順 1 と 2 を繰り返す。

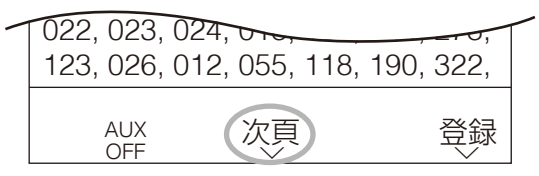
登録できるのは最大 80 回線です。

メ　モ

- 登録した回線をすべて削除したいときは、復旧／クリアキーを押してください。登録回線が複数ある場合は、全削除確認ダイアログが表示されますので、再度復旧／クリアキーを押してください。
- 登録した回線のうち、1 回線だけを削除したいときは、数字キーを押して削除したい回線番号を入力し、▶キーを押してください。

メ　モ

- 液晶画面の 1 ページには登録された回線が 40 回線分表示できます。
  40 回線を超えると、画面下中央に「次頁」と表示されます。そのときは、◀キーを押すと、表示ページを切り換えられます。



- マイク放送、AUX 放送ともに、放送階の選択のしかたが変わるだけで、トークスイッチ、AUX キーなどの使いかたは P. 48「マイク放送のしかた」、P. 52「AUX 放送のしかた」と同じです。
  また、一斉区域への放送は一斉キーを使用して行えます。

■ 業務用リモコンRM-200F、RM-200FWからの放送のしかた
（スイッチ動作設定が通常動作モードの場合）

※ スイッチ動作設定が独立制御モードの場合の動作については、別冊のシステム設定説明書をお読みください。

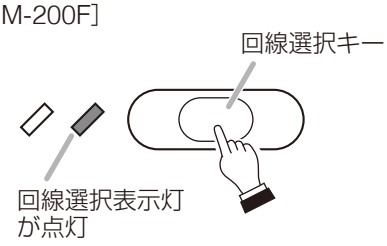
業務用リモコン RM-200F、RM-200FW を操作して放送を行う手順は以下のとおりです。

1 放送階を選択する。

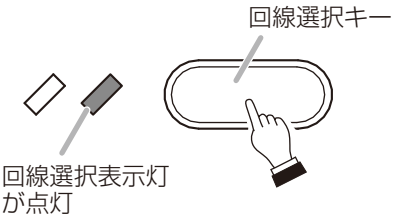
回線選択キーまたは一斉放送キーを押して、放送階を選択します。
非常用操作パネルの液晶画面に放送状態が表示されます。（☞ P. 68「液晶画面での業務放送状態表示」）
FS-2500 本体のミックスバス（用途が「業務／放送階選択 SW」）に割り当てられた音声入力に音源が入力されているときは、ミックスバス放送ミュート設定に従って音源からの放送が流れます。
業務用リモコン RM-200F が AUX 入力を使用する設定にされているときは、RM-200F 後面の EXTERNAL MIC IN 端子の音声が放送されます。（☞ 別冊の設置説明書「AUX 入力を使用するとき」）

個別階またはグループを選んで放送するとき

［RM-200F］



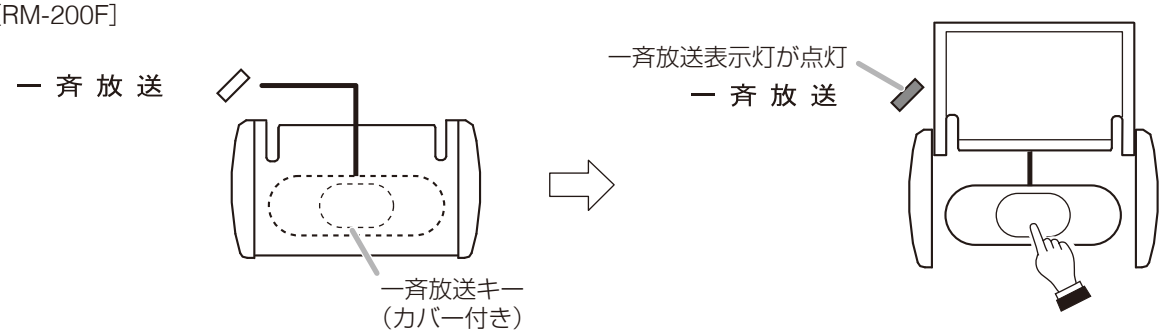
［RM-200FW］



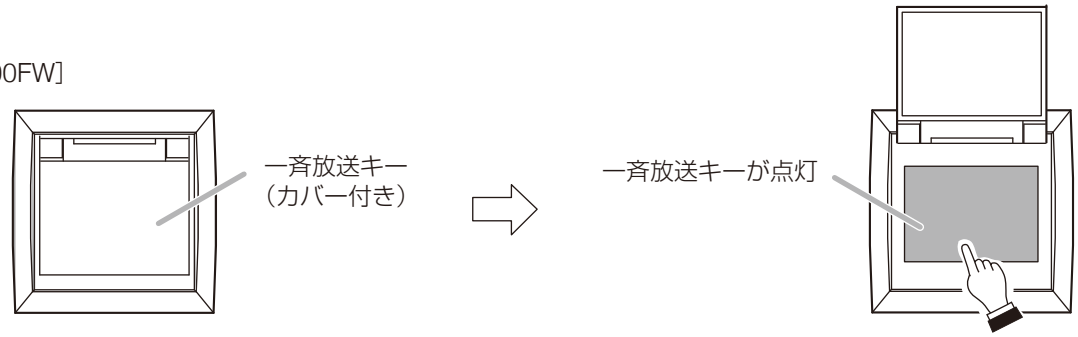
※ 回線選択キーは RM-220FW にあります。

一斉区域に放送するとき

［RM-200F］



［RM-200FW］



ご注意

- 一斉放送キーが「通常一斉放送」に設定されているときは、アッテネーターにより放送の音量調節ができます。
- 一斉放送キーが「緊急一斉放送」に設定されているときは、アッテネーターの設定に関係なく最大音量で放送が行われます。

メ　モ

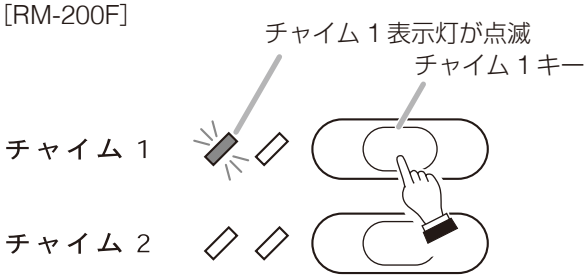
- 業務 RM 放送の優先度によっては放送できない場合があります。（☞ P. 59「放送の優先度」）
- ミックスバス放送中に業務 RM 放送を開始したときは、ミックスバス放送ミュート設定に従ってミックスバス放送が流れます。（☞ P. 61「ミックスバス放送」）

2 必要に応じて、チャイム 1 キーまたはチャイム 2 キーを押す。

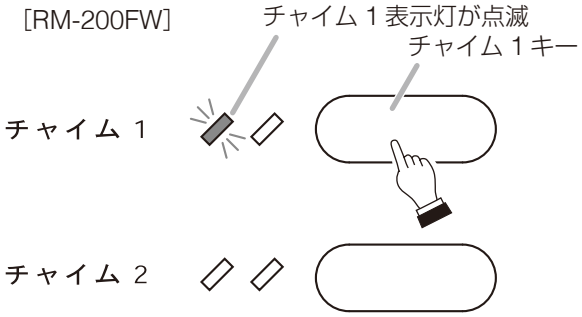
放送開始時にチャイム音を鳴らしたいときは、チャイムキーを押します。

（チャイム 1 キーを押した例）

［RM-200F］



［RM-200FW］



ご注意

業務 RM 放送の開始チャイムを設定している場合、トークキー／トークスイッチを押すと自動的にチャイムが鳴るため、この操作は不要です。（☞ 別冊のシステム設定説明書「業務放送動作設定」）

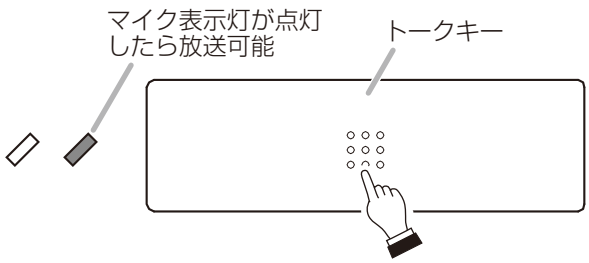
メ　モ

- チャイムの種類はシステム設定で変更できます。
  ［工場出荷時の設定］
  チャイム 1：上り 4 音
  チャイム 2：下り 4 音
- チャイムが鳴っている間に再度チャイムキーを押すと、操作と同時にチャイムがもう一度最初から再生されます。
- マイク放送中にもチャイム放送を鳴らすことができます。

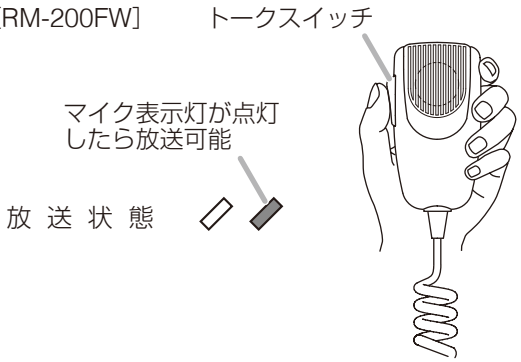
3 マイク放送を開始する。

トークキー／トークスイッチを押します。（マイク放送の開始）
開始チャイムを設定しているときは、トークキー／トークスイッチを押すと同時に設定されたチャイム音が鳴ります。
チャイムが鳴っている間、放送状態表示灯が点滅します。放送状態表示灯およびマイク表示灯が点灯に変わったら、マイク放送が可能になります。
RM-200F の場合は、トークキーが PTT 式に設定されているときは、キーを押しながら放送します。
トークキーが LOCK 式に設定されているときは、キーを一度押し、キーから指を離して放送します。
RM-200FW の場合は、トークスイッチを押しながら放送します。

［RM-200F］



［RM-200FW］

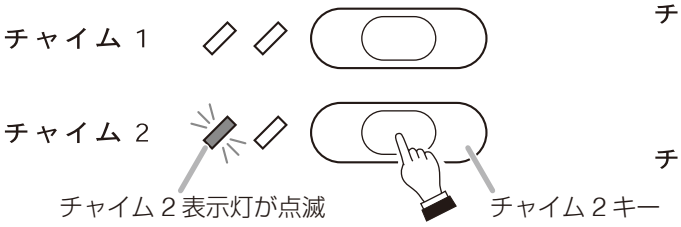


4 必要に応じて、チャイム 1 キーまたはチャイム 2 キーを押す。

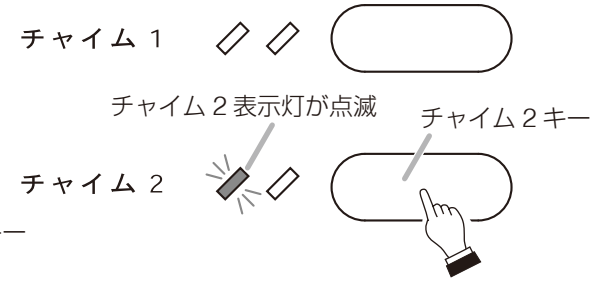
放送終了時にチャイム音を鳴らしたいときは、チャイムキーを押します。

（チャイム 2 キーを押した例）

［RM-200F］



［RM-200FW］



ご注意

業務 RM 放送の終了チャイムを設定している場合、トークキー／トークスイッチ（PTT 式）から指を離すか、再度トークキー（LOCK 式）を押すと自動的にチャイムが鳴るため、この操作は不要です。
（☞ 別冊のシステム設定説明書「業務放送動作設定」）

メ　モ

- チャイムの種類はシステム設定で変更できます。
  ［工場出荷時の設定］
  開始チャイム：未使用
  終了チャイム：未使用
- RM-200F のトークキーはシステム設定時に PTT 式と LOCK 式のどちらかに設定されています。（工場出荷時の設定：LOCK 式）（☞ 別冊のシステム設定説明書「業務 RM 動作設定」）
  PTT 式　：キーを押している間だけ放送できます。キーから指を離すと放送が終了します。
  LOCK 式：一度キーを押すと放送が開始され、もう一度押すと放送が終了します。
- RM-200FW のトークスイッチは PTT 式で固定です。
- 業務用リモコン RM-200F が AUX 入力を使用する設定にされているときは、RM-200F 後面の EXTERNAL MIC IN 端子の音声とマイクからの音声がミキシングされて放送されます。

5 マイク放送を終了する。

PTT 式のときはトークキー／トークスイッチから指を離します。LOCK 式のときはもう一度トークキーを押します。（マイク放送の終了）
マイク放送が終了します。
終了チャイムを設定しているときは、マイク放送終了時にチャイムが流れます。
業務用リモコン RM-200FW のとき、または業務用リモコン RM-200F が AUX 入力を使用しない設定にされているときは、マイク放送が終了すると、放送階の選択が解除されます。
業務用リモコン RM-200F が AUX 入力を使用する設定にされているときは、マイク放送が終了しても放送階の選択は継続し、EXTERNAL MIC IN 端子の音声が放送されます。

■ その他端子入力を使用した放送のしかた

本体放送、放送階選択スイッチによる BGM 放送、ミックスバス放送、EV 放送、非常用リモコンからの放送、業務用リモコンからの放送以外にも、外部機器を本体に接続して、以下の業務放送ができます。

接点式 RM 放送
PM 音声入力放送
ミックスバス（BGM）放送
ミックスバス（制御入力）放送
EV 放送

（☞ 別冊の設置説明書「その他演奏機器などの接続」）

● 放送の開始

外部機器が接点端子をメイクすることで放送が開始されます。
放送は、システム設定時に登録した階に行われます。
ミックスバス放送中に放送を開始したときは、ミックスバス放送ミュート設定に従ってミックスバス放送が流れます。

● 放送の終了

接点端子がブレイクされると放送が終了します。
終了チャイムが設定されているときは、接点ブレイク時に設定されたチャイムが鳴ります。

メ　モ

EV 放送は、メッセージの再生が終了すると、自動的に放送が終了します。
途中でメッセージ再生を停止したいときは、用途が「EV 放送停止」に設定された接点端子をメイクします。
また、再生中のファンクションスイッチや緊急放送スイッチを押すことでも停止できます。

● 複数の接点端子で同じ音源機器を使用するとき

1 つの音源に対して複数の接点端子を設定している場合、それら複数の端子がメイクすると、それぞれに設定された放送階すべてに放送が流れます。
開始または終了チャイムを設定しているときは、いずれか 1 つの端子がメイクしたとき、またはすべての端子がブレイクしたときだけチャイムが鳴ります。

メ　モ

- 放送の優先度によっては、接点端子をメイクしても放送できないことがあります。（☞ P. 59「放送の優先度」）
- チャイムの種類はシステム設定で変更できます。
  ［工場出荷時の設定］
  開始チャイム：未使用
  終了チャイム：未使用
- ミックスバス放送中に放送を開始したときは、ミックスバス放送ミュート設定に従ってミックスバス放送が流れます。（☞ P. 61「ミックスバス放送」）

業務放送の機能

■ 放送の優先度

複数の音源から同時に放送を行った場合、あらかじめ設定した優先度に従って、アンプから放送される音源が決定されます。
優先度設定についての詳細は、別冊のシステム設定説明書「優先度設定」をお読みください。
放送の優先は、システム設定時にあらかじめ設定された優先度と同一優先度動作により決まります。

● 優先度

- 各音源に対して、優先度の高さが 1 ～ 60 の範囲で設定されています。数字が小さいほど優先度が高くなります。

［初期値］

業務放送	優先度
本体マイク放送	2
非常 RM1 放送	3
非常 RM2 放送	4
非常 RM3 放送	5
⟆	⋮
非常 RM16 放送	18
業務 RM1 放送	19

業務放送	優先度
業務 RM2 放送	20
⟆	⋮
業務 RM8 放送	26
接点式 RM1 放送	27
接点式 RM2 放送	28
接点式 RM3 放送	29
EV 放送 1	1

業務放送	優先度
EV 放送 2	1
EV 放送 3	
PM1 音声入力 1 放送	31
⟆	
PM1 音声入力 8 放送	
PM2 音声入力 1 放送	
⟆	
PM2 音声入力 8 放送	

業務放送	優先度
PM3 音声入力 1 放送	31
⟆	
PM3 音声入力 8 放送	
ミックスバス 1	40
⟆	⋮
ミックスバス 4	43

- 優先度は同じに設定することもできます。

● 同一優先度動作

優先度が同じ音源について、それらの間の動作を以下のどちらかに設定します。

先取り：先に起動した方の放送が優先されます。先に始めた放送が終了するまで、他の同一優先度の音源は放送できません。

後取り：後に起動した方の放送が優先されます。（初期設定）

（☞ 別冊のシステム設定説明書「同一優先度動作設定」）

■ 放送状態決定ルール

業務放送時に複数の放送を同時に行ったとき、各出力先からどの音源が放送されるかは以下の放送状態決定ルールに従います。
※ ミックスバス放送は除きます。（☞ P. 61「ミックスバス放送」）

1 ミックスバス放送以外の各放送を優先度順に並べる。

起動中の各放送を、あらかじめ設定した優先度の順番に並べます。

メ　モ

優先度が同じときは、同一優先度動作設定に従います。（☞ 上記「同一優先度動作設定」）

2 入力を取得する。

放送の種類が非常 RM 放送または同一音声入力に接続された業務 RM 放送の場合は、優先度の高い放送で音声入力が使用中か判断し使用中でなければ音声入力を予約します。

※ 音声入力が取得できなかった場合は**手順 4** に移動。

※ 放送の種類が非常RM放送または同一音声入力に接続された業務RM放送以外の場合は**手順 3** に移動。

3 音声出力を予約する。

放送先のスピーカー回線に対する音声出力を予約します。優先度の高い放送で使用されている音声出力は予約できません。

※ 放送の種類が非常 RM 放送または同一音声入力に接続された業務 RM 放送で、音声出力が 1 つも予約できなかった場合は、**手順 2** の音声入力の予約をキャンセルします。アンプと入力バスを両方取得できたら、それらの出力系統に放送を行えます。

※ 入力バスを取得できなかったときは**手順 2** のアンプの予約をキャンセルして**手順 4** に移動。

4 優先度順に手順 2 ～ 3 を繰り返す。

次に優先度の高い放送について音声出力の取得をします。

※ ミックスバス放送以外の放送について、**手順 2 ～ 3** が終われば**手順 5** に移動。

5 ミックスバス放送の出力先を決定する。

ミックスバス放送の放送先のスピーカー回線に対する音声出力について、出力先を取得します。ミックスバスの用途、音声出力を取得している放送の優先度と放送先のスピーカー回線から出力の可否を判断します。

5-1 用途が「業務（放送階選択）」の場合

本体マイク放送、非常 RM 放送、業務 RM 放送が出力されている音声出力にミックスバス放送をミックスして出力します。

（1）本体マイク放送などよりミックスバス放送の優先度が低いまたは同じ場合

ミックスバス放送の制御方法は、出力されている各放送のミックスバス制御方法に従ってミュートされてミックスされます。放送先のスピーカー回線は、本体マイク放送、非常 RM 放送、業務 RM 放送の放送階選択スイッチで選択中の放送先スピーカー回線になります。

（2）本体マイク放送などよりミックスバス放送の優先度が高い場合

本体マイク放送などは出力されず、ミックスバス放送のみがミックスされて出力されます。ミックスバス放送の中で最も優先度の高い放送のミックスバス制御方法に従って他のミックスバス放送をミュートします。放送先のスピーカー回線は、本体マイク放送、非常 RM 放送、業務 RM 放送の放送階選択スイッチで選択中の放送先スピーカー回線になります。

5-2 用途が「業務（放送階選択）」以外の場合

（1）音声出力が使用されていない場合

ミックスバス放送が音声出力を取得します。放送先スピーカー回線はミックスバス放送の放送先スピーカー回線になります。

（2）音声出力を取得している放送の優先度がミックスバス放送より低いまたは同じ場合

優先度の低い放送の音声出力取得をキャンセルしてミックスバス放送が音声出力を取得します。放送先スピーカー回線はミックスバス放送の放送先スピーカー回線になります。

（3）音声出力を取得している放送の優先度がミックスバス放送より高い場合

① ミックスバス放送の放送先スピーカー回線に優先度の高い放送の放送先スピーカー回線がすべて含まれる場合

優先度の高い放送とミックスバス放送をミックスして音声出力へ出力します。ミックス方法は優先度の高い放送のミックスバス制御方法に従います。また、放送先スピーカー回線は優先度の高い放送の放送先スピーカー回線となります。

スピーカー回線	1	2	3	4	5
ミックスバス放送	○	○	○	○	
優先度の高い放送		○	○	○	

→

1	2	3	4	5
×	△	△	△	
	○	○	○	

② 優先度の高い放送のみが放送されるスピーカー回線がある場合

優先度の高い放送のみを音声出力へ出力します。放送先スピーカー回線は優先度の高い放送の放送先スピーカー回線となります。

スピーカー回線	1	2	3	4	5
ミックスバス放送	○	○			
優先度の高い放送		○	○	○	

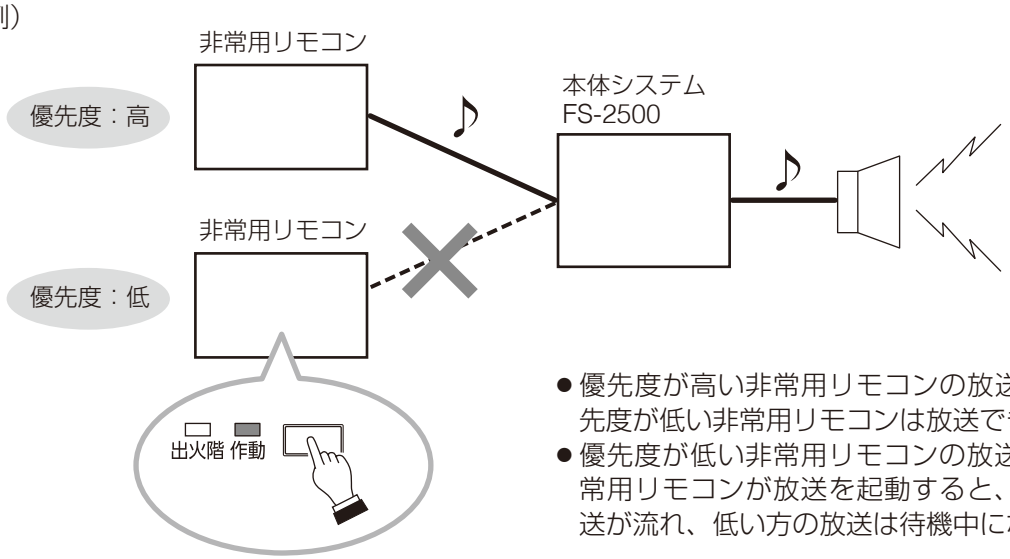
→

1	2	3	4	5
×	×			
	○	○	○	

● 非常用リモコン同士、業務用リモコン同士の放送の優先

非常用リモコンを複数台使用するときは、一度に放送できるリモコンは 1 台のみです。
また、同じ音声入力に接続されている業務用リモコンも、一度に放送できるリモコンは 1 台のみです。
放送できるリモコンはあらかじめ設定された優先度に従います。（☞ P. 59「放送の優先度」）
1 番目に優先度の高い非常用リモコンが放送を行っている間は、入力バスおよびアンプが空いていても、2 番目以下の非常用リモコンから放送することはできません。
業務用リモコンについても同様です。

（例）



- 優先度が高い非常用リモコンの放送中は、それよりも優先度が低い非常用リモコンは放送できません。
- 優先度が低い非常用リモコンの放送中に優先度が高い非常用リモコンが放送を起動すると、優先度が高い方の放送が流れ、低い方の放送は待機中になります。

ご注意

RM-1100 同士の優先度については、別冊の設置説明書「RM-1100 の接続／複数台接続時の優先順位の設定」をお読みください。

● ミックスバス放送

ミックスバス放送とは、本体の外部放送入力または 1 台のプリアンプマトリクスパネルの複数の入力をミキシングして 1 つの音源として放送する機能です。他の放送とミキシングして放送することも可能です。
ミックスバスは 1 ～ 4 の 4 つが用意されており、1 ～ 3 はプリアンプマトリクスパネルの入力のみ割り付けできます。ミックスバス 4 は本体の外部放送入力またはプリアンプマトリクスパネルの入力のいずれかに割り付けできます。
ミキシング時のミックスバス放送のミュートなどは、ミキシングされる放送に設定されたミックスバス放送のミュートトリガーおよびミュート対象設定に従います。
この放送の起動と終了には以下の方法があり、次のように放送されます。

用途	動作
業務（放送階選択）	本体、非常用リモコン、または業務用リモコンの放送階選択スイッチの操作で放送され、本体、非常用リモコン、または業務用リモコンの放送とミキシングして放送されます。
業務（制御入力）	FS-2500EP の外部放送制御入力や FS-2500PM の制御入力で放送され、ミックスバス放送より優先度の高い放送とミキシングされて出力されます。
BGM	用途が「BGM1 ～ 4」に設定された本体および非常用リモコンの放送階選択スイッチの操作や、用途が「BGM 放送」に設定された FS-2500EP の外部放送制御入力および FS-2500PM の制御入力で放送され、ミックスバス放送より優先度の高い放送とミキシングされて出力されます。

● ミックスバス放送ミュート制御とチャイム連動

各業務放送に設定可能なミックスバス放送のミュートトリガーは以下のとおりです。
EV 放送はその放送中にすべてのミックスバス放送をカットします。

ミュートトリガー / 音源	制御なし	音声レベル	放送階選択	トークスイッチ	制御入力	参照ページ
本体マイク放送	○	○	○	○	—	P. 63
非常 RM 放送	○	○	○	○	—	
業務 RM 放送	○	○	○	○	—	
接点式 RM 放送	○	—	—	—	○	P. 64
PM 音声入力放送	○	—	—	—	○	

また、各放送の開始時や終了時にチャイムを自動的に鳴らすこともできます。

● ミックスバス制御対象

各音源の放送時にミュート制御するミックスバス放送を設定できます。

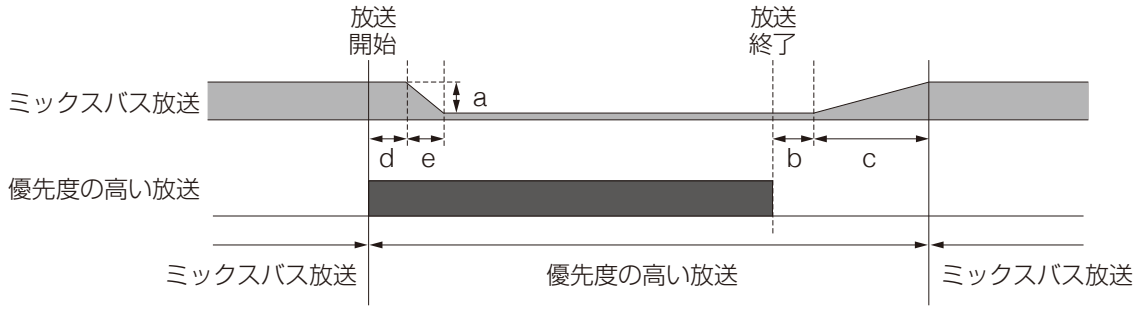
制御対象	制御内容
ミックスバス 1 ～ 4	放送中のすべてのミックスバスをミュート制御してミキシングします。
ミックスバス 2 ～ 4	放送中のミックスバス 1 はミュート制御せずにミキシングし、残りのミックスバス 2 ～ 4 はミュート制御してミキシングします。
ミックスバス 3 ～ 4	放送中のミックスバス 1、2 はミュート制御せずにミキシングし、残りのミックスバス 3、4 はミュート制御してミキシングします。
ミックスバス 4	放送中のミックスバス 1 ～ 3 はミュート制御せずにミキシングし、残りのミックスバス 4 はミュート制御してミキシングします。
全てカット	放送中のミックスバスをすべてカットし、ミキシングしません。

メ　モ

ミックスバス放送時の制御対象としてそのミックスバスが含まれるときは、ミュート制御およびカット制御は行わずに放送されます。

1. ミックスバス放送のミュート動作

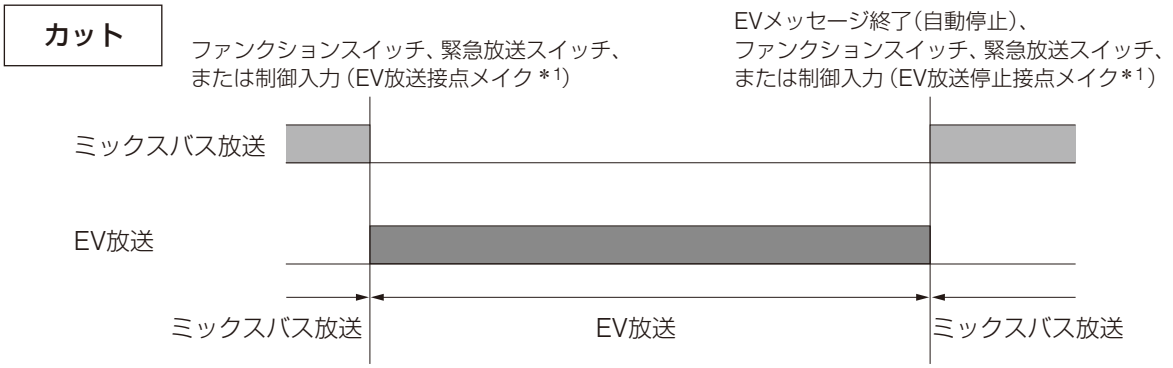
優先度の高い放送で、ミックスバス放送のミュートを行うときは、以下の時間やレベルを指定することができます。



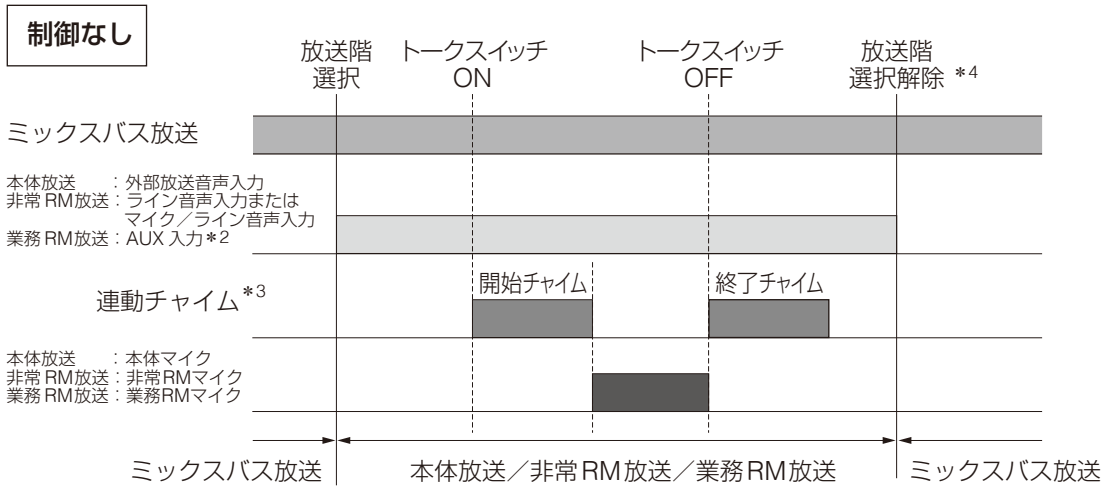
記号	設定項目	設定範囲	初期設定
a	ミュート量	– ∞、–50 ～ –10 dB	–40 dB
b	復帰待ち時間	1 ～ 10 秒	2 秒
c	復帰時間	0 ～ 10 秒	1 秒
d	ミュート開始待ち時間	0 ～ 10 秒	0 秒
e	ミュート時間	0 ～ 10 秒	0 秒

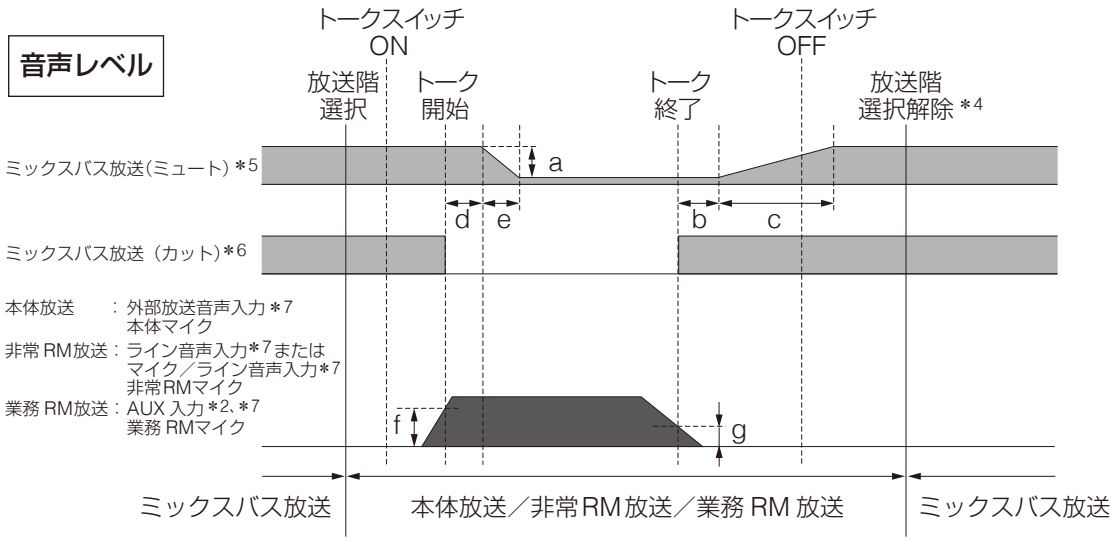
2. ミックスバス放送の制御方法

（1）EV 放送の場合
「カット」で固定となります。
EV 放送には連動チャイムはありません。



（2）本体マイク放送、非常 RM 放送、業務 RM 放送の場合
「制御なし」、「音声レベル」、「放送階選択」、「トークスイッチ」から選択できます。
「音声レベル」では、制御開始と終了の音声レベルが設定できます。



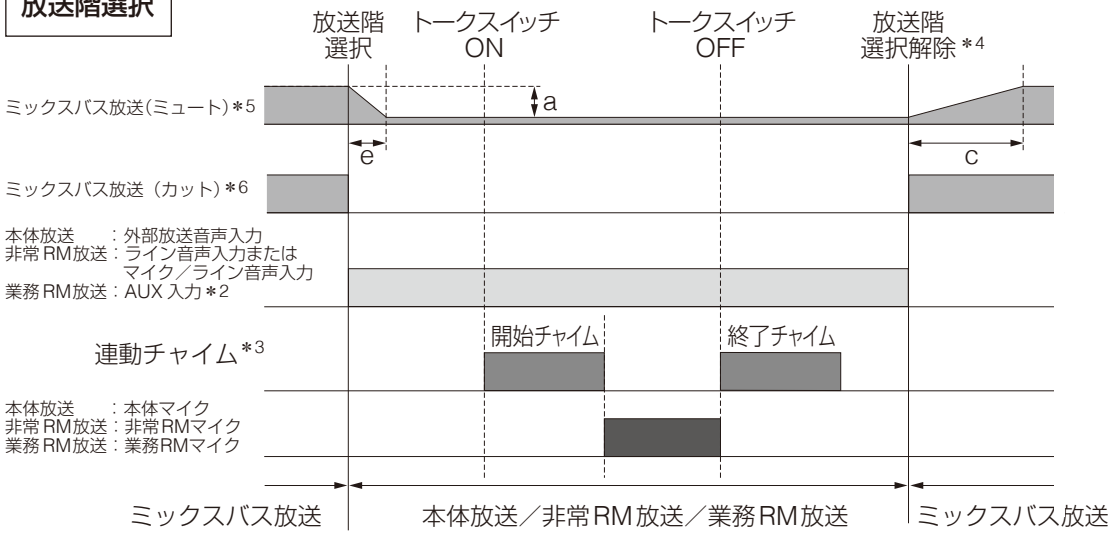


記号	設定項目	設定範囲	初期設定
f	開始感度	–40 ～ –1 dB	–30 dB
g	終了感度	–50 ～ 0 dB	–40 dB

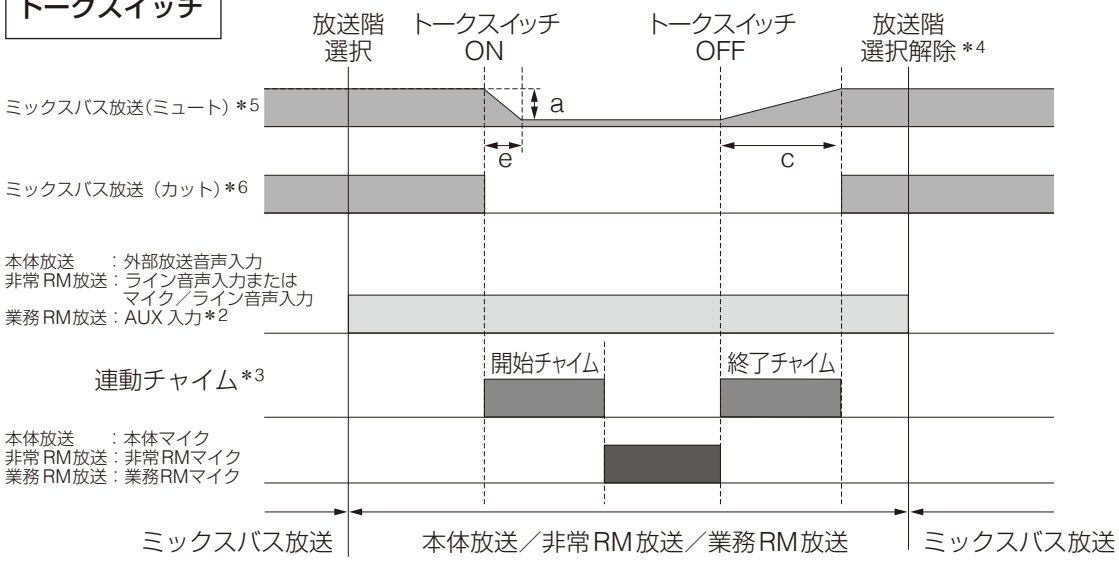
※「音声レベル」には連動チャイムはありません。
連動チャイムを使用する場合は、「トークスイッチ」を利用してください。

※ 記号（a ～ e）については前ページ、脚注（*1～7）については P. 65 を参照してください。

放送階選択

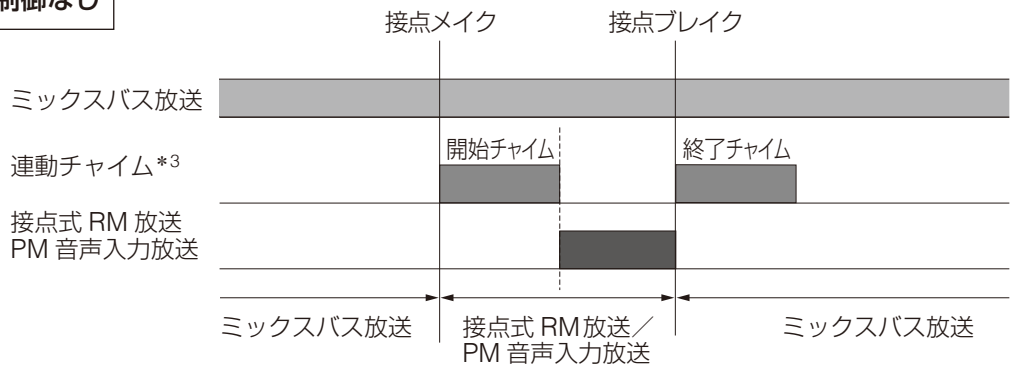


トークスイッチ



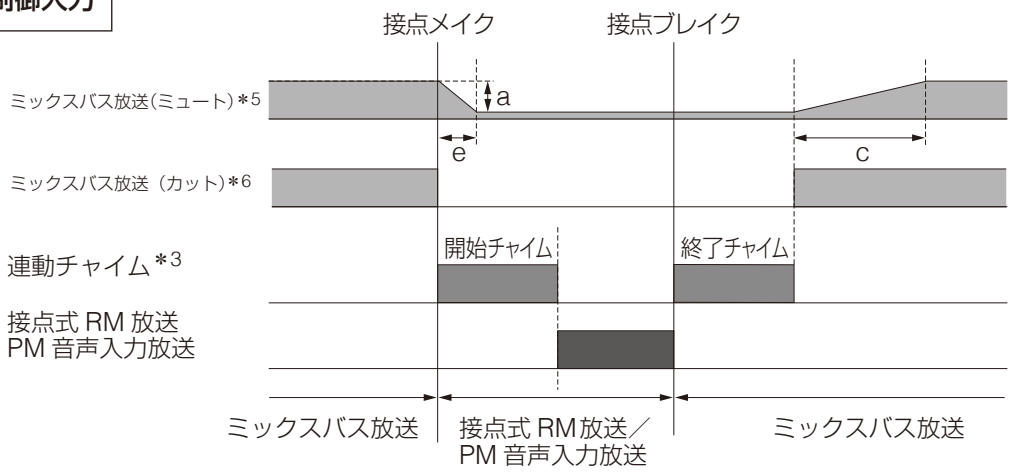
（3）接点式 RM 放送、PM 音声入力放送の場合
「制御なし」、「制御入力」から選択できます。

制御なし



※ 記号（a ～ e）については P. 62、脚注（*2～*6）については次ページを参照してください。

制御入力



*1 接点ブレイク時は変化ありません。
*2 RM-200F で AUX 入力を使用する場合。
*3 開始／終了チャイムを「未使用」に設定しているときは、トークスイッチ ON/OFF 時または接点メイク／ブレイク時にチャイム音を鳴らしません。
*4 以下の場合、業務用リモコンのマイク放送を終了すると、自動的に放送階選択が解除されます。
- RM-500 の「プリセレクト設定：使用しない」かつ「自動復旧設定：あり」の場合
- RM-500 の「プリセレクト設定：使用する」かつ「自動復旧設定：あり」の場合に、AUX 放送が放送されていないとき
- RM-200F の AUX 入力が未使用の場合
- RM-200FW の場合

*5 ミックスバス放送のうち、ミュート制御する対象として設定されている放送。
*6 ミックスバス放送の制御対象が「全てカット」に設定されているときのすべてのミックスバス放送。
*7 あらかじめ音声が入力されている場合は、放送階選択が行われた時点で音声レベル制御が働きます。

※ 記号（a ～ e）については P. 62 を参照してください。

■ 本体・非常 RM・業務 RM 放送時の各音源の動作

FS-2500 本体、非常用リモコン、または業務用リモコンからマイク放送をするときのミックスバス音源・外部放送音声入力端子への入力・連動チャイム・マイク放送の各音源の動作は以下のようになります。

● ミックスバス音源

業務放送動作設定のミュートトリガー設定およびミュート対象設定に従って減衰します。
業務放送動作設定についての詳細は、別冊のシステム設定説明書「業務放送動作設定」をお読みください。。

● 外部放送音声入力端子

放送階を選択すると、外部放送音声入力端子*（用途が「本体マイクとミックス」)への入力音源が放送されます。外部放送音声入力端子への入力音源はチャイム、マイク放送時も中断せずに放送します。放送階選択を解除すると、放送が終了します。

* 非常用リモコンではライン音声入力端子またはマイク／ライン音声入力端子に該当します。両方の端子に音源を入力したときは、両方の音をミックスして放送されます。業務用リモコンでは、AUX 入力を使用する場合に該当します。

● 連動チャイム

- 開始チャイムの音源を設定している場合、マイクのトークスイッチを押すとチャイムが鳴ります。
  初期設定：未使用
- 本体・非常 RM 放送では、チャイムが鳴っている間、マイクに向かって話しても、その音声は放送されません。
- 開始チャイムが「未使用」に設定されているときは、トークスイッチを押すと起動チャイムを鳴らさずにすぐにマイク放送が開始します。
- 終了チャイムの音源を設定している場合、マイクのトークスイッチを離すとチャイムが鳴ります。
  初期設定：未使用

※ 業務用リモコンはトークスイッチの設定が PTT 式か LOCK 式かによって動作が異なります。
（☞ P. 48「マイク放送のしかた」、P. 55「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」）

● マイク放送

放送階が選択された状態でマイクのトークスイッチを押すと放送が開始されます。
トークスイッチを押している間、マイク放送ができます。

※ 業務用リモコンはトークスイッチの設定が PTT 式か LOCK 式かによって動作が異なります。
（☞ P. 48「マイク放送のしかた」、P. 55「業務用リモコン RM-200F、RM-200FW からの放送のしかた」）

※ 本体放送の用途と使用可能な放送音源の関係は、下表のとおりです。

［用途と使用可能な放送音源］

音源／用途	ミックスバス音源	外部放送音声入力端子	連動チャイム	マイク
非常	−	−	−	○
業務	○	○	○	○
兼用	○	○	○	○
BGM	○	−	−	−

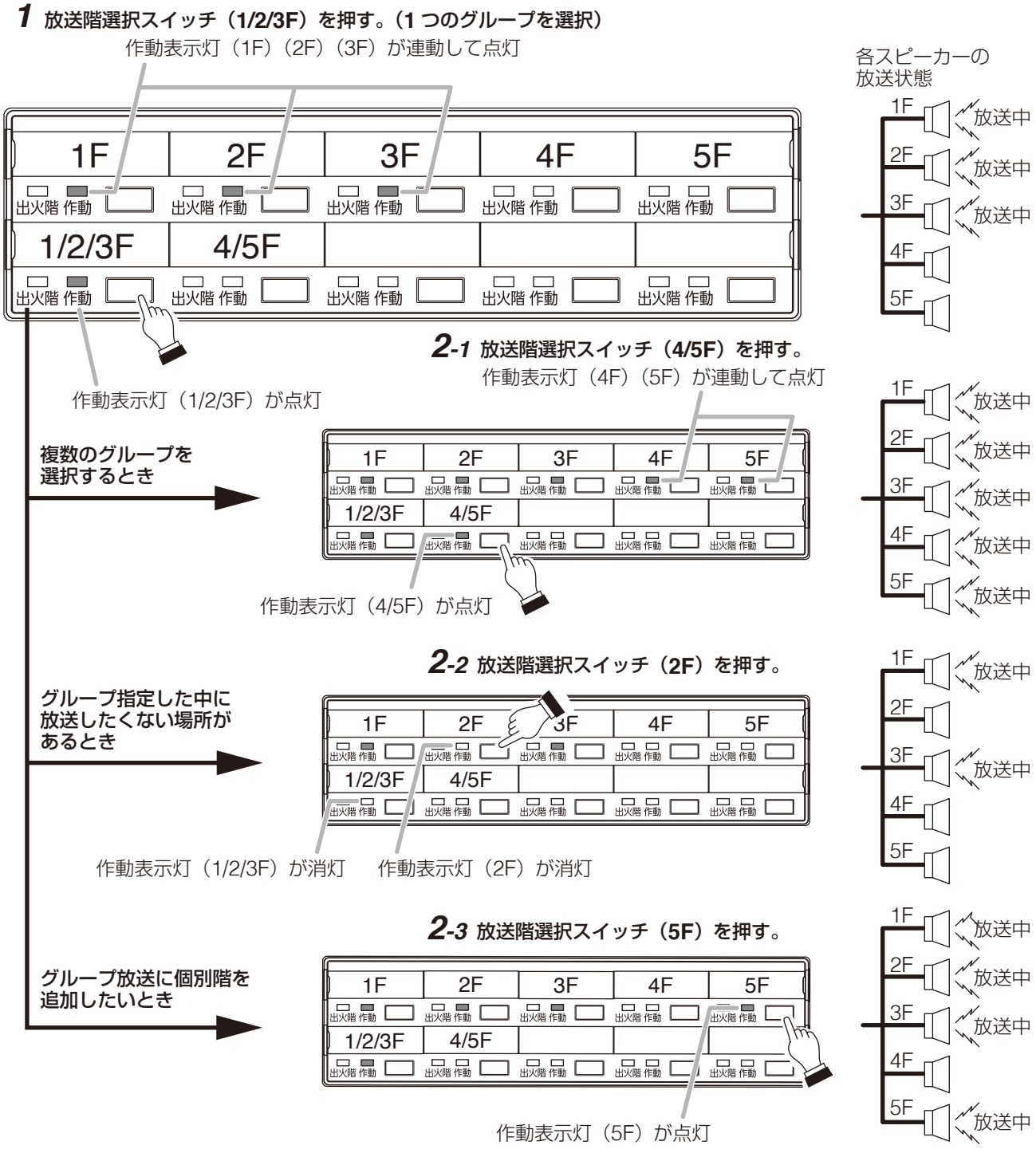
■ グループ放送（スイッチ動作設定が通常動作モードの場合）

※ スイッチ動作設定が独立制御モードの場合の動作については、別冊のシステム設定説明書をお読みください。

各放送階選択スイッチは、システム設定時に個別のスピーカー回線またはスピーカー回線のグループのどちらかを登録できます。
放送階選択スイッチにスピーカー回線のグループを登録すると、異なるスピーカー回線をひとまとめにして放送することができます。これをグループ放送と呼びます。
たとえば、売場・従業員エリアなど系統別にそれぞれ放送階選択スイッチに登録しておけば、後はワンタッチで必要な場所へ放送できます。

● 作動表示灯設定が「通常」のとき

以下の例のように、グループを登録した放送階選択スイッチを押すと、そのスイッチの作動表示灯およびグループ指定したすべての階別の作動表示灯が連動して点灯します。



● 作動表示灯設定が「回線動作中 ON」のとき

前ページの例のようなスイッチ操作以外に、本体以外の機器や制御入力などによる放送中も作動表示灯が点灯します。
その場合に点灯するのは、以下の条件に当てはまる放送階選択スイッチの作動表示灯です。

・出力回線設定が「個別」で、回線番号に放送中のスピーカー回線が登録されているスイッチ
・出力回線設定が「グループ」で、そのグループに割り当てられている回線がすべて放送中のスイッチ

■ 液晶画面での業務放送状態表示

液晶画面の表示状態は、設定により異なります。

●「放送ガイド」設定時の表示

① 本機から 1 回線以上に放送しているときに「本機放送中」と表示し、本機で階選択を行っているが、優先度が低いため全回線に放送できていないときに「階選択中」と表示します。
② 業務緊急モードのときに「緊急」と表示します。
③「業務放送中」と表示します。
④ チャイム鳴動時に「♫」と表示します。
⑤ モニターしている系統を表示します。
⑥ 現在放送できている以下の業務放送を表示します。
　非常 RM 放送、業務 RM 放送、PM 入力放送、EV 放送、BGM、接点式 RM 放送
⑦ 本体放送をしているときのみ、放送終了のガイド表示をします。

（例：本体放送、本機作動のみ）

（例：本体放送、業務緊急モード、本機作動のみ）

（例：チャイム鳴動時）

（例：PM 入力放送、他機作動中）

●「マトリクス」設定時の表示

業務放送時には、以下の各放送の放送状態が液晶画面に表示されます。

本体放送、外部放送、非常 RM、業務 RM、EV 放送 1 ～ 3、PM1-1 ～ 8、PM2-1 ～ 8、PM3-1 ～ 8

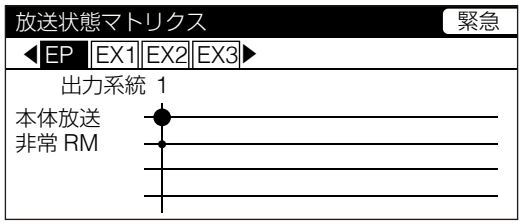
上下シフトキーで画面を切り換えて各放送の出力先を確認できます。

アンプへの出力に対して、現在放送中の放送が●で表示され、優先度により保留されている放送は●で表示されます。

また、業務緊急モードで行われている放送があれば、画面右上に「緊急」の表示が出ます。

本体構成で FS-2500EX が接続されているときは、左右シフトキーで EP、EX1、EX2、EX3 を切り換えて、それぞれの音声出力の状態を確認できます。

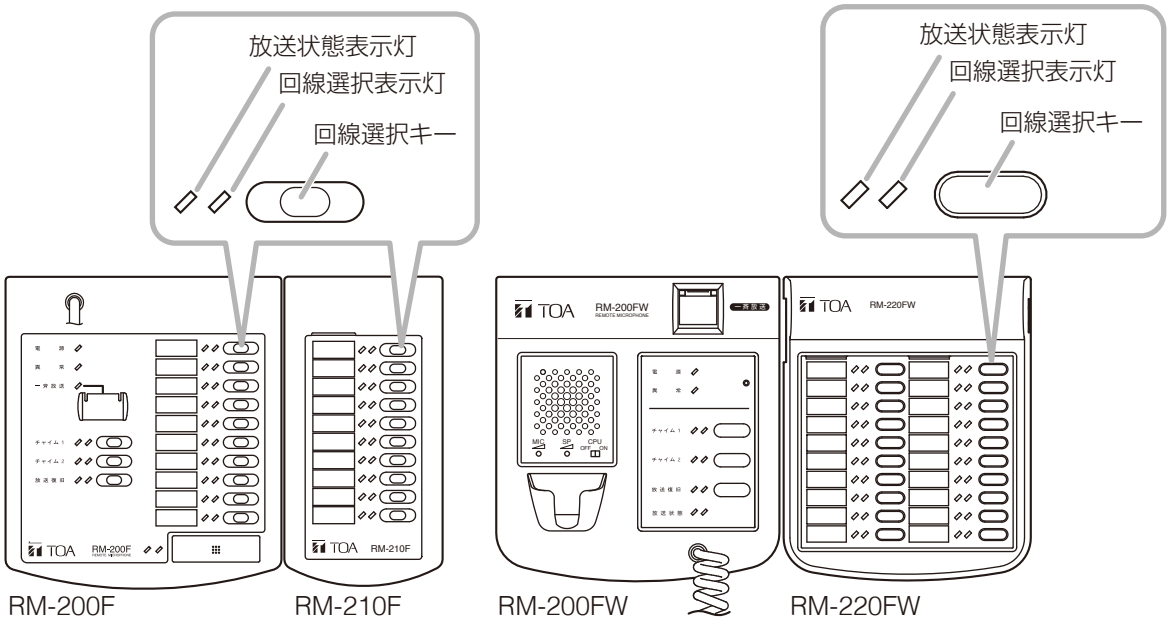
（例：本体放送が放送中、非常 RM 放送が保留中）



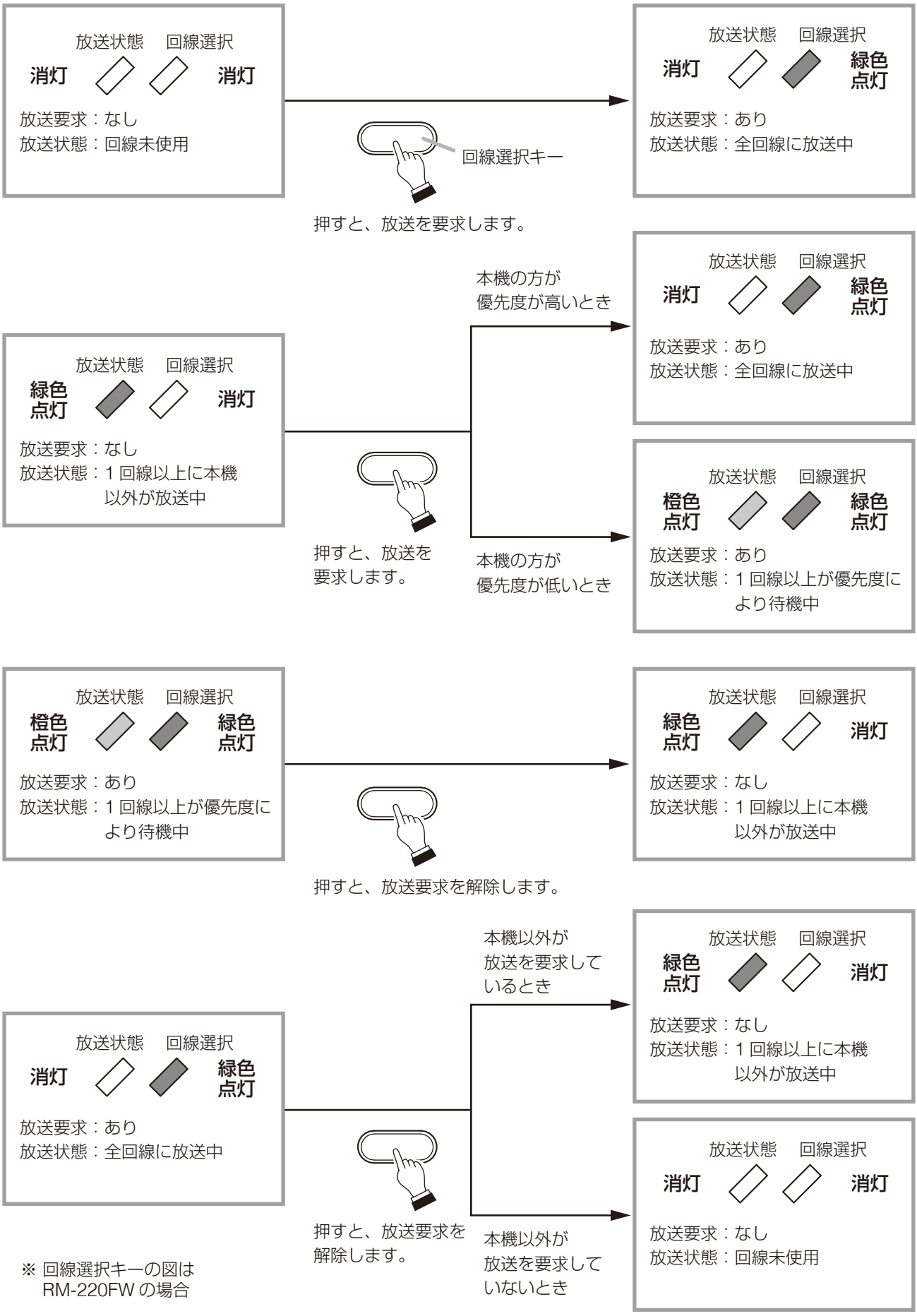
■ 業務用リモコンの放送状態の表示（RM-200F/210F/200FW/220FWの場合）

● 回線選択キーに登録された回線の放送状態の表示

RM-200F/210F/200FW/220FW の回線選択キーの放送状態表示灯および回線選択表示灯の状態で、登録されている回線の放送状態が分かります。



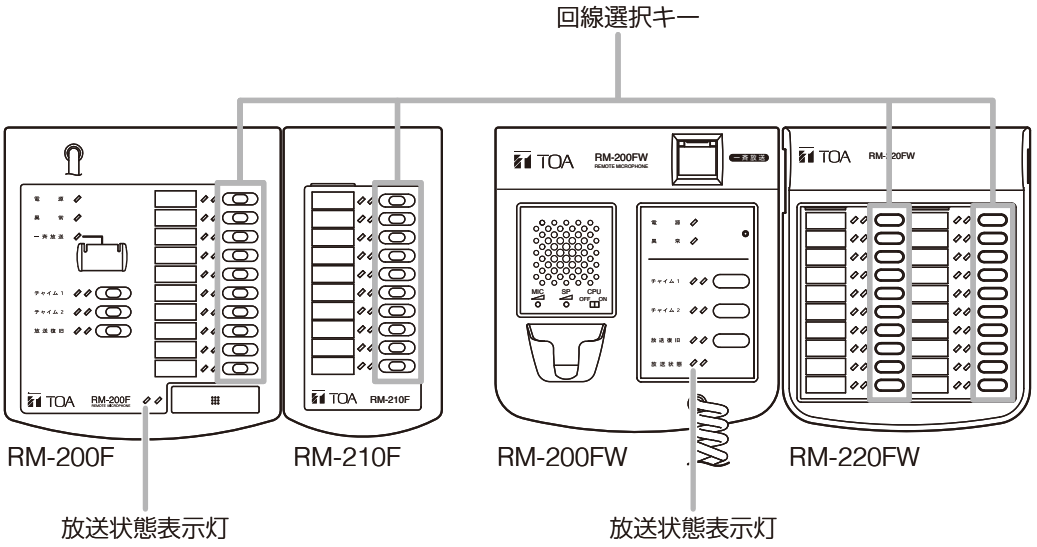
上図に示す放送状態表示灯および回線選択表示灯の各状態において、回線選択キーを押したときの動作は次のようになります。



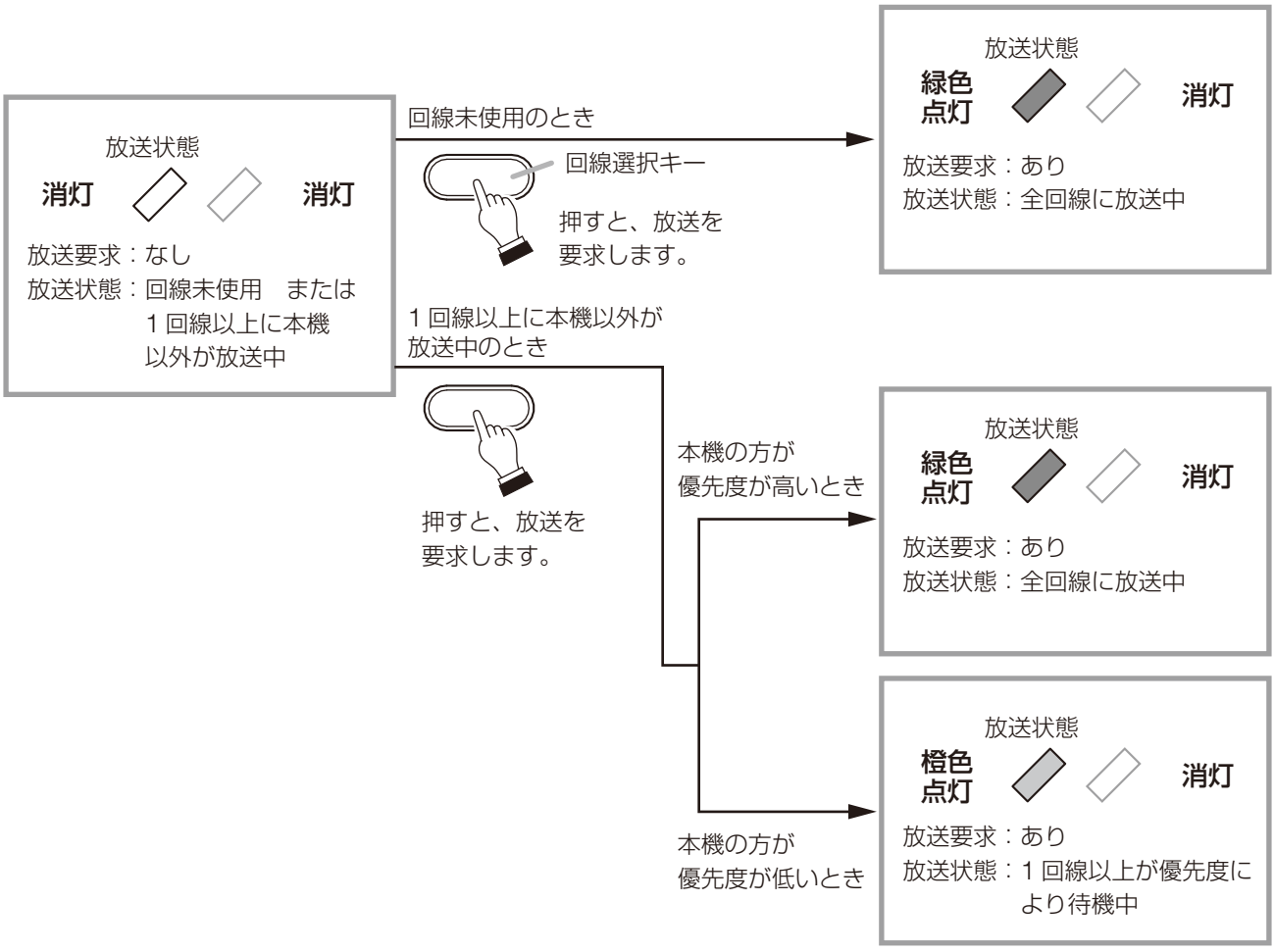
※ 回線選択キーの図は
RM-220FW の場合

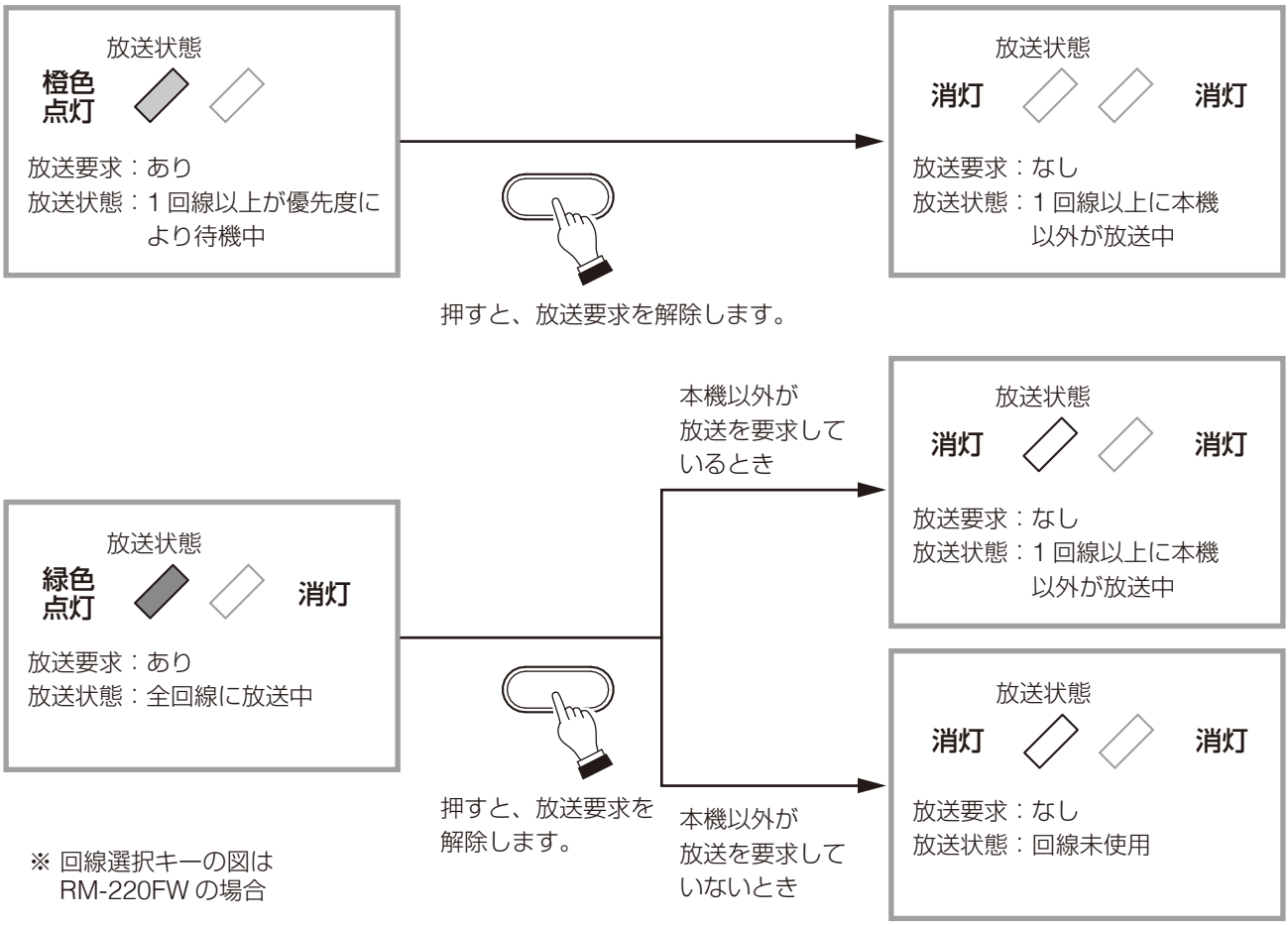
● 本機で選択した回線の放送状態の表示

RM-200F/200FW の放送状態表示灯の状態で、本機の放送状態が分かります。



上図に示す放送状態表示灯の各状態において、回線選択キーを押したときの動作は次のようになります。





■ 通常放送モードと業務緊急モード

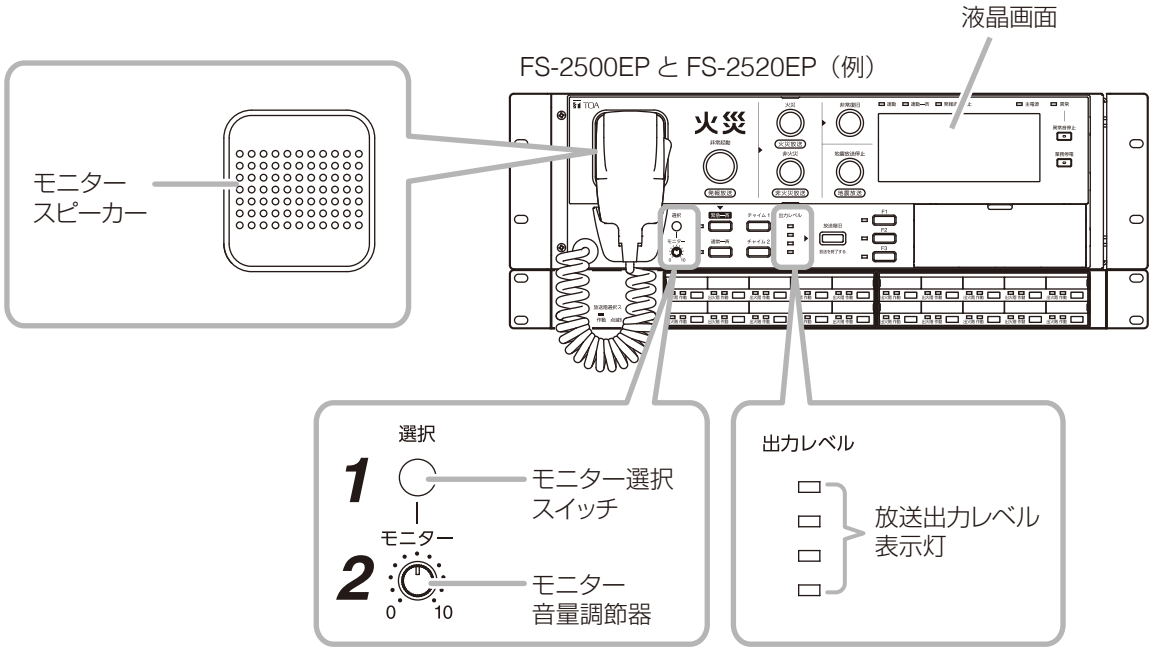
スピーカー回線へ放送を出力するモードは、通常放送モードと業務緊急モードの 2 種類があります。

通常放送モード（業務緊急なし）：出力回線の N 線に信号が出力されます。
アッテネーターによる音量調節ができます。
業務緊急モード（業務緊急あり）：出力回線の N 線、R 線ともに信号が出力されます。
アッテネーターの設定に関係なく、最大音量で放送が行われます。

各放送階選択スイッチは、システム設定時に「通常放送モード」または「業務緊急モード」のどちらかに設定されています。

■ 放送モニター機能

本体操作部のモニター選択スイッチを操作して、現在流れている放送をモニターすることができます。



1 （出力系統が複数ある場合のみ）モニターする出力系統を選択する。

出力系統が複数ある場合は、モニター選択スイッチを押すごとに、モニターする出力系統が切り換わり、選択中の出力系統*が液晶画面に表示されます。表示は約 3 秒後に消えます。

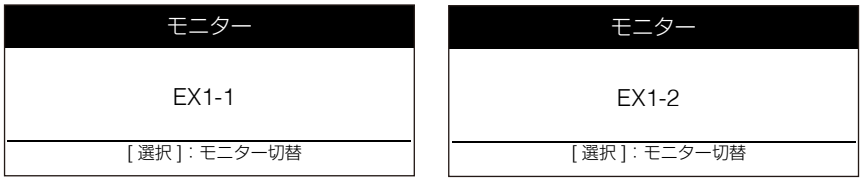
*「EP」は非常用操作パネル FS-2500EP、「EX」は非常系統拡張パネル FS-2500EX を表します。
非常系統拡張パネルはシステム構成に応じて表示されます。例えば「EX1-1」は 1 台目（アドレススイッチの設定が「00」）の非常系統拡張パネルの出力系統 1 を表します。

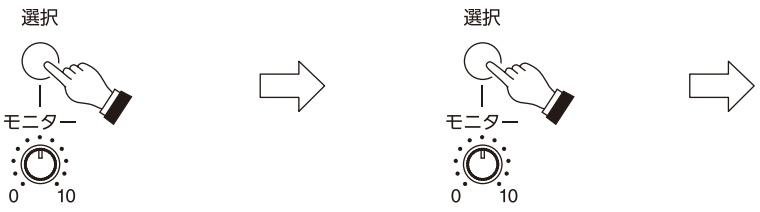
メ　モ

- モニター対象は、本体と非常 RM で共通です。どちらかがモニター対象を変更すると、もう一方も変更されます。
- 非常系統拡張パネルが接続されていない場合は、選択スイッチを押しても、表示は切り換わりません。

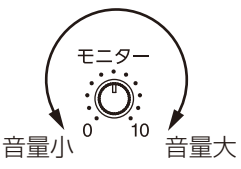
（本体放送時の表示例）

（出力系統が複数ある場合の表示例）





2 モニター音量調節器で音量を調節する。



ご注意

- 非常放送時および緊急地震放送時は、音量調節器の位置に関係なく最大音量になります。
- ハウリング防止のため、マイク放送中はモニタースピーカーからの出力は停止します。

業務停電放送

■ 業務停電放送とは

業務停電放送とは、常用電源が停電のときに行う業務放送のことです。
業務停電放送をするには、業務用途に設定した非常用電源パネル FS-2006DS/2500DS が必要です。

■ 業務停電放送のしかた

停電時に業務放送を起動する方法は次の 5 通りがあります。

① 非常用操作パネル FS-2500EP の業務停電放送起動スイッチによる起動
② 非常用操作パネル FS-2500EP のファンクションスイッチによる起動
③ 非常用リモコンパネルの業務停電放送起動スイッチによる起動
④ 非常用リモコンパネルのファンクションスイッチまたは緊急放送スイッチによる起動
⑤ 外部機器*からの制御入力による起動
　* タイマー、電話ページング、接点式リモコン、外部マイクなど

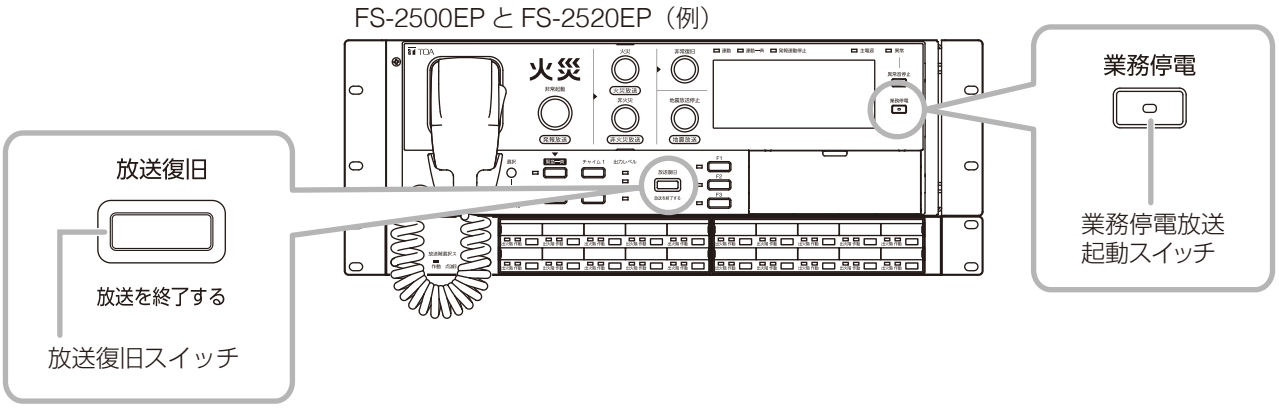
ご注意

業務停電放送を行うにはあらかじめ設定が必要です。設定のしかたは、別冊の設置説明書「業務停電放送を行うときの接続と設定」をお読みください。

メ　モ

業務放送中に常用電源が停電したときは、自動的に業務停電放送状態に切り換わり、放送が継続されます。
業務停電放送中に常用電源の電源供給が再開されたときにも、自動的に電源が切り換わり、放送が継続されます。

● 非常用操作パネルまたは非常用リモコンの業務停電放送起動スイッチによる起動



1 **非常用操作パネルまたは非常用リモコンの業務停電放送起動スイッチを押す。**
システムが停電待機状態から立ち上がります。

2 **通常の業務放送と同様の操作で放送する。**

ご注意

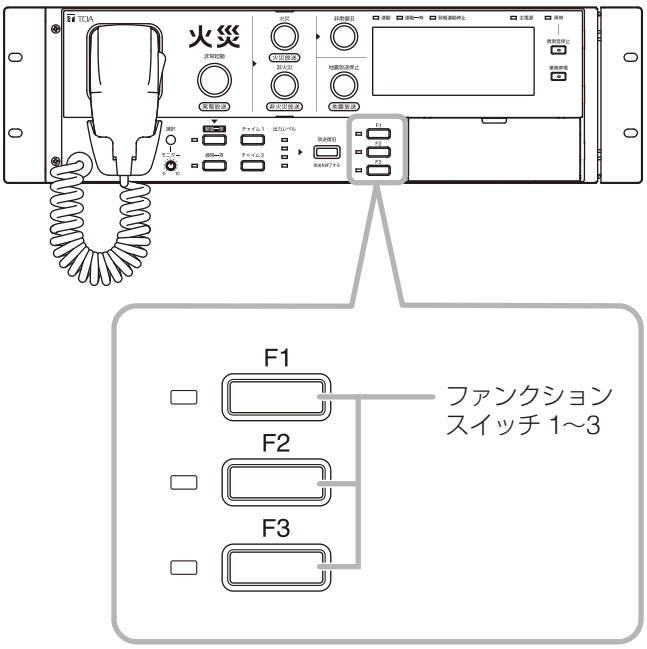
業務停電放送起動スイッチを押してから、しばらく放送の操作がないときは、自動的に停電待機状態に戻ります。

3 **すべての放送が終了したら放送復旧スイッチを押す。**
システムが停電待機状態に戻ります。

● 非常用操作パネルまたは非常用リモコンのファンクションスイッチや非常用リモコンの緊急放送スイッチによる起動

業務停電放送が行えるように設定されているときは、停電時も EV 放送が行えます。
非常用操作パネルまたは非常用リモコンのファンクションスイッチや非常用リモコンの緊急放送スイッチを押すと、あらかじめ登録したメッセージを、設定した放送階へ放送することができます。（☞ P. 45「EV 放送のしかた」）
放送が終了すると、システムは自動的に停電待機状態に戻ります。

FS-2500EP（操作部）



※ この操作を行うにはファンクションスイッチの設定が必要です。（☞ 別冊のシステム設定説明書「ファンクション SW 設定」）
※ 業務停電放送として制御入力から EV 放送を行う場合は、業務停電放送を起動可能な制御入力に機能を割り当てる必要があります。（☞ 下記「外部機器からの制御入力による起動」）

● 外部機器からの制御入力による起動

業務停電放送が行えるように設定されているときは、FS-2500EP の外部放送制御入力端子または FS-2500PM の制御入力端子をメイクすることで停電時に業務放送を起動することができます。
端子がブレイクされると放送が終了し、待機状態に戻ります。放送終了時チャイムを設定しているときは、チャイムが鳴り終わってから待機状態に戻ります。

メ　モ

接点式リモコンを使用する場合
　チャイム接点をメイクすると FS-2500 が起動します。チャイム接点をメイクしてから約 10 秒以内に回線を選択してください。放送終了時は、回線選択を解除すると、自動的に待機状態に戻ります。

緊急地震放送

緊急地震速報受信端末と連動して、設定した階に自動で緊急地震放送をすることができます。
停電時も非常電源での放送が可能です。
緊急地震放送は FS-2500 システムで最優先の放送であり、この放送を行っている間は非常放送や業務放送は行えません。

■ 緊急地震放送の流れ

1 緊急地震速報受信端末が緊急地震速報を受信。

FS-2500 本体の緊急地震放送接点入力端子がメイクされます。

2 チャイム音が 2 回鳴り、緊急地震放送が流れる。

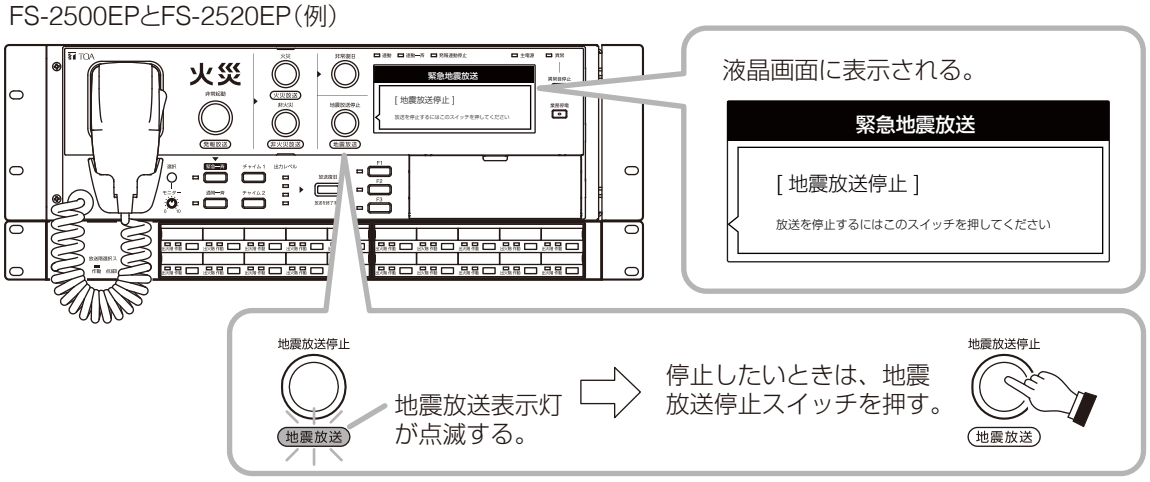
音声メッセージ：「地震です。落ち着いて身を守ってください。」（男声）
放送階　　：あらかじめ設定した階すべて（☞ 別冊のシステム設定説明書「制御入力設定」）

FS-2500EP および非常用リモコンの地震放送表示灯が点滅し、液晶画面に緊急地震放送を放送中の表示が出ます。

メ　モ

緊急地震放送を停止したいときは、非常用操作パネルまたは非常用リモコンの地震放送停止スイッチを押してください。

FS-2500EPとFS-2520EP（例）



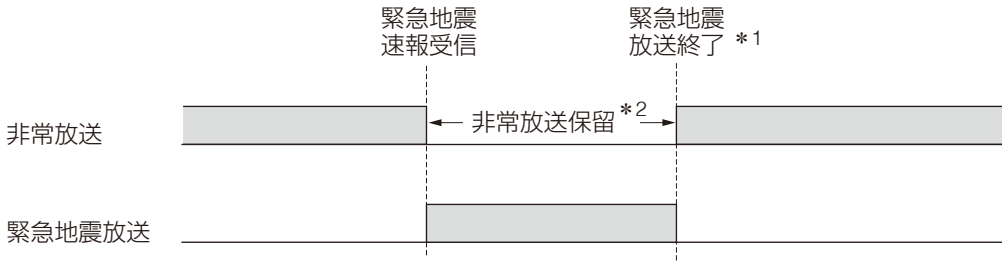
3 放送を終了。

音声メッセージの再生が終了するか、地震放送停止スイッチを押すと、緊急地震放送が終了します。
緊急地震放送によって中断・保留となっていた放送があれば再開します。

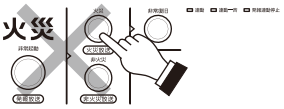
■ 緊急地震放送をするときの非常放送の動作

緊急地震放送は非常放送よりも優先して放送されます。緊急地震放送の放送時間は約 15 秒です。
非常放送中に緊急地震速報を受信したとき、または緊急地震放送中に非常放送起動入力があったときの動作は以下のとおりです。

● 非常放送中に緊急地震速報を受信したとき

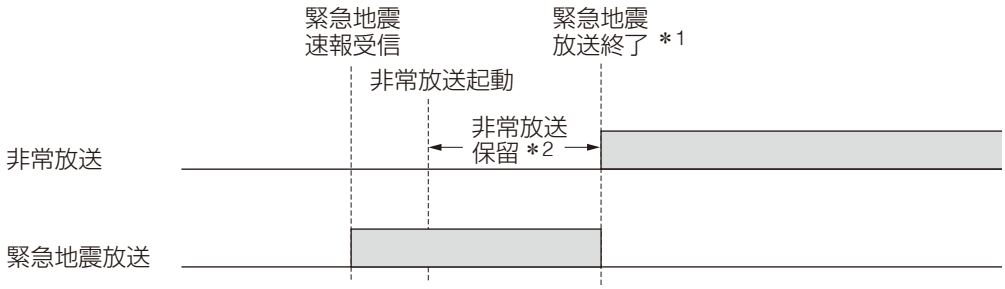


*1 メッセージの終了または地震放送停止スイッチの操作
*2 非常放送に関わる各種スイッチの操作は無効

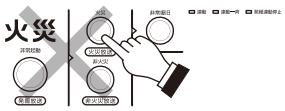


非常放送中に緊急地震速報を受信した場合は、非常放送が中断され、緊急地震放送に切り換わります。
非常放送中断中に、非常放送に関わる各種スイッチ（火災放送スイッチ、非火災放送スイッチなど）の操作をしても無効となります。ただし、火災確認信号または階別信号を受信したときは、放送待機状態となり、関連する表示灯は点灯します。
緊急地震放送が終了すると、自動で非常放送状態に戻ります。
非常放送を優先して行いたいときは、地震放送停止スイッチを押して緊急地震放送を終了する必要があります。
マイク放送中に緊急地震速報を受信をしたときは、トークスイッチのオン／オフ状態に関わらずオフしたものとして扱われます。

● 緊急地震放送中に非常放送起動入力があったとき



*1 メッセージの終了または地震放送停止スイッチの操作
*2 非常放送に関わる各種スイッチの操作は無効



緊急地震放送中に非常放送が起動した場合、緊急地震放送が優先され、非常放送は保留されます。
この間、非常放送に関わる各種スイッチ（火災放送スイッチ、非火災放送スイッチなど）の操作をしても無効となります。ただし、非常起動スイッチについては、放送待機状態となり、火災表示灯は点灯します。
緊急地震放送が終了すると、保留していた非常放送が開始されます。
非常放送を優先して行いたいときは、地震放送停止スイッチを押して緊急地震放送を終了させます。

日常点検

重　要

万一のときに機器が正常に動作するように、点検を必ず実施してください。
異常が発生したときは、直ちに販売店または保守契約店にご連絡ください。

ご注意

蓄電池の寿命は 4 年です。使用状態に関わらず、これを過ぎると停電中の放送に問題を起こす恐れがあります。
点検時のエラー発生によらず、速やかに販売店または保守契約店へ連絡してください。
蓄電池の交換およびリサイクルについては「ニカド電池の交換について」（☞ P. 82）、「ニカド電池のリサイクルについて」（☞ P. 5）をお読みください。

■ 自動点検

FS-2500 システムは自動点検を行います。
自動点検は、定期点検、常時監視の 2 通りの方法で行われます。

● 定期点検

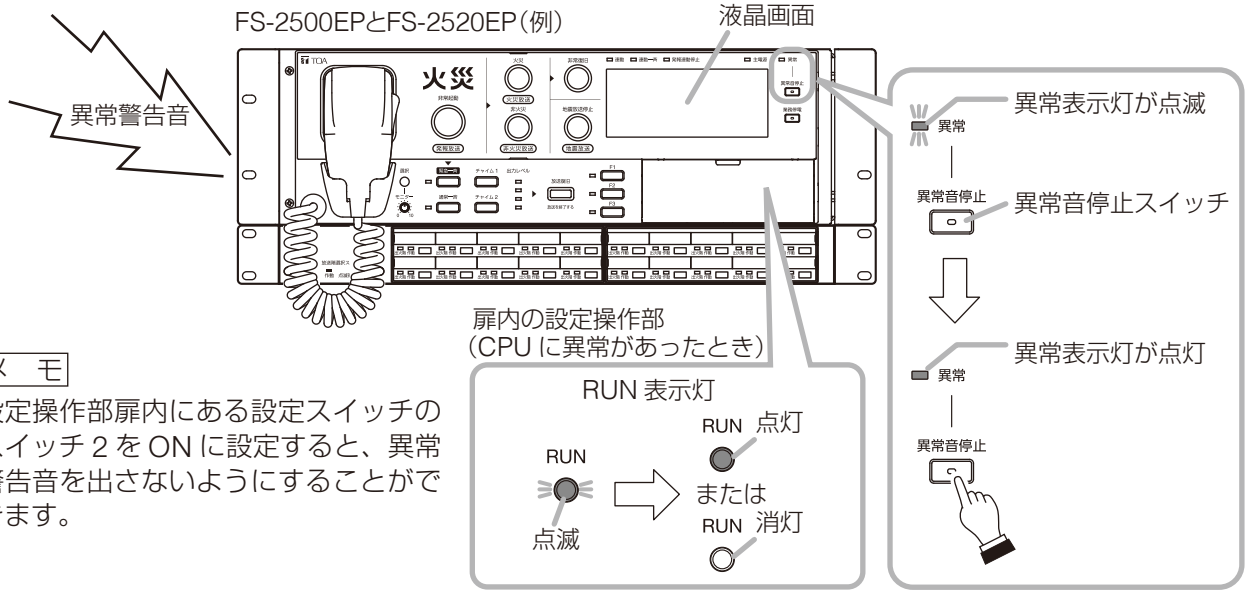
1 日 1 回、あらかじめ設定した時刻に行われます。（☞ 別冊のシステム設定説明書「自己診断」）
ただし、定期点検を設定した時刻に放送中の場合は、放送終了後に定期点検が実施されます。

● 常時監視

スピーカー回線の短絡などは、常に異常検出を行っています。
※ スピーカー回線の短絡は、放送時のみ検出します。

● 異常を検出したとき

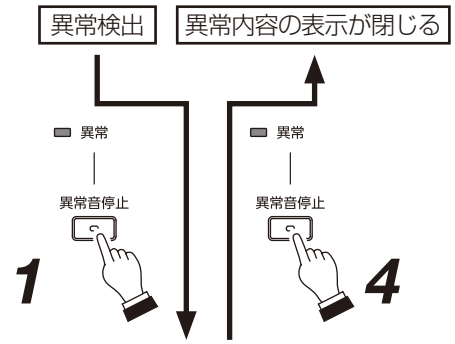
異常を検出したときは、非常用操作パネルまたは非常用リモコンの異常表示灯が点滅し、異常警告音が鳴ります。
CPU に異常があったときは、RUN 表示灯が点灯または消灯し続けます。
スピーカー回線に短絡などの異常が発生したときは、異常のある回線のみを切り離します。
異常警告音を停止させるには、異常音停止スイッチを押します。
異常音停止スイッチを押すと、異常表示灯の点滅が停止し、液晶画面に異常の内容が表示されます。（☞ 次ページ）



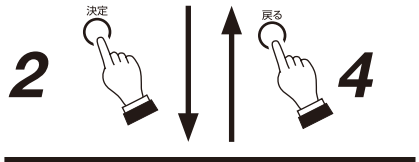
メ　モ

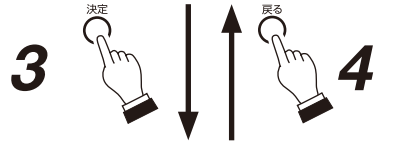
設定操作部扉内にある設定スイッチのスイッチ 2 を ON に設定すると、異常警告音を出さないようにすることができます。

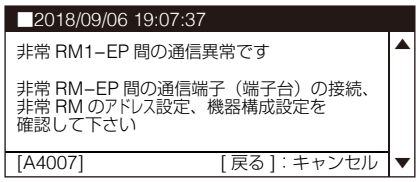
[異常検出時の操作の流れ]



（異常検出時の画面例）





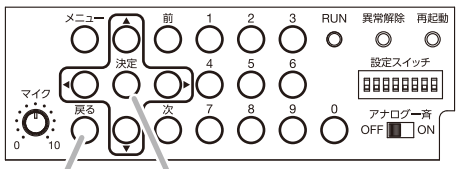


1 異常検出時に異常音停止スイッチを押す。

液晶画面に最新の異常の内容と場所が表示されます。

2 詳細を確認したいときは、液晶画面下の扉を開き、設定操作部にある決定キーを押す。

FS-2500EP 設定操作部



戻るキー　決定キー

液晶画面に故障履歴が表示されます。

3 もう一度決定キーを押す。

故障内容の詳細が表示されます。

4 異常内容の表示を閉じるには、戻るキーを 2 回押してから、異常音停止スイッチを押す。

異常内容の表示が閉じます。

メ　モ

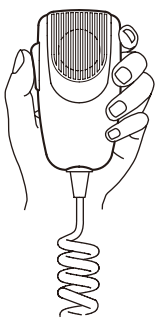
異常検出時の画面に戻らないと、異常音停止スイッチを押しても異常内容の表示は閉じません。

● 異常表示中に放送したいとき

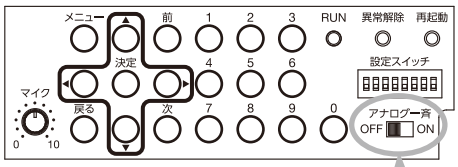
CPU 異常があった場合、アナログ一斉放送切換スイッチを ON 側にすることで、マイクによる一斉放送ができます。

ご注意

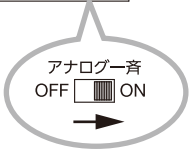
パワーアンプの故障やスピーカー回線の短絡など、異常によっては放送がされないエリアがあります。
また、マイク異常のときは、マイク放送はできません。
非常時には他の手段による情報伝達が必要となります。



FS-2500EP（設定操作部）



アナログ一斉放送
切換スイッチ



■ 手動点検

本機を操作して手動で点検をすることができます。
電源の点検、自己診断機能を使った点検が行えます。

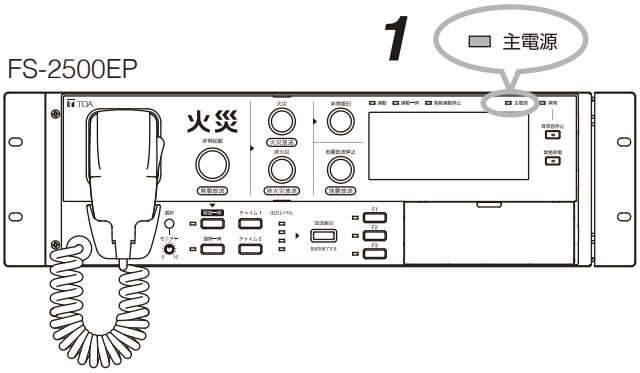
● 電源の点検のしかた

非常用電源パネル FS-2006DS/2500DS の表示灯、点検スイッチを使って、電源の点検をすることができます。
電源パネルを複数台使用しているときは、各電源パネルの点検スイッチを押して、すべての電源パネルに対して点検を行ってください。

[点検のしかた]

1 非常用操作パネル FS-2500EP の主電源電圧を確認する。

主電源表示灯が点灯していることを確認します。



2 非常用電源パネル FS-2006DS/2500DS で主回路電源電圧を確認する。

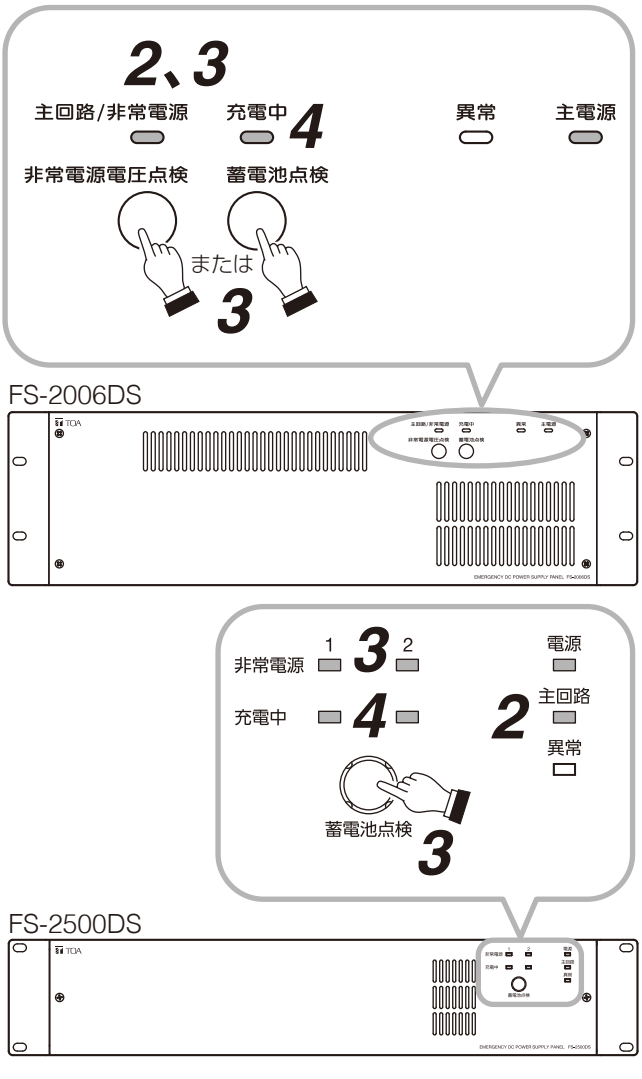
以下の表示灯が点灯していることを確認します。
FS-2006DS の場合：主回路／非常電源表示灯
FS-2500DS の場合：主回路表示灯

※ どのスイッチも押さないでください。

3 非常電源の出力電圧を確認する。

ご注意

- 蓄電池の電圧点検は、1 回あたり 10 秒以内、1 日 2 回までとしてください。これより多く蓄電池点検スイッチを押すと、蓄電池が消耗し、非常時に動作しなくなる可能性があります。
- 蓄電池の電圧点検から次の点検までに 10 分以上の間隔を空けてください。



3-1 非常用電源パネルが FS-2006DS の場合

蓄電池点検スイッチ*1 または非常電源電圧点検スイッチ*2 を押して、主回路／非常電源表示灯が点灯していることを確認します。

3-2 非常用電源パネルが FS-2500DS の場合

蓄電池点検スイッチ*1 を押して、非常電源表示灯が点灯していることを確認します。

4 充電がされていることを確認する。

充電中表示灯が点灯し、蓄電池に充電が行われていることを確認します。

*1 **蓄電池点検スイッチによる点検**

表示灯の状態	蓄電池の出力電圧の状態
点灯	正常
点滅	電圧が低下（正常動作は可能）
消灯	異常

- 蓄電池点検スイッチを押したときは、蓄電池を放電させ実際の使用に近い状態で蓄電池の点検を行うことができます。点検中の蓄電池の出力電圧の状態は、右表のように主回路／非常電源表示灯に表示されます。
- 24 時間ごとの蓄電池の自動点検もこの方法で行われます。
- この方法による点検は放電により蓄電池を消耗させるため、頻繁に行うと停電時に非常放送が行えなくなることがあります。また、停電中は非常放送の開始に備えて蓄電池の消耗を防ぐために、蓄電池点検スイッチを押しても点検は行われません。

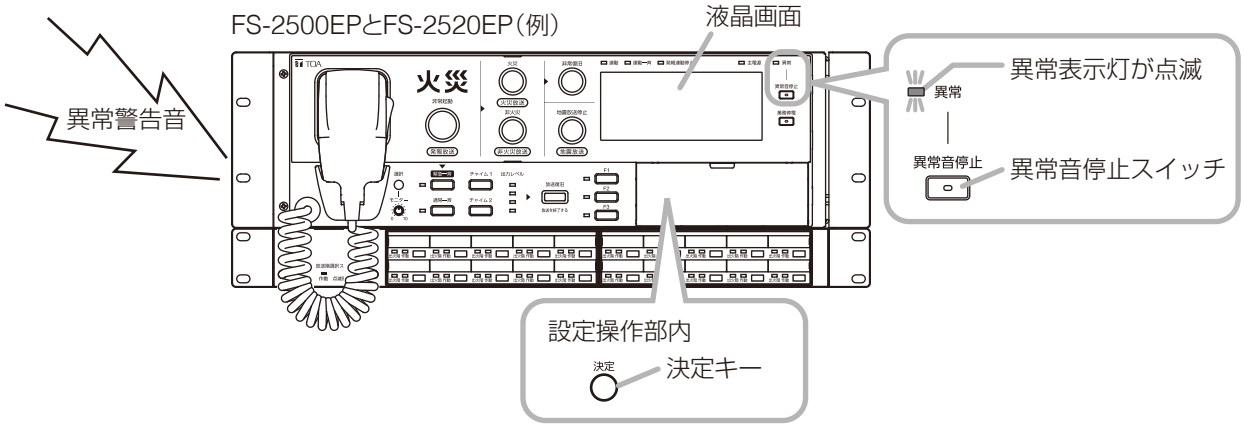
*2 **非常電源電圧点検スイッチによる点検（FS-2006DS のみ）**

表示灯の状態	蓄電池の出力電圧の状態
点灯	正常
点滅	電圧が低下（正常動作は可能）
消灯	異常

- 非常電源電圧点検スイッチを押したときは、蓄電池の出力電圧を点検することができます。点検中の蓄電池の出力電圧の状態は、右表のように主回路／非常電源表示灯に表示されます。
- 蓄電池を放電させないため、この点検は頻繁に行っても蓄電池の充電状態はほとんど変化しません。
- 蓄電池は放電を開始したときに出力電圧が急激に低下することもあるため、蓄電池を放電させないこの方法による点検結果は参考値です。

[異常があったとき]

- 点検の結果異常があったときは、異常表示灯が点滅し、異常警告音が鳴って異常の内容を液晶画面に表示します。



- 異常警告音を停止させるには、異常音停止スイッチを押します。
- 異常音停止スイッチを押すと、液晶画面に最新の異常の内容と場所が表示されます。
- 異常の詳細を確認するには、設定操作部内の決定キーを押します。故障履歴が表示されますので、もう一度決定キーを押すと、故障の詳細が表示されます。
- もう一度異常音停止スイッチを押すと、異常表示画面が閉じます。

● 自己診断機能を使った点検

液晶画面でメニューを選択して点検します。
点検のしかたは、別冊のシステム設定説明書「自己診断」をお読みください。

ニカド電池の交換について

⚠注意

- ニカド電池を、ショート・分解・加熱・火の中に入れるなどしないでください。
- 取り出したニカド電池は、ショート防止のために、端子に絶縁テープを貼るなどの対策を行ってください。
- FS-2006DS のニカド電池を交換するときは、**NDC-2418** をご使用ください。
- FS-2500DS のニカド電池を交換するときは、同じ品番のニカド電池に交換してください。

Ni-Cd

ニカド電池のリサイクルにご協力ください

使用済みのニカド電池は、捨てないで、お買い上げの販売店または当社営業所へ返却してください。

非常用電源パネル FS-2006DS および FS-2500DS のニカド電池は定期的に交換してください。

ご注意

- ニカド電池の寿命は標準で約 4 年です。これを過ぎると停電中の放送に問題を起こす恐れがあります。点検時のエラー発生の有無に関わらず、4 年ごとに蓄電池を交換してください。また、設置環境によっては、これより短期間で寿命となる場合もあります。点検時にエラーが発生した場合は、速やかに蓄電池を交換してください。
- ニカド電池の交換時に電源を遮断した場合は、必ず別冊の設置説明書に記載の「電源投入」の手順に従って電源を入れてください。

1 **前面パネル取付ねじを緩めて、前面パネルを取り外す。**

2 **ニカド電池のコネクターを抜く。**

ご注意

FS-2500DS の場合、再接続時に元どおり接続できるよう、ニカド電池の品番と接続先の蓄電池コネクター番号を記録しておいてください。

3 **蓄電池収納部からニカド電池を抜き取る。**

4 **指定の新しいニカド電池を挿入し、接続する。**

ニカド電池のケーブルにストレスがかからないよう、ケーブル取付部の位置に注意して挿入してください。

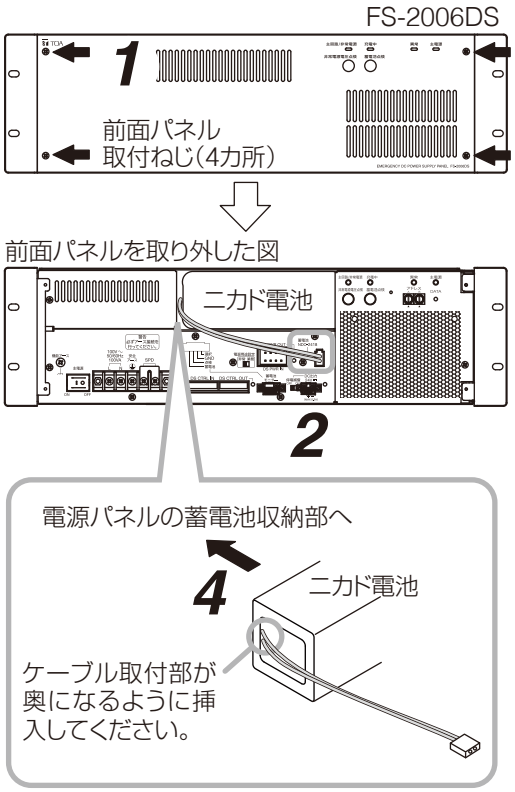
ご注意

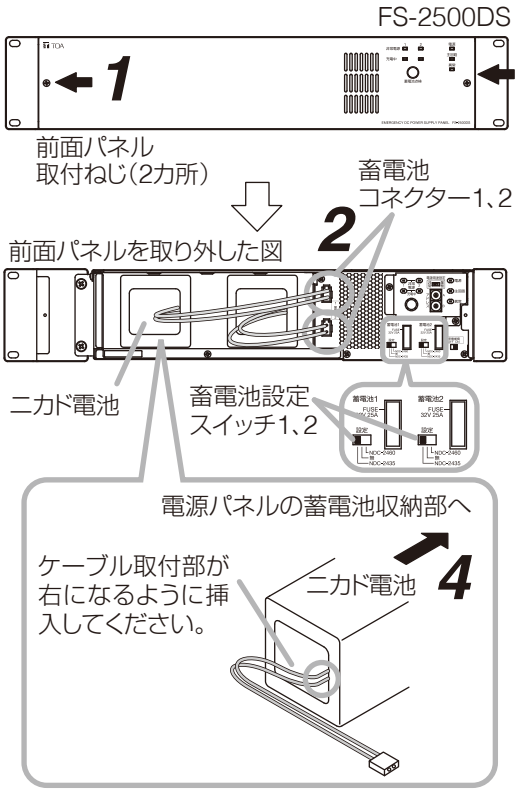
FS-2500DS の蓄電池設定スイッチ 1、2 の設定は、設置時以降変更しないでください。
また、蓄電池コネクター1、2へは元どおり接続してください。

5 **前面パネルを元どおりに取り付ける。**

ご注意

前面パネルでニカド電池のケーブルをはさみ込まないように注意してください。





非常放送用語

い

一斉移行タイマー

火災放送開始時または火災放送移行タイマーのタイムアップ時にスタートし、自動的に一斉火災放送を開始させるタイマーです。
（☞ P. 30「火災放送移行タイマーと一斉移行タイマー」）

か

火災確認信号

非常用放送設備に火災放送を行わせる信号です。火災確認時に自火報から信号が送られます。
（☞ P. 31「非常放送のしかた」）

火災放送

火災が発生したことを館内に知らせる放送です。
（☞ P. 39「音声メッセージの一覧」）

火災放送移行タイマー

発報放送開始時または火災音信号鳴動開始時にスタートし、自動的に火災放送を開始させるタイマーです。
（☞ P. 30「火災放送移行タイマーと一斉移行タイマー」）

火災モード

手動起動、非常電話・発信機が起動したときに、感知器発報放送なしに、すぐ火災放送をするモードです。システム設定時に発報モードか火災モードかを選びます。
（☞ P. 28「非常放送の動作モード」）

感知器

熱や煙などを感知して信号を送る装置です。感知器が作動すると、受信機を通して非常用放送設備に信号が送られ、非常放送を起動します。
（☞ P. 32「自火報感知器起動の場合」）

感知器発報放送

感知器などが作動したときに、火災の発生を確認中であることを知らせる放送です。
（☞ P. 39「音声メッセージの一覧」）

じ

自動火災報知設備

略称：自火報。火災による煙などを感知して館内に火災を知らせる設備です。発信機や感知器、受信機などで構成されます。
（☞ P. 31「非常放送のしかた」）

受信機

感知器や発信機からの信号を受信して、火災の発生を防火管理者に知らせる装置です。受信機を通して非常用放送設備に信号が送られ、非常放送を起動します。
（☞ P. 31「非常放送のしかた」）

は

発信機（押しボタン）

火災が発生したときに、火災を知らせる起動装置の 1 つです。ボタンを押すと、受信機を通して非常用放送設備に信号が送られ、非常放送を起動します。
（☞ P. 34「非常電話・発信機起動の場合」）

発報モード

手動起動、非常電話・発信機が起動したときに、まず感知器発報放送がされ、その後に火災放送をするモードです。システム設定時に発報モードか火災モードかを選びます。
（☞ P. 28「非常放送の動作モード」）

発報連動停止モード　自火報感知器が起動したときに、感知器発報放送がされないモードです。本機の操作者には現場の確認を指示する音声ガイドメッセージをモニタースピーカーから知らせます。このモードで使用するには所轄の消防署の承認が必要です。システム設定時に発報連動モードか発報連動停止モードかを選びます。
（☞ P. 28「非常放送の動作モード」）

発報連動モード　自火報感知器が起動したときに、館内に感知器発報放送をするモードです。システム設定時に発報連動モードか発報連動停止モードかを選びます。
（☞ P. 28「非常放送の動作モード」）

ひ

非火災報放送　現場を確認後、火災の発生がなかったことを館内に知らせる放送です。
（☞ P. 39「音声メッセージの一覧」）

非常電源　常用電源が停電したときでも非常放送や緊急地震放送を行うための電源です。本システムの非常用電源パネルにニカド電池が内蔵されています。ニカド電池は 4 年で交換してください。
（☞ P. 82「ニカド電池の交換について」）

非常電話　火災が発生したときに、火災を知らせる起動装置の 1 つです。非常電話機（子機）を取り上げることで操作部（親機）を通して非常用放送設備に信号が送られ、非常放送を起動します。
（☞ P. 34「非常電話・発信機起動の場合」）

れ

連動一斉モード　自火報感知器または非常電話・発信機が起動したときに、すべての階に非常放送をするモードです。システム設定時に連動モードか連動一斉モードかを選択します。
（☞ P. 28「非常放送の動作モード」）

連動モード　自火報感知器または非常電話･発信機が起動したときに、出火階（起動のあった階）とその直上階に非常放送をするモードです。システム設定時に連動モードか連動一斉モードかを選択します。
（☞ P. 28「非常放送の動作モード」）

商品に関するお問い合わせ

お客様相談センター
受付 9:00～17:00
（土日、祝日除く）

固定電話 **0120-108-117**
携　帯 **0570-064-475**（有料）
F A X **0570-017-108**（有料）
IP電話はご利用いただけません。

個人情報の取扱方針は、弊社ホームページをご覧ください。（https://www.toa.co.jp/privacy.htm）

価格･在庫･修理･カタログに関するお問い合わせ

取扱店または営業所へご連絡ください。
最寄り営業所は TOA ホームページでご確認ください。
（https://www.toa.co.jp/）

TOA 株式会社

133-02-00546-04